

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2018



独立行政法人 労働者健康安全機構

熊本労災病院

理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

1. 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
2. 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
3. いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
4. 人にやさしく優れた医療人を育成します。
5. 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。



患者の権利と責務

【患者の権利】

1. 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
2. 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。
また、分からないことがあれば質問をすることができます。
3. 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。
また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます（セカンドオピニオン）。
4. 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
5. 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【患者の責務】

1. 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
2. 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務／CONTENTS	1
---------------------------------	---

■ 病院運営状況

院長 猪股裕紀洋	4
----------------	---

■ 病院概要

病院概要	8	アクセス	11
病院行事	9	院内のご案内	12
研修・セミナー	10		

■ 各診療科・各部紹介

呼吸器内科	16	産婦人科	46
消化器内科	19	耳鼻咽喉科	48
脳神経内科	21	眼科	51
糖尿病・代謝内科	22	麻酔科	52
精神科	24	放射線科	53
循環器内科	25	病理診断科	55
心臓血管外科	28	初期臨床研修医	56
消化器外科／一般外科	30	医療安全管理室	57
乳腺外科	32	感染制御部	59
呼吸器外科	33	地域医療連携部	61
小児外科・移植外科	34	看護部	63
小児科	36	薬剤部	65
脳神経外科	37	中央リハビリテーション部	67
整形外科	38	中央放射線部	70
形成外科	41	中央検査部	72
皮膚科	43	栄養管理部・栄養管理室	74
泌尿器科	44	中央臨床工学部	77

■ 臨床業績

患者数等	80	高度医療	95
疾病構成	84	救急医療	97
院内がん登録データに係る統計	91	地域医療	98

■ 診療情報

患者紹介について	100	両立支援相談窓口	107
セカンド・オピニオン外来	105		

病院運営状況





年報発行にあたり

院長
猪股 裕紀洋

2018年度の、熊本労災病院年報をお届けいたします。年度が代わり、また新たな元号となって半年以上が経過しての前年度分の年報となり、発行に時間を要したことをまずお詫び申し上げます。本誌には、病院全体、及び各部門の2018年度の活動状況が記されております。必要に応じて、また当院の評価の一助として、お読みいただければ幸いです。院長として、院内での2018年度の変化を、羅列になりますが、ここに記したいと思えます。

2018年度、病院全体として最も大きなイベントは、電子カルテの更新でした。電子カルテは、本院では概ね7年程度での更新が見込まれており、2018年度がその年に当たりました。7年という年月がどうやって想定されたかはわかりませんが、世間の情報化の進行速度はきわめて著しいものがあり、臨床に関わる多くの情報がアナログからデジタルの時代となり、記憶容量の拡大と範囲の拡張、そしてその操作性の向上＝スピードアップ、は当然の需要となります。それに見合うシステムの選考が行われ、結局、更新前と同じベンダーの機種に決定されました。正直なところ、既存システムが選考過程で「人質」に取られている面は否めませんが、同一ベンダーとすることは、電子カルテ周辺機器との接続や、操作の「慣れ」という代えがたい利点もあっての結果と思えます。稼働後間もなく1年ですが、想像された不具合の続出やその対応のための大幅な追加費用発生という事態は避けられたように思います。もちろん、これには更新に関わった多くの方々のご尽力によるもので深く感謝しております。ただ、この更新に伴う費

用負担は、買い取りではなくリースによるもので、年間1億数千万円という費用が今後継続的にかかってきます。やむを得ない出費ですが、かなり頭の痛い課題です。

電子カルテの更新と同時に、外来の呼び出しシステムが変わりました。これまで患者名をアナウンスしていましたが、原則、診察室前の電光掲示板に掲示される診察番号による呼び出しです。視力の問題がありますので、当然それについては個別に対応しています。最初は、この掲示板の台数が少なく、待合室全体からの視認性がきわめて悪く、追加設置をしました。全診察室前に設置、というわけにはいきませんが、こちらの利用も概ね安定してきたように感じております。

2018年度の最も大きな診療機能の変化は、懸案であった脳神経外科の人員増がはかれたことです。従前の1名から、等先生と舎川先生の2名体制となり、また嘱託の立場であるリハビリの吉田先生にもご助力いただけるようになっております。脳神経外科症例の緊急対応ができるようになり、またそれに伴って多発外傷の受け入れなど、関係他診療科の負担軽減にも大きく寄与しております。ご配慮いただいた、熊本大学脳神経外科の武笠教授はじめ医局の皆様から心から御礼申し上げます。他には、年度途中から小児外科の大矢医師が着任し、外科の専門診療領域がさらに広がりました。乳腺外科の林医師の着任に伴い、3Dプリンターを用いた乳がん像のシミュレーションも開始されるなど、解りやすい医療の展開が患者さんや医療機関に評価されています。

このほか、診療機能の変革としては、在宅医療後方支援病院に指定されたこと、八代市立病院閉院に伴う結核診療機能受け入れによる中央4病棟2床(2個室)の陰圧病室改築の決定、レスパイト入院受け入れ体制整備、などがあります。在宅医療の支援は、すでに緊急時も含めて関係医療機関の先生がたとの連携を通じて円滑な患者受け入れを行ってきておりましたが、制度的に明示しようとしたものです。ただ、事前の個別患者さんごとの登録など、いつでも受け入れるためとしての手続きがやや煩雑であるため、あまり利用は進んでいません。もちろん、実質的な受け入れはこれまで通り進めております。結核病床に関しては、地域医療上の役割もあり、また以前から高い機能を保っている当院の呼吸器内科診療の一環としても引き受けました。すでに完成しており、供用を開始しています。レスパイト入院についても2018年度にその役割を担うことを決定しました。停電が見込まれるときなど、地域の要望にはすでに対応していたところですが、県との協議で、保険診療ではない、狭義のレスパイト入院制度施設として申請し、指定されました。保険診療としてはこれまで通り、一時避難的入院に対応いたします。

2018年度には、当院初めて心停止下の臓器・組織提供も行われました。脳神経外科の患者さんにおいて、ご家族の暖かいご了解をいただき、プロセス開始から数週間に及ぶ経過を経てその思いが活かされ、両腎臓、角膜、そして骨の提供が行われました。移植された腎臓、角膜はそれぞれのレシピエントの中で元気に生きていることが、臓器移植ネットワークを通じて報告されており、骨も管理下にあって利用を待たれている、とのこと。患者様ご家族に深い敬意と感謝を捧げたいと思いますし、また初めての事案に一丸となって努力された担当医、看護師や関係職員すべてを誇りに思い、その厳しかった道のりを乗り越えられたことに感謝したいと思います。この患者様ご家族は、「可能ならできるだけ多くの臓器を提供したかった」、と述べておられます。当院は、臓器移植法の運用指針に定められた「脳死臓器提供施設」の要件を満たさず、脳死判定とそれに続く臓器の提供ができませんでした。「脳神経外科学会の基幹施設又は研修施設」の項目で認められることが、その指定への近道であると判断し、大学病院

の脳神経外科医局のお力も借りながら、今後もあり得るであろう、どうしても救命できない患者さん・ご家族の御意思を活かす施設となることを目指しています。

コンビニ(ファミリーマート)の導入、WiFiの設置、正面花壇の活性化(八代南ロータリークラブ、秀岳館高校の皆様のご厚意)、白百合高校写真部によるホスピタルギャラリーの写真展示など、継続的にアメニティーの充実にもささやかながら努めてきました。しかし、「職員に笑顔や挨拶が乏しい」「もっと患者目線に立った対応や接遇を」、というおしかりのご意見は、毎週回収されるご意見箱に引き続きみられています。労災病院という風土も含め良き伝統を保ちつつ、他病院のいいところはどんどん取り入れて変わっていく覚悟も必要と思っています。患者数も増え、救急入院が入院全体の半数程度を占めるなど、職員全体、とても忙しくしています。その中で、組織的な改革を考え実現していくことが当面の院長の責務と思っています。今後、人口減少や医療資源の有効活用も見据えて公立病院の統廃合まで具体的に議論されるようになりました。その是非はともかく、医療機関が淘汰される時代に入りつつあります。高騰する医療費に対応し、切り捨てではなく効率化と「ある程度」の均質化を、行政は目指していると思います。労災病院もそれと無縁ではられません。働き方改革の波は、2018年度から急激に押し寄せつつあります。大幅な人員増は望むべくもなく、それを乗り切るためには大胆なタスクシフト、タスクシェアが必須です。その実現には、正しい現状の把握と戦略的な将来予想、そして各職員の広い視野と向上心が不可欠です。法人本部でしかなし得ないこともあります。病院執行部として挑戦していきたいと思っています。

65年の伝統を持つ当院が、診療や医療人養成勤労者医療などの政策医療に関わる役割と責任を堅持し、これからも、この八代の地で継続的に地域のかたがたから信頼され愛される医療機関であり続けるよう、職員一丸となって進みたいと思います。これからも、いろいろなお立場からの叱咤激励をよろしくお願いいたします。

病院概要



病院概要

(令和元年12月1日現在)

名 称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
所 在 地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
電 話 番 号	0965-33-4151 (代表) FAX : 0965-32-4405
開 設 承 認	昭和29年2月8日
開 設 者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管 理 者	熊本労災病院 院長 猪股 裕紀洋
病 床 数	410床
職 員 数	721名 医師 97名 (うち基幹型研修医10名)、看護職 428名、医療職 104名、事務職 68名、 その他 24名
診 療 科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、脳神経内科、精神科、循環器内 科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外 科、脳神経外科、心血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リ ハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科
指定医療機関等 に 関 する 事 項	がん診療連携拠点病院 (国指定)、地域災害拠点病院 (熊本DMAT指定病院)、救急告 示病院 (二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠 点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病 院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後 方支援病院
認 定 施 設	日本内科学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 NCD参加施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本胸部外科学会教育施設 胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本脳神経外科学会連携施設 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設 (補完施設) 日本産科婦人科学会専門研修連携施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 日本脳ドック学会認定施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設 日本医療機能評価機構認定施設 (3rdG : Ver.2.0)
施 設 概 要	敷地面積 : 26,681.86㎡ 延床面積 : 30,193.10㎡
駐 車 台 数	664台

平成30年度 病院行事

4月 2日	平成30年度 辞令交付式
5月11日~12日	「看護の日」記念イベント
6月 1日	敷地内清掃活動
6月22日	地域医療連携の会
7月 1日	健康と福祉の事業創設記念日
7月 2日	永年勤続者表彰式
7月25日	高校生の一日看護体験
7月26日	サマーコンサート
9月29日	院内防火・防災訓練
10月30日	ピンクリボン普及啓発イベント
10月31日	「いいお産の日」イベント
11月 5日	熊本労災看護専門学校 50周年記念式典
11月16日	熊本労災看護専門学校 戴帽式
11月25日~12月 1日	医療安全推進週間
12月 6日~12月 7日	糖尿病週間行事
12月14日	小児科病棟クリスマス会
2月13日	バレンタインコンサート
3月26日	臨床研修医症例発表会・ 修了証授与式

■ サマーコンサート



■ 八代くま川祭り



■ 院内防火・防災訓練



■ 小児科病棟クリスマス会



■ 平成30年度 辞令交付式



■ 「看護の日」記念イベント



■ 敷地内清掃活動



■ 「いいお産の日」イベント



■ 糖尿病週間行事



■ バレンタインコンサート



■ 臨床研修医 修了証授与式



平成30年度 研修・セミナー

5月19日	ハンズオントレーニングセミナー
6月 6日	院内感染対策研修会
6月18日	レスパイト入院講演会
6月20日	地域リハビリテーション従事者研修会
6月28日	院内医療安全対策研修会
7月29日	市民公開講座「肝がん0を目指して」
8月18日	緩和ケア研修会
9月13日	乳腺外科学術講演会
9月21日	救急症例検討会
10月10日	救急医療講演会
10月25日	小児心臓外科講演会
10月26日	熊本緩和ケアカンファレンス
10月31日	県南地域結核研修会
12月10日	八代地域ドクターヘリ運航に係る検討会
12月18日	保険診療に関する講習会
12月21日	院内感染対策研修会
1月25日	院内医療安全対策研修会
2月 2日	がんのリハビリテーションセミナー
2月20日	接遇研修会
2月25日	医療倫理講演会
2月28日	肝炎サロン
2月28日	臓器移植・臓器提供特別講演会
3月 9日	市民公開講座 「先生教えて! がんに関するあれやこれ」
3月12日	保険診療に関する講習会
3月22日	救急症例検討会



熊本労災病院市民公開講座
先生教えて! part2
がんに関するあれやこれ

申込不要
入場無料

どんな治療をするの? これからの生活はどんなの?

<日時>
2019年3月9日(土)
14:00~15:30

<会場>
やつしスハーモニーホール
大会議室

講師: 伊藤 潤哉 先生 (熊本労災病院 緩和科)
講師: 高橋 浩二 先生 (熊本労災病院 消化器科)
講師: 高橋 浩二 先生 (熊本労災病院 消化器科)
講師: 高橋 浩二 先生 (熊本労災病院 消化器科)

主催: 熊本労災病院 市民公開講座実行委員会
協賛: 熊本労災病院 緩和ケア推進委員会

〒860-0835 熊本県熊本市中央区 熊本労災病院 3F 大会議室(センター) TEL:096-330-4131 熊本労災病院

アクセス

アクセスマップ



交通機関

- 産 交 バ ス 新八代駅西口より八代市役所前行、又は、労災病院行に乗車、
労災病院前下車（所要時間約5分）
- タ ク シ ー 新八代駅より乗車（所要時間約3分）
- 乗 用 車 八代インターより（所要時間約5分）
※新八代駅西口より徒歩約10分

診療時間

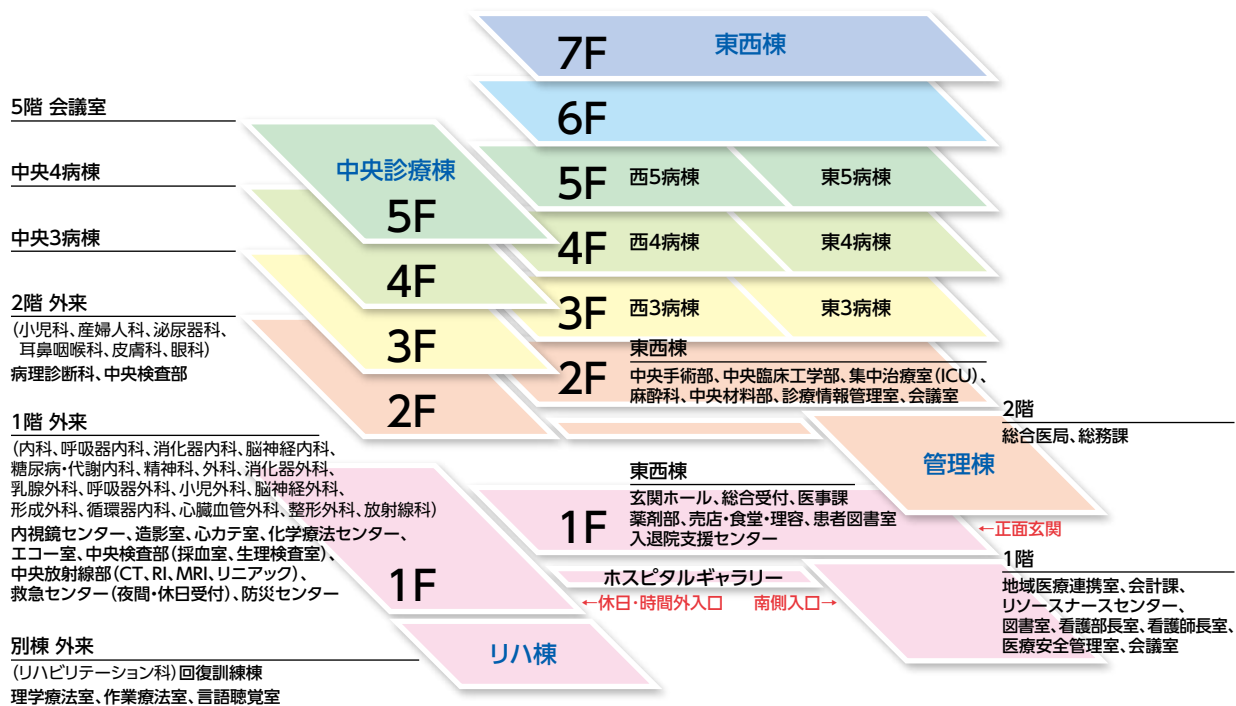
- 外来受付時間 午前8:15～11:00
- 休 診 日 土曜・日曜・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）

院内のご案内

施設紹介

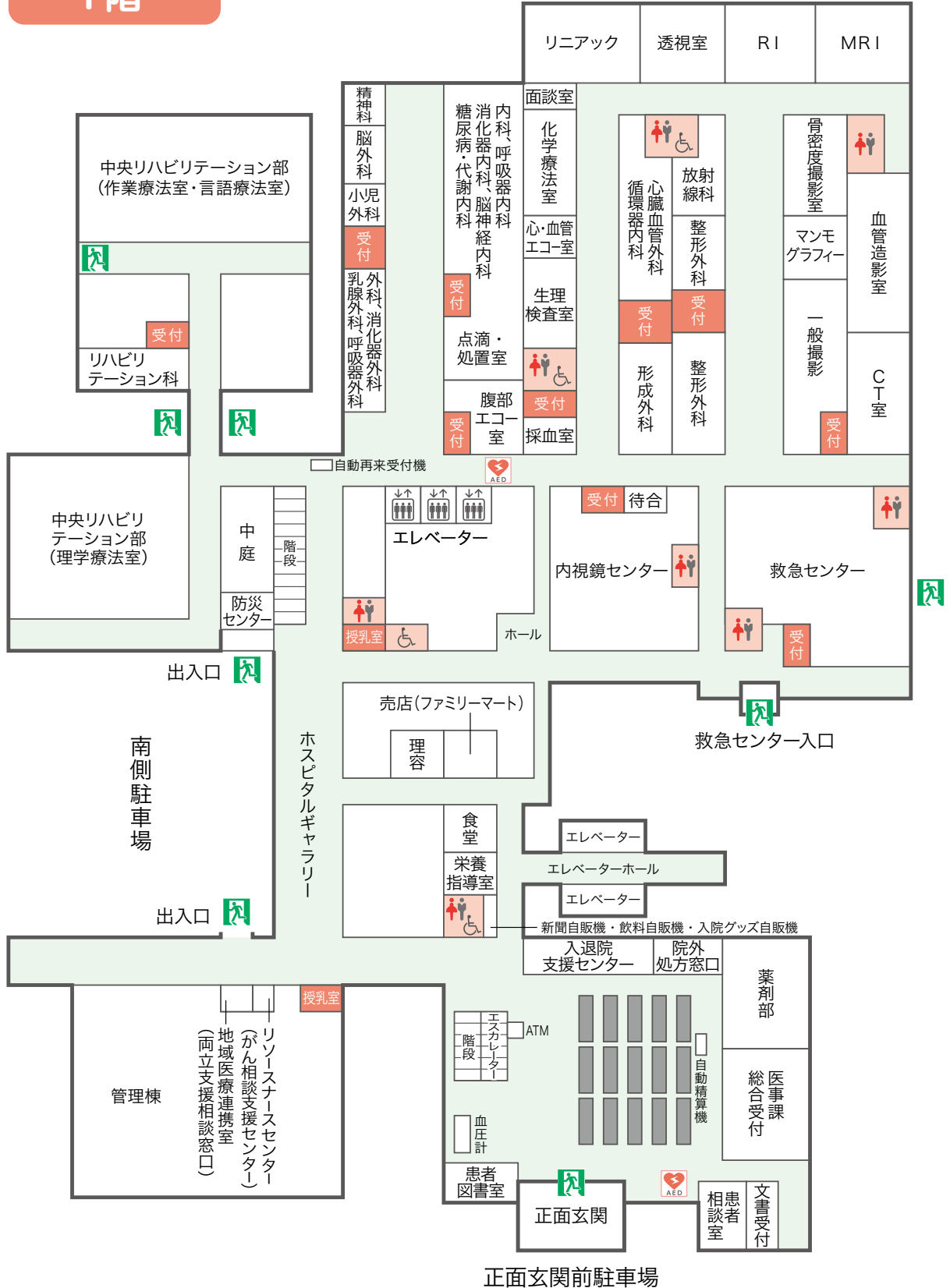


各階案内図

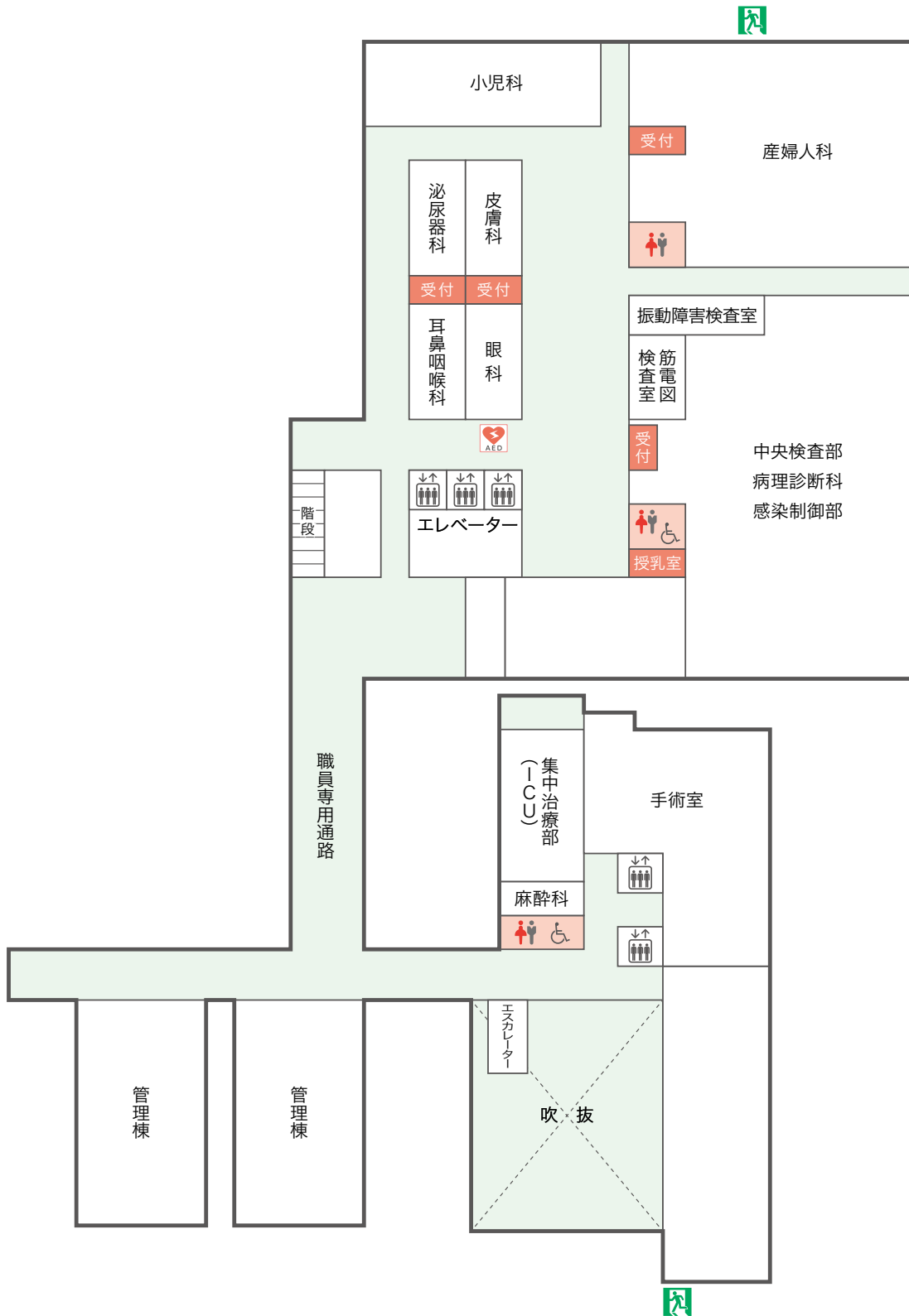


院内案内図

1階



2階



各診療科・各部紹介



呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長
(内科部長、緩和ケア科部長、院長相談役、熊本大学医学部臨床教授)

伊藤 清隆

【専門分野】呼吸器一般、感染症、職業性肺疾患
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会認定医・指導医、日本感染症学会・インフェクションコントロールドクター、日本緩和ケア学会・ファシリテータ、日本医師会認定産業医



第二呼吸器内科部長
(アスベスト疾患センター長、感染制御部長)

安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会専門医・指導医、AHA-BLS/ACLSインストラクター、インフェクションコントロールドクター



第三呼吸器内科部長

山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医



腫瘍内科部長
(化学療法センター長)

丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会

呼吸器内科副部長
福嶋 一晃

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、日本肺癌学会

呼吸器内科医師
清水 ゆかり

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師
川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会

呼吸器内科の特色

常勤医師7名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。

県南の呼吸器内科拠点病院としては最も多いスタッフで、入院患者数は2001年度403名から2018年度1,268名と増加し続けています。内訳としては高齢化社会を反映して肺炎・胸膜炎などの感染症が165名(40.9%)→532名(42.0%)と最も多くの割合を占めています。特に高齢者の誤嚥性肺炎での救急入院が多く、必要時は当院耳鼻咽喉科に依頼しての嚥下評価、嚥下リハビリも行っていきます。肺癌での入院は97名(24.1%)→336名(26.5%)と増加しており、呼吸器外科も常勤2名体制となり協力して診療に当たっています。今年度から最新型の超音波気管支ファイバースコープも導入し診断精度の向上が期待できます。手術非適応例でも化学療法の進歩で延命効果も高くなり、外来化学療法も積極的に行なっています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患の入院は、感染合併による急性増悪が殆どで救急受診や他院からの紹介入院です。間質性肺炎は原因によって治療法や予後が大きく異なり専門性が要求される分野ですが、特発性・膠原病関連肺炎・薬剤性肺炎等も含めて79名(6.2%)とほぼ一定しています。肺合併症のリスクのある生物学的製剤の使用増加から、リウマチを初めとした膠原病等も整形外科/皮膚科等と協力しながら積極的に診療しております。

当院独自の特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者さまの紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助を行っています。

呼吸器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
午前中					
呼吸器内科	山根	安道	伊藤	安道	伊藤
総合内科/再診	福岡				福岡
再診		清水 川口	丸山	山根	丸山
腫瘍内科			丸山		丸山
13:30~16:00					
特殊外来			禁煙外来 山根	アレルギー 外来 出口	

診療実績

患者数等 (平成30年度 年間患者数)

- 入院患者数 1,268人(3.5人/日)

割合	肺炎・胸膜炎	42.0%
	悪性疾患(肺癌など)	26.5%
	間質性肺疾患	6.2%
	喘息・COPD	6.2%
	気胸	2.5%
	その他	16.6%

- 平均在院日数 18.5日

- 外来患者数 11,105人(45.5人/日)

再掲	新患	1,977人(8.1人/日)
	再診	9,128人(37.4人/日)

検査実績 (平成30年度 年間実績)

- 気管支鏡検査数 234件

再掲	TBLB	169件
	BAL	65件

- CTガイド下肺生検 26例

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医：安道誠、伊藤清隆
- 県南結核審査会委員長：伊藤清隆

学会・講演会発表等

学会発表

- 【学会名】第323回 内科学会九州地方会
【日程会場】平成30年11月18日 鹿児島市
【発表者】熊本労災病院 呼吸器内科 藤本優果、木村俊貴、清水ゆかり、坂本一比古、丸山広高、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
【題名】リウマチ性多発筋痛症の治療経過中に発症した気管・気管支軟骨に局限した軟骨炎が疑われた1例
- 【学会名】第324回 日本内科学会九州地方会
【日程会場】平成31年1月12日(土) 福岡市
【発表者】熊本労災病院 糖尿病・代謝内科 吉積華子、岩下晋輔、金子健吾、同 呼吸器内科 伊藤清隆
【題名】アナフィラキシーに対するアドレナリン静脈内投与後に非外傷性円蓋部くも膜下出血を引き起こした1例
- 【学会名】第81回 日本呼吸器学会九州支部 秋季学術講演会
【日程会場】平成30年10月5日~6日 長崎市
【発表者】熊本労災病院 呼吸器内科 山根宏美
【題名】自然軽快する病変が複数臓器に異時に生じ、診断に難渋したリンパ腫様肉芽腫症(LYG)の1例
- 【学会名】第81回 日本呼吸器学会九州支部 秋季学術講演会
【日程会場】平成30年10月5日~6日 長崎市
【発表者】熊本大学病院医学部附属病院 呼吸器内科/熊本労災病院 呼吸器内科 木村俊貴
【題名】胸水貯留を契機に診断し、急速な進行をたどった胸膜原発類上皮血管内皮腫の1例
- 【学会名】熊本間質性肺疾患研究会
【日程会場】平成30年10月25日 熊本市
【発表者】山根宏美
【題名】Lymphoid granulomatosis 診断に苦慮したリンパ腫様肉芽腫症の1例
- 【学会名】第82回 日本呼吸器学会九州支部 春季学術講演会
【日程会場】平成31年3月16日 宮崎市
【発表者】坂本一比古、清水ゆかり、丸山広高、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
【題名】N. otitiscaviarumによる肺炎でARDSを来し救命できなかった1例

呼吸器内科

論文発表

- 【雑誌名】 気管支学40(1) 36-40, 2018
【発表者】 丸山広高、坂本一比古、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
【題名】 経気管支肺生検にて診断した多発性肺平滑筋腫性過誤腫の1例
- 【雑誌名】 日呼吸誌 7(5), 2018
【発表者】 村本啓、中村和芳、岡本真一郎、一安秀範、伊藤清隆、興梠博次
【題名】 家族内発生した肺トキソカラ症の2例
- 【雑誌名】 日呼吸誌, 8(5): 359-364, 2019
【発表者】 山根宏美、清水ゆかり、坂本一比古、丸山広高、安道誠、伊藤清隆
【題名】 自然軽快する病変が複数臓器に異時性に生じ、診断に難渋したリンパ腫様肉芽腫症の1例

- 2月21日(休)
第48回 八代呼吸器懇話会 坂上非結核性抗酸菌症の宿主要因 セレクトロイヤルホテル 座長
- 3月9日(土)
緩和市民公開講座(乳がん林、肺がん柴田、すいガン富安)司会

認定施設等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設

2018年 講演会の開催司会、座長等

- 4月23日(月)
第9回 県南肺癌研究会 佐賀大 荒金尚子診療教授
中外 アルデアアルカサル
- 6月6日(水)
県南オンコロジーセミナー セレクトロイヤルホテル
熊大皮膚科 福島聡准教授 MSD、大鵬
- 6月19日(火)
八代呼吸器懇話会(当院当番) 八代市医師会館
- 9月27日(木)
チェストカンファ(当番世話人) 熊大
- 10月23日(火)
八代呼吸器懇話会(当院当番) 八代市医師会館
- 10月31日(水)
八代保健所主催 県南結核勉強会 当院
- 11月2日(金)
八代地区 間質性肺疾患セミナー
坂上教授講演会 座長 ベーリンガー
- 11月15日(木)
県南重症喘息について考える会
出口秀治、藤井准教授、座長
- 11月22日(木)
チェストカンファ(労災当番)
- 12月4日(火)
13-16時 じん肺講義 ケアプラザ、労災サポート
センター
- 2月15日(金)
県南肺癌懇話会 後藤功一Dr 講演会 座長

消化器内科

スタッフ紹介



消化器内科部長
(副院長、肝疾患センター長)

佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・暫定指導医



第二消化器内科部長
(地域医療連携副部長)

瀬戸山 博子

【専門・認定・資格・所属学会】医学博士、日本内科学会認定医・専門医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、がん治療認定医機構認定医



内視鏡科部長

山邊 聡

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

消化器内科副部長
渡名喜 銀河

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医

消化器内科医師
今村 美幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

消化器内科医師
市川 亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医

消化器内科医師
家城 宇希人

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科の特色

当科は消化器疾患全領域を診療しています。2018年度のスタッフ数は8名。水曜と金曜には、大学病院から胆膵系、消化管系専門の医師の応援を頂いています。

消化管系ではNBI・拡大内視鏡検査やEUS、カプセル内視鏡などの特殊検査も行います。上下部消化管のEMRやESD、食道胃静脈瘤治療(EVLやEIS)、イレウス管留置、消化管ステント留置、胃ろう造設術・交換などを行っています。2019年からはCT colonographyを導入しました。

肝疾患では肝疾患センターを設け、ウイルス肝炎に対する最新の抗ウイルス療法を行い、肝癌撲滅のための市民公開講座や肝炎サロンなどによる啓発活動を通して肝炎の発見・治療、肝硬変・肝癌への進行阻止に力を入れています。肝癌に対しては、外科・放射線科との合同カンファで治療方針を決定し、肝切除、全麻下RFA、PEIT、TACEを行っています。

胆膵系では、ERCPとIDUSを含む関連検査・処置のほか、EUS-FNAによる診断と治療を行っています。胆道閉塞性疾患にはERCPやPTCD・PTGBDを行い、必要なステント留置を行います。

外科との緊密な連携のもと、進行癌治療は、看護師・薬剤師など多数が参加するカンサーボードでの検討・方針決定を経て、ポート造設から包括的化学療法、緩和ケアまでを行っています。

消化器内科カンファレンス、内科・外科・放射線科病理との合同カンファレンス、放射線科との肝癌治療カンファレンスを定期的に行っており、連携が非常に緊密であることが、当科の特徴となっています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
外来	瀬戸山	山邊	佐々木	瀬戸山	佐々木
外来	山邊	市川	日隈	渡名喜	今村
			家城		渡名喜

消化器内科

	月	火	水	木	金
肝疾患センター	瀬戸山	山邊	佐々木	瀬戸山	佐々木
PEG相談	家城 日隈		家城 日隈		

診療実績

患者数

- 入院患者数 延べ患者数 12,750人(34.9人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 10,939人(44.8人/日)

手術実績

(内視鏡)

症 例	件 数
食道ESD	1件
胃EMR/ポリペクトミー	12件
胃ESD	7件
大腸EMR/ポリペクトミー	154件
大腸ESD	14件
胃ろう造設術	20件

(超音波)

検 査	件 数
腹部超音波	3,799件
腹部造影超音波	52件
肝生検	27件
PTCD/PTGBD	7件
径皮的RFA/PEIT	3件

検査実績

症 例	件 数
上部内視鏡検査	2,440件
下部内視鏡検査	1,357件
ERCP	231件
EUS	191件

症 例	件 数
EUS-FNA	18件

地域活動の実績

- 【講座名】 市民公開講座
【日程・会場】 平成30年7月29日 熊本労災病院
【発表者】 佐々木雅人
【題 名】 平成30年度日本肝臓学会肝癌撲滅運動
-肝がんゼロを目指して-

学会・講演会発表等

- 【研究会名】 熊本臨床検査技師会向け 学術集会
【日程・会場】 2018年5月 熊本
【発表者】 佐々木雅人
【題 名】 ウイルス肝炎の最新治療と当院における
肝炎患者の拾い上げ活動について
- 【研究会名】 肝炎コーディネーターの会
【日程・会場】 2018年10月 熊本
【発表者】 佐々木雅人
【題 名】 当院における肝炎患者の拾い上げ活動に
ついて
- 【研究会名】 Abbvie社内講師勉強会
【日程・会場】 2018年11月 熊本
【発表者】 佐々木雅人
【題 名】 当院における肝炎患者の拾い上げ活動に
ついて
- 【学会名】 HCV Expert Seminar
【日程・会場】 2018年12月 熊本
【発表者】 佐々木雅人
【題 名】 当院における肝炎患者の拾い上げ活動に
ついて

研究会の開催

共催

- 【研究会名】 熊本県 肝炎サロン
【日程・会場】 2018年2月 熊本
【講演者】 佐々木雅人
【題 名】 肝炎診療の新たな局面
- 八代消化器カンファランス
- 熊本画像診断研究会
- 熊本消化器カンファランス

認定施設等

- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本肝臓学会関連施設

脳神経内科

スタッフ紹介



脳神経内科部長

原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会専門医、日本内科学会、日本神経学会、日本神経治療学会、日本脳神経超音波学会

脳神経内科医師
村端 秀映

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会、日本漢方学会、日本外科学会、日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本胃癌学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会

脳神経内科医師
竹内 陽介

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本神経学会

脳神経内科の特色

当院における脳神経内科は、内科の一員であるとともに、脳卒中センターの一員でもあるという位置づけです。内科においては毎週月曜日の内科カンファレンスでの抄読会、脳卒中センターにおいては毎週水曜日の脳神経外科との脳神経カンファレンスでの症例検討で、専門知識や診断精度の向上に努めています。

入院は多くが急性期脳梗塞ですが、その他もてんかんや髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など神経救急疾患がほとんどを占めます。脳梗塞については、発症4.5時間以内の超急性期症例に対するt-PA静注療法に対応しています。また、脳血管治療の適応と思われる場合は、積極的に熊本市内の治療可能な急性期病院へ転送としています。急性期を過ぎてリハビリ継続が必要な場合は、脳卒中連携パスを利用して後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などのいわゆる神経難病も多くを占めています。

高齢化を反映して今後ますます脳神経疾患のニーズは高まると思われます。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	村端	原	村端	竹内

診療実績

患者数

- 入院患者数 延べ患者数 7,980人(21.9人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 4,380人(18.0人/日)

地域活動の実績

講義

- 八代地域難病対策協議会
「重症筋無力症について」
村端秀映 (平成30年3月15日)

学会・講演会発表等

講演

- 【学会名】熊本神経カンファレンス
【日程会場】平成31年2月14日 熊本市
【発表者】米持康寛
【題名】骨髄間葉系細胞由来のCXCL12とオステオポンチンは筋再生を促進する

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科部長
(栄養管理部長)

金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本静脈経腸栄養学会



第二糖尿病・代謝内科部長

岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会、日本DMAT隊員

糖尿病・代謝内科医師
与那嶺 真一

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

勤労者医療総合センター医
櫻井 希美

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数は1,000万人を突破し、予備軍も合わせると2,000万人超とされています。40歳以上では実に3人に1人が耐糖能障害を持つ計算になります。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、このようにますます増加している糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患（橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍）をはじめとした内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院患者の血糖コントロールや栄養サポートチームの一員としての栄養管理は全病棟を対象に行なっています。2018年4月から

は、熊本病院救急部に10年間勤務した岩下晋輔医師が赴任し、慢性疾患だけでなく急性疾患の診療にも協力できるようになりました。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井	金子	岩下
再診			与那嶺	櫻井	
糖尿病外来(午後)					金子

診療実績

患者数(平成30年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 2,423人(6.6人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 6,119人(24.9人/日)

検査実績(平成30年度 年間実績)

症例	件数
甲状腺超音波検査	338件
甲状腺穿刺吸引細胞診	33件

地域活動の実績

講演会

- 熊本労災病院糖尿病週間 院内講演会
「超高齢化社会における糖尿病診療」
岩下晋輔

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】第61回 日本糖尿病学会年次学術集会
【日程・会場】平成30年5月 東京
【発表者】金子健吾
【題名】鞍上部くも膜嚢胞による汎下垂体機能低下症が原因であった低血糖の1例
- 【学会名】第56回 日本糖尿病学会九州地方会
【日程・会場】平成30年10月 福岡
【発表者】岩下晋輔
【題名】救急領域におけるストレス高血糖の指標としてのBG/HbA1c比の有用性の検討

糖尿病・代謝内科

- 【学会名】第46回 日本救急医学会総会・学術集会
【日程・会場】平成30年11月 横浜
【発表者】岩下晋輔
【題名】アナフィラキシーに対するアドレナリン静脈内投与後に非外傷性円蓋部くも膜下出血と急性心筋障害を併発した1例
- 【学会名】第324回 日本内科学会
【日程・会場】平成31年1月 福岡
【発表者】吉積華子
【題名】アナフィラキシーに対するアドレナリン静脈内投与後に非外傷性円蓋部くも膜下出血を引き起こした1例

認定施設等

- 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

スタッフ紹介



精神科部長

大内 清

【専門・認定・資格・所属学会】精神保健指定医、緩和ケア研修会修了

精神科の特色

平成31年4月より当院精神科の常勤医勤務が再開し、現在では常勤医1名、他医療機関等からの協力派遣医2名の計3名で診療を行っています。また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がい医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

常勤医1人ですので、たいしたことはできませんが、主に入院患者さまのメンタルケアを行っています。

社会環境の著しい変化に伴い、こころの問題もそれに併せるように様々な問題を抱える方が増えてきています。体調が悪い、食欲がない、眠れない、やる気が出ないなど、あるいは、他の診療科では身体的に異常はないと診断されたものの、それでもやはり調子が悪い、などでお悩みの患者様に、気軽にご相談いただけるよう心がけています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
午前	大内	大内	大内	大内	大内
午後	宮川 (第2週)	荒木			

発達相談外来 ※紹介制

	月	火	水	木	金
					担当医 (第2・4週)

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

■ 外来患者数 延べ患者数 1,345人(5.5人/日)

循環器内科

スタッフ紹介



循環器内科部長
(地域医療連携部長)

松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療資格



血管内科部長

土井 英樹

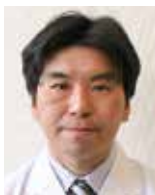
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



第二循環器内科部長

阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、難病指定医、植込み型除細動器/ペースングによる心不全治療資格



第三循環器内科部長

川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医

循環器内科副部長

古川 祥太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会

循環器内科副部長

本里 康太

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本動脈硬化学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会

循環器内科医師

角森 大樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会

循環器内科の特色

当科の特徴としては、全PCIの約3割が急性冠症候群症例に対して施行されている急性期病院に位置づけられています。熊本県南地域では唯一の日本心血管インターベンション治療学会研修施設である当院では、24時間循環器内科医が日夜待機を行っています。心臓血管外科医とはいつでも連絡を取り合える状況にあり、外科的処置や手術が必要な症例においては即時に対応できる環境が整っています。心臓・血管専門の超音波検査技師も現在7名在籍しています。緊急のコールがあれば夜間休日も対応可能であり緊急症例にも素早く対応しています。また最近では防災ヘリやドクターヘリによる遠隔地の循環器救急疾患も積極的に受け入れています。更に不整脈に対するカテーテルアブレーションはその需要に応えるべく年々症例数は増加してきています。日本不整脈心電学会認定不整脈専門医による高周波アブレーション、クライオバルーンアブレーション等を行っています。通常のペースメーカー植込みだけでなく、CRT-P、CRT-Dに対する心不全治療も精力的に取り組んでいます。一方、フットケアを含めた末梢血管インターベンションにも力を入れており、CLIの症例も多く受け入れています。

九州でもいち早く血管外来を整備し、内科的なアプローチ、外科的なアプローチの両側面より患者さまの病態に応じて対応しています。外来ということでは、新たに「難治性高コレステロール血症外来」「不整脈外来」を立ち上げました。いずれも特殊な病態であり、近隣の開業医の先生より大きく期待されています。

循環器内科

診療体制

外来

月	火	水	木	金
---	---	---	---	---

循環器内科

角森	本里	松村	阿部	古川
----	----	----	----	----

特殊外来：難治性高コレステロール血症外来

阿部 (午後)			阿部 (午後)	
------------	--	--	------------	--

特殊外来：不整脈外来

			川上 (午前)	
--	--	--	------------	--

血管内科

土井		土井		土井
----	--	----	--	----

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 10,290人(28.2人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 6,970人(28.6人/日)

治療実績 (平成30年度 年間実績)

症 例	件 数
冠動脈インターベンション	207件
末梢血管インターベンション	123件
カテーテル心筋焼灼術	48件
植込み型除細動器移植術	5件
永久ペースメーカー移植術	70件

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】 第83回 日本循環器学会学術集会 (ポスター)
【日程・会場】 2018年3月 神奈川
【発表者】 小森田貴史
【題 名】 Clinical Features of Patients with Acute Aortic Dissection After an Earthquake ~Experience from The Kumamoto Earthquake 2016~

- 【講演会名】 Total Vascular Management Forum 熊本
【日程・会場】 2018年4月 熊本
【発表者】 小森田貴史
【題 名】 RASに対するEVT
- 【学会名】 PCSK9 Joint Meeting in Kumamoto 2nd
【日程・会場】 2018年4月 熊本
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 難治性高コレステロール血症外来の新設
- 【講演会名】 第22回 肝腎疾患研究会
【日程・会場】 2018年5月 熊本
【発表者】 土井英樹
【題 名】 当院での静脈血栓塞栓症 (Venous thromboembolism)の対応について ~実際の症例に学ぶ~
- 【講演会名】 熊本労災病院 病診連携協議会
【日程・会場】 2018年6月 熊本
【発表者】 土井英樹
【題 名】 新しいシネアンギオ装置の導入 より安全・安心・快適なカテーテル治療を目指して
- 【学会名】 第8回 豊橋ライブデモンストレーション
【日程・会場】 2018年6月 愛知
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 LADに留置した第2世代および第3世代 DESの内膜被覆の違いをOFDIで経時的に観察できた1症例
- 【学会名】 エリキュースインターネット講演会
【日程・会場】 2018年6月 熊本
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 AF合併のPCI施行患者に対する慢性期における抗血栓
- 【学会名】 リクシアナエリア座談会
【日程・会場】 2018年6月 熊本
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 高齢者心房細動におけるPCI治療について
- 【学会名】 高齢者トータルケア学術講演会
【日程・会場】 2018年6月 熊本
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 高齢者心房細動の抗凝固療法
- 【学会名】 第27回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会
【日程・会場】 2018年9月 福岡
【発表者】 阿部浩二
【題 名】 当院における心房細動患者に対するPCI後の抗血栓療法の見直し

循環器内科

- 【学会名】第27回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)九州・沖縄地方会
Theme Theater 6「俺のこだわりCTO cross」
【日程・会場】2018年9月 福岡
【発表者】土井英樹
【題名】こだわりの Guide wire selection…
- 【講演会名】第4回 透析患者さんの足を救う会
【日程・会場】2018年9月 大分
【発表者】土井英樹
【題名】透析患者の足を地域連携で守るために
ー熊本県南地区での試みー
- 【学会名】第27回 日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
【日程・会場】2018年9月 福岡
【発表者】小森田貴史
【題名】やっぱり Zilver PTX
- 【講演会名】Need a PCB right now!! ~The arrival of EVT era with drugs~
【日程・会場】2018年10月 福岡
【発表者】土井英樹
【題名】PCB使いたくなる病変って…
- 【学会名】第66回 日本職業・災害医学会学術大会
【日程・会場】2018年10月 和歌山
【発表者】松村敏幸
【題名】冠動脈疾患症例におけるストレス応答の地域差に関する研究
- 【学会名】HHY循環器アリーナ
【日程・会場】2018年10月 熊本
【発表者】阿部浩二
【題名】出血性合併症を考える
- 【学会名】ARIA 2018 Mini Lecture in Focus Live Demonstration
【日程・会場】2018年11月 福岡
【発表者】土井英樹
【題名】PCB使いたくなる病変って…
- 【講演会名】九州PTX症例検討会
【日程・会場】2018年12月 福岡
【発表者】土井英樹
【題名】Drug Stent とのつきあい方…
- 【講演会名】Cancer VTE 講演会
【日程・会場】2019年1月 熊本
【発表者】土井英樹
【題名】当院におけるCancer VTEに対する取り組みと問題点
- 【講演会名】八代市郡学術講演会
【日程・会場】2019年1月 熊本
【発表者】土井英樹
【題名】Cancer VTEを含むVTEの診断と治療
- 【講演会名】下益城郡学術講演会
【日程・会場】2019年1月 熊本
【発表者】土井英樹
【題名】『当院での静脈血栓症の対応について』
~実際の症例に学ぶ~
- 【講演会名】佐世保市立総合病院 PTX研究会
【日程・会場】2019年1月 長崎
【発表者】土井英樹
【題名】Drug Stent とのつきあい方を大腿-膝窩動脈の性質とともに再考する
- 【学会名】八代薬剤師会学術講演会
【日程・会場】2019年1月 熊本
【発表者】阿部浩二
【題名】高齢者心房細動の抗凝固療法
- 【学会名】第4回 芦北高齢者医療研修会
【日程・会場】2019年2月 熊本
【発表者】阿部浩二
【題名】高齢者心房細動の抗凝固療法
- 【学会名】Japan Endovascular Treatment 2019 Luncheon Seminar
【日程・会場】2019年2月 東京
【発表者】土井英樹
【題名】自験データから考える Vessel preparationを用いた最適なSFA治療
- 【講演会名】START
【日程・会場】2019年2月 福岡
【発表者】土井英樹
【題名】Drug Device とのつきあい方を大腿-膝窩動脈の性質とともに考えてみた

認定施設等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設

心臓血管外科

スタッフ紹介



血管外科部長

原 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術施行医、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本静脈学会、日本脈管学会



心臓血管外科部長

森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本胸部外科学会認定医、日本心臓外科学会、日本血管外科学会、日本胸部外科学会、日本外科学会、日本循環器学会

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来20年以上の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており施設の集約化が求められるなかで唯一中心部以外に存在し、これまで主に県南の医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くはありませんが、当科ではステントグラフトなどの血管内治療や弁形成術、低侵襲手術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。「地元完結で社会復帰する」を第一に考え、患者さまにとって最適な治療また患者さまや家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
心臓血管外科		森山		森山	
血管外科		原			原

手術日

	月	火	水	木	金
手術日	手術日		手術日	手術日	(午後)

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 3,057人(8.4人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 1,873人(7.7人/日)

手術実績 (平成30年度 年間実績)

症 例	件 数
冠動脈手術	7件
弁膜症手術	23件
その他の心臓手術	2件
大動脈瘤手術	23件
胸部大動脈瘤	8件
開胸手術	4件
ステント手術(TEVAR)	4件
腹部大動脈瘤	15件
開腹手術	1件
ステント手術(EVAR)	14件
急性大動脈解離手術	4件
末梢動脈手術	13件
静脈手術	49件
計	121件

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】第32回 日本冠疾患学会学術集会
- 【日程・会場】平成30年11月 熊本
- 【発表者】森山周二
- 【題 名】両側腸骨動脈高度狭窄を合併した急性冠症候群に対してEVT後にIABP挿入し手術を施行した1例

心臓血管外科

- 【学会名】熊本大学心臓血管外科同門会
- 【日程・会場】平成30年5月 熊本
- 【発表者】森山周二
- 【題名】原因不明の肝硬変による繰り返す肝性脳症と診断された収縮性心膜炎の1例

論文発表

- Shuji Moriyama, Masahiko Hara, Yasushi Kaneko. Acute type A aortic dissection repair in an octogenarian with achondroplasia: a case report. *Surgical Case Reports* (2018) 4:53. <http://doi.org/10.1186/s40792-0180461-0>.

認定施設等

- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科／一般外科

スタッフ紹介



一般外科部長
(救急・災害診療部長)

飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】 日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講済、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



消化器外科部長

中原 修

【専門・認定・資格・所属学会】 日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本癌治療学会癌治療認定医・癌治療暫定教育医、日本臨床外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本膵臓学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡外科学会、日本胃癌学会、産業医科大学産業医学基礎研修会夏季集中講座終了、緩和ケア研修会修了



第二消化器外科部長

藏元 一崇

【専門・認定・資格・所属学会】 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、JATECコース修了、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、緩和ケア研修会修了、第18回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講済

消化器外科・一般外科
副部長

辻 顕

【専門・認定・資格・所属学会】 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科医師

前田 裕斗

【専門・認定・資格・所属学会】 日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡学会、日本消化器学会、日本胃癌学会、日本癌治療学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科・一般外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療と365日24時間熊本県南の救急患者さまの受け入れを2本柱で行っています。

消化器外科医が中心となり、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、移植外科とチームで救急医療・診療にあたっています。

全体では、手術数は年間約600例です。このうち悪性疾患は胃がんが20例と大腸がんが60例、肝胆膵がんが約40例で肺癌が50例、乳がんが20例ほどです。良性疾患では胆石が約120例ともっとも多く、次にヘルニア110例、急性虫垂炎50例などです。胆石や虫垂炎やヘルニア手術はほとんどが腹腔鏡下手術です。

緊急手術は、全手術症例の4割以上を占め、急性胆のう炎、急性虫垂炎、腸閉塞・腹膜炎が多い現状です。

鏡視下手術に力を入れており、胃・大腸・鼠径ヘルニア・肺の手術のみならず肝臓・膵臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科の高難度手術も行っています。ハイボリュームセンターに負けない手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。

手術以外でも癌化学療法を積極的に入院・外来で行っており、県南では緩和病床も少ないため、緩和病床を活用し、看取りまで対応しています(年間35名程度)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	中原	担当医		
中原	飯坂／辻		飯坂	藏元

消化器外科／一般外科

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

- 新入院患者数 734人
- 入院患者数 延べ患者数 9,423人(25.8人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 4,764人(19.5人/日)

手術実績 (平成30年度 年間実績)

- 手術件数 総数 506件

予定手術	320件
緊急手術	186件

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】第80回 日本臨床外科学会
【日程・会場】平成30年11月 東京都
【発表者】飯坂正義
【題名】空腸憩室穿孔に起因した急性腹膜炎の一症例
- 【学会名】第30回 日本肝胆膵外科学会
【日程・会場】平成30年6月 横浜市
【発表者】藏元一崇
【題名】Assessment of liver function in hepatic venous congestion area using 99mTc-GSA SPECT/CT fused imagings
- 【学会名】第73回 日本消化器外科学会総会
【日程・会場】平成30年7月 鹿児島県
【発表者】藏元一崇
【題名】Impact of preoperative chemotherapy on functional liver regeneration for colorectal liver metastases assessed with 99mTc-GSA SPECT/CT imagings
- 【学会名】第26回 日本消化器関連学会週間
【日程・会場】平成30年11月 神戸市
【発表者】藏元一崇
【題名】MRI-apparent diffusion coefficient (ADC) 値による高悪性度肝細胞癌の予測
[若手奨励賞]受賞
- 【学会名】第31回 日本内視鏡外科学会総会
【日程・会場】平成30年12月 福岡市
【発表者】藏元一崇
【題名】腹腔鏡下单孔式小腸部分切除を施行したMeckel憩室の1例

- 【学会名】第31回 日本内視鏡外科学会総会
【日程・会場】平成30年12月 福岡市
【発表者】辻顕
【題名】腹腔鏡下に切除した腸間膜原発神経内分泌腫瘍の1例
- 【学会名】八代消化器カンファレンス
【日程・会場】平成30年6月 八代市
【発表者】辻顕
【題名】膵十二指腸動脈瘤の報告
- 【学会名】第55回 九州外科学会
【日程・会場】平成30年5月 福岡市
【発表者】前田裕斗
【題名】胆嚢内に腫瘍栓を生じた肝細胞癌の1例
- 【学会名】第255回 福岡外科集談会
【日程・会場】平成30年7月 福岡市
【発表者】前田裕斗
【題名】肺高血圧を有し周術期管理に苦慮した胃切除の1例
- 【学会名】第186回 熊本外科集談会
【日程・会場】平成30年10月 熊本市
【発表者】前田裕斗
【題名】術前血管塞栓を行い骨盤内臓全摘を行った骨盤内巨大脂肪肉腫の1例

論文・著書、編集・監修

- 【雑誌名】日本臨床外科学会雑誌
【発表者】辻顕
【題名】腹腔鏡下に切除した腸間膜原発神経内分泌腫瘍の1例

認定施設等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD参加施設

乳腺外科

スタッフ紹介



乳腺外科部長

林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳房オンコプラステックサージヤリー学会乳房再建責任医師、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)・乳房超音波医師講習会(A判定)

乳腺外科の特色

乳腺外科は、乳腺炎、良性乳腺腫瘍、女性化乳房などをはじめ、AYA世代から増加してくる乳がんを主な対象疾患としています。当院最大の特徴は3Dプリンターで作製した患者さま自身の乳がんの実物大モデルを使用し、患者さま本人および御家族に乳がんを実感できる新規の医療を行っている点です。

手術

通常の乳癌手術は全身麻酔下で行うことが多いのですが、症例に応じて局所麻酔下での乳癌手術も手掛けています。

薬物療法

乳がん術後の補助化学療法は、標準治療を基本的に行います。一方で再発治療では標準治療を基本として患者さんの基礎疾患や希望を取り入れた個別化医療を積極的に行っています。

乳がん手術症例数

平成30年から当院の乳がん症例数は急増しています。それに伴い乳がん手術症例数も増加し、乳がん専門病院として今まで以上に八代地域の乳がん診療に貢献してまいります。尚この地域の高齢化世代の増加により高齢者乳がんの症例数増加が最近の特徴です。

乳癌健診

乳がん専門病院として、クーポン健診をはじめとして地域密着型の乳がん検診を積極的に受け入れています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	林		林	林

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

- 新入院患者数 174人
- 入院患者数 延べ患者数 1,473人(4.0人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 2,127人(8.7人/日)

手術実績 (平成30年度 年間実績)

症 例	件 数
乳房悪性腫瘍手術	48件
乳腺腫瘍摘出術	16件

検査実績 (平成30年度 年間実績)

症 例	件 数
乳腺超音波検査	258件
マンモグラフィー検査	205件

学会・講演会発表等

発表等

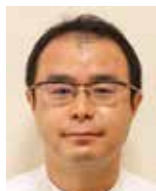
- 【学会名】第26回 日本乳癌学会学術総会 (ポスター)
【日程・会場】平成30年5月 京都
【発表者】林裕倫
【題 名】Real size 3D breast tumor model を使用した乳腺診療と乳癌検診の啓蒙活動の取り組み
- 【学会名】第80回 日本臨床外科学会総会 (ポスター)
【日程・会場】平成30年11月 東京
【発表者】林裕倫
【題 名】MRI画像を乳腺超音波検査へ反映させる教育ツールとしてのReal size 3D breast model
- 【学会名】院内講演
【日程・会場】平成30年9月 八代市
【発表者】林裕倫
【題 名】乳癌3Dモデルを使用した乳腺診療

認定施設等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介



呼吸器外科部長

柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、がん治療認定医、緩和ケア研修会受講、指導医養成ワークショップ受講、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

呼吸器外科医師

隈元 清仁

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さまには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さまへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するという事は、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数 (平成30年度 年間患者数)

- 新入院患者数 125人
- 入院患者数 延べ患者数 1,366人(3.7人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 510人(2.1人/日)

手術実績 (平成30年度 年間実績)

- 手術件数 92件

症例	件数
肺癌	40件
転移性肺腫瘍	7件
縦隔腫瘍	3件
気胸	19件
膿胸	8件
その他	15件

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】第41回 日本呼吸器内視鏡学会総会 (ポスター)
- 【日程会場】平成30年5月 東京
- 【発表者】柴田英克
- 【題名】ノカルジア感染を繰り返した嚢胞状気管支拡張を伴う肺分画症の1切除例

認定施設等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

小児外科・移植外科

スタッフ紹介



小児外科部長

大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本移植学会認定医



移植外科部長

林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会



小児外科、移植外科医師
(院長)

猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本小児消化器栄養肝臓学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医、熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長)

小児外科・移植外科の特色

小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行います。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、3名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留睾丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることがあ

り、そのような症例の紹介にも対応しています。なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例が最多で、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥、など救急疾患にも対応します。

移植外科

日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、移植施設への紹介、などを行います。また、術後患者さまの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

手術実績

症例	件数
15歳以下の外科手術症例数	24件
腹腔鏡下虫垂切除術	15件
鼠径ヘルニア	4件
臍ヘルニア	1件
停留精巣	1件
胆道拡張症	1件
その他	2件

その他

移植外科として、肝移植術後患者のフォロー、肝移植に関する説明、大学移植外科への紹介、などの実績があります。

小児外科・移植外科

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】 八代外科医会
【日程・会場】 2018年7月 八代市
【発表者】 猪股裕紀洋
【題名】 肝移植の現状
 - 【学会名】 第54回 日本移植学会総会
【日程・会場】 2018年10月 東京
【発表者】 大矢雄希
【題名】 マウス肝切除モデルを用いた肝再生におけるmicroRNA221の役割の検討
 - 【学会名】 熊本大学病院 肝移植患者の会
【日程・会場】 2018年11月 熊本
【発表者】 猪股裕紀洋
【題名】 移植後長期経過後の問題点
- 論文・著書、編集・監修
- 【発表者】 Honda M, Sugawara Y, Kadohisa M, Shimata K, Sakisaka M, Yoshii D, Uto K, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Yamamoto H, Inomata Y, Hibi T.
【雑誌名】 Transplantation. 2018;102(10):1702-1709
【題名】 Long-term Outcomes of ABO-incompatible Pediatric Living Donor Liver Transplantation.
【発表年月】 2018年10月
 - 【発表者】 Kadohisa M, Sugawara Y, Shimata K, Kawabata S, Narita Y, Uto K, Yoshii D, Hayashida S, Oya Y, Yamamoto H, Yamamoto H, Inomata Y, Hibi T.
【雑誌名】 Transplantation Proc. 2018;50(4):1129-1131
【題名】 Duodenal Ulcer as a Postoperative Complication in the Donor in Living-Donor Liver Transplantation.
【発表年月】 2018年5月
 - 【発表者】 Isono K, Ohya Y, Lee KJ, Hashimoto S, Kadohisa M, Sakisaka M, Uto K, Hayashida S, Yamamoto H, Sugawara Y, Inomata Y.
【雑誌名】 Pediatr Transplant. 2018;22(5):e13221
【題名】 Pretransplant trends in α -fetoprotein levels as a predictor of recurrence after living donor liver transplantation for unresectable hepatoblastoma: A single-institution experience.
【発表年月】 2018年5月

- 【発表者】 Miura K, Sugawara Y, Uchida K, Kawabata S, Yoshii D, Isono K, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Kobayashi T, Wakai T, Inomata Y, Hibi T.
【雑誌名】 Transplant Direct. 2018;4(5):e341
【題名】 Adult Living Donor Liver Transplantation for Patients With Portal Vein Thrombosis: A Single-center Experience.
【発表年月】 2018年4月
- 【発表者】 Kido J, Matsumoto S, Sakamoto R, Mitsubuchi H, Inomata Y, Nakamura K.
【雑誌名】 Pediatr Transplant. 2018;22(8):e13292
【題名】 Recovery of severe acute liver failure without transplantation in patients with Wilson disease.
【発表年月】 2018年12月
- 【発表者】 Uto K, Sakamoto S, Que W, Shimata K, Hashimoto S, Sakisaka M, Narita Y, Yoshii D, Zhong L, Komohara Y, Li XK, Inomata Y, Hibi T.
【雑誌名】 BMC Gastroenterol. 2019;19(1):25
【題名】 Hydrogen-rich solution attenuates cold ischemia-reperfusion injury in rat liver transplantation.
【発表年月】 2019年1月

研究活動

- 厚生労働科学研究難治性疾患政策研究事業
「小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究」 研究協力者
- 文部科学省大学改革促進経費
課題解決型高度医療人養成プログラム高難度手術領域「国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成-6大学連携プログラム-」 事業実行責任者

認定施設等

- 日本外科学会専門医制度修練施設

小児科

スタッフ紹介



小児科部長

吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】 日本小児科学会専門医

小児科副部長

松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師

永沼 節子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師

西 智美

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会

小児科医師

橘 秀和

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科の特色

小児科診療は疾病治療を行うだけではありません。

子どもの健康や安全に関する情報を提供し指導することも大切な役目です。また、潜在する成長障害児や発達障害児をみつけ適切に対応することも重要です。さらに障害をもつ子供たちに対するサポートは小児科医が先頭にたって取り組むべき任務と考えます。

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっています。年間500～600人の入院(新生児を含む)があり全般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
永沼	松石	永沼	永沼	永沼
松石	西	松石	松石	松石
西	橘	西	西	西
橘		橘	橘	橘

診療実績

患者数(2018年度 患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 3,051人(8.4人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 9,018人(37.0人/日)

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】 第78回 城南小児科研究会
- 【日程会場】 2018年11月 熊本
- 【発表者】 西智美
- 【題名】 本態性高Na血症との鑑別に難渋した高張生脱水症の一例

脳神経外科

スタッフ紹介



脳神経外科部長

等 泰之

【専門・認定・資格・所属学会】 日本脳神経外科学会専門医・指導医

脳神経外科医師

舎川 健史

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会

脳神経外科医師

吉田 顕正

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会認定医・
専門医・指導医

脳神経外科の特色

2018年4月からは2人体制にもどり、365日24時間体制となって2019年度は2年目となりました。順調に手術症例は増加しております。

日々忙しい中、八代市周辺はもちろんのこと、球磨郡や熊本市内の救急病院からなど他地域からの転送も常時受け入れています。

治療内容としては、一般的な脳神経外科に要求される基本的治療が可能です。脳血管障害としては、脳出血に対する開頭手術による血種除去はもちろんのこと、内視鏡によるminimal invasiveな血種除去も可能です。クモ膜下出血など脳動脈瘤関連疾患に対しては開頭による脳動脈瘤頸部クリッピング、また技術革新の目覚ましい血管内手術も大学の専門医の応援を得て可能です。最近では内頸動脈狭窄症に対する手術や三叉神経痛に対する血管神経減圧術も数を増やしてきています。

また高齢者に多い治せる認知症である正常圧水頭症に対する髄液シャント手術も積極的に行っています。頭部重症外傷に対しては脳圧センサーを用いたICUでの脳圧管理も可能です。新しい顕微鏡がまもなく導入される予定となっています。設備を充実することで、大学病院との連携を図りながら、当院における放射線治療を活かした、悪性脳腫瘍の治療なども検討してゆきたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
等		等		等
舎川		舎川		舎川

診療実績

患者数 (2018年度 年間実績)

- 新入院患者数 275人
- 入院患者数 延べ患者数 5,819人(15.9人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 2,473人(10.1人/日)

手術実績 (2018年度 年間実績)

症 例	件 数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	34件
水頭症手術(シャント手術)	26件
脳動脈瘤頸部クリッピング	11件
頭蓋内血腫除去術(開頭・脳内)	8件
頭蓋骨形成手術	7件
頭蓋内血腫除去術(開頭・硬膜下)	6件
減圧開頭術(キアリ含む)	5件
内視鏡下脳内血腫除去術	3件
頭蓋内血腫除去術(開頭・硬膜外)	3件
脳腫瘍手術 (開頭手術、オンマイヤー留置含む)	3件
血管内手術 (コイル塞栓、ステント留置)	3件
穿頭脳室ドレナージ術	2件
合 計	111件

認定施設等

- 日本脳神経外科学会連携施設

整形外科

スタッフ紹介



整形外科部長
(副院長)

池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本職業・災害医学会 労災補償指導医、臨床研修指導医、地方労災医員



関節外科部長

宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、臨床研修指導医



整形外科部長

大山 哲寛

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医



手外科部長

土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、臨床研修指導医



脊椎外科部長

川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医



第二整形外科部長

二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医



第二脊椎外科部長

武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師

坂本 佳菜子

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会認定医、日本人工関節認定医

整形外科の特色

整形外科では医師8名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気ももらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節下手術など)、手外科、マイクロ、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。2018年度(2018年4月から2019年3月)手術1,586例でした。救急・手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。

整形外科

2018年度で1日平均入院患者数83.6人、1日外来患者数98.5人、平均在院日数20.9日でした。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただいています。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
川添	宮崎	川添	武藤	池田
土田	池田	二山	土田	宮崎
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
二山	大山	武藤	大山	坂本
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数等 (2018年度 年間実績)

- 入院患者数 30,504人(83.6人/日)
- 外来患者数 24,035人(98.5人/日)

手術実績 (2018年度年間 手術室内手術症例)

- 症例数 1,586例
- ※ 同一患者の対する同時複数手術例あり
手術症例患者数は1,371例

症例	件数
骨折関係	425件
骨折観血の手術	382件
骨折経皮的鋼線刺入固定術	28件
関節脱臼観血的整復術	15件
偽関節手術	0件

症例	件数
脊椎関係	448件
椎弓切除術(開窓術も含む)	181件
頸椎椎弓形成術	70件
脊椎固定術	71件
椎間板摘出術	87件
経皮的椎体形成術(BKP)	28件
黄色靭帯骨化症手術	5件
脊髄腫瘍摘出術	6件
関節関係	231件
人工関節(股・膝)置換術・人工骨頭挿入術	156件
関節鏡下半月版切除術	35件
その他	40件
手外科関係	246件
手根管症候群	111件
腱鞘切開	69件
動脈皮弁術	3件
腱移行	8件
腱縫合	19件
神経移行術	11件
動脈吻合	2件
ガングリオン摘出術	2件
その他	21件
その他	236件
骨内異物(挿入物)除去術	107件
骨移植	41件
創傷処置	30件
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出皮下腫瘍摘出	7件
断端形成	6件
アキレス腱断裂手術	10件
四肢切断術	5件
その他	30件

整形外科

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】 第136回 西日本整形災害外科学会
 【日程・会場】 2018年11月 長崎
 【発表者】 土田徹
 【題 名】 当院における手指MP関節ロッキングの治療経験
- 【学会名】 熊本整形外科医会
 【日程・会場】 2018年12月 熊本
 【発表者】 武藤和彦
 【題 名】 3Dプリンターを用いた手術支援の試み
- 【学会名】 熊本脊椎手術手技懇話会
 【日程・会場】 2019年2月 熊本
 【発表者】 武藤和彦
 【題 名】 3Dプリンターを用いた手術支援の試み
- 【学会名】 日本手外科学会
 【日程・会場】 2018年4月 東京
 【発表者】 土田徹
 【題 名】 手指・手関節伸展障害に対する腱移行術による機能再建術

論文発表

- 【発表者】 片山修治
 【雑誌名】 整形外科と災害外科67巻3号
 【題 名】 人工関節置換術後に発症した膝窩動脈瘤の1例
 【発表年月】 2018年9月
- 【発表者】 甲斐裕基
 【雑誌名】 整形外科と災害外科67巻3号
 【題 名】 手術を行った特発性脊髄硬膜外血腫7例の治療成績
 【発表年月】 2018年9月

認定施設等

- 日本整形外科専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介



形成外科部長

小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会専門医

形成外科医師

松本 由希子

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会専門医

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

熊本県南で形成外科が設置されている病院は当院のみとなっております。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から瘢痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

後天性変形

- 熱傷、外傷後の瘢痕、瘢痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉		松本	小倉	
松本			松本	

診療実績

患者数(2018年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 967人(2.6人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 3,174人(12.9人/日)

手術実績(2018年度 年間実績)

区分	件数
入院手術件数	107件
全身麻酔	53件
腰麻・伝達麻酔	4件
局所麻酔・その他	50件
外来手術件数	438件
局所麻酔・その他	438件

形成外科

区 分	入院手術			外来手術	件 数
	全身麻酔	腰麻・ 伝達麻酔	局所麻酔 ・その他	局所麻酔 ・その他	
外傷	13件	2件	13件	124件	152件
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷 の手術例	2件	2件	1件		4件
顔面軟部組織損傷	1件		8件	113件	122件
顔面骨折	10件		4件		14件
頭部・頸部・体幹の外傷				3件	3件
上肢の外傷			1件	3件	4件
下肢の外傷				5件	5件
先天異常	12件		1件	6件	19件
頭蓋・顎・顔面の先天異常	6件		1件	6件	13件
頸部の先天異常	1件				1件
四肢の先天異常	5件				5件
腫瘍	25件	2件	25件	246件	298件
良性腫瘍(レーザー治療除く)	19件	1件	19件	239件	278件
悪性腫瘍	6件	1件	6件	7件	20件
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド				3件	3件
難治性潰瘍	3件		3件	5件	11件
褥瘡	1件		2件		3件
その他の潰瘍	2件		1件	5件	8件
炎症・変性疾患			3件	30件	33件
美容(手術)			1件		1件
その他			4件		4件
Ex レーザー治療				24件	24件
良性腫瘍でのレーザー治療例				21件	21件
美容処置でのレーザー治療例				3件	3件
大分類計	53件	4件	50件	438件	545件

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長

守屋 千賀子

【専門・認定・資格・所属学会】 日本皮膚科学会専門医

皮膚科医師

押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】
日本皮膚科学会専門医、日
本研究皮膚科学会

皮膚科医師

丸田 志野

【専門・認定・資格・所属学会】
日本皮膚科学会

皮膚科の特色

皮膚は生体の最外層にあり体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります。また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。

このような様々な機能を担う皮膚に生じる疾患には共通する特徴があります。最大の特徴は、症状（皮疹）が誰の目にも見えることです。一方で目に見えず、客観的に評価しにくいかゆみや痛み、異常知覚などの症状を伴うこともあります。また、外部環境に影響を受ける疾患が多いため、良くなったり悪くなったりを繰り返し、結果として慢性の経過をたどることも多くあります。そして皮膚疾患は年齢、性別を問わず誰にでも生じます。

たとえ命にかかわる病でなくとも、皮膚症状により日常生活や社会生活に支障を来すこともありますので、皮膚に関して困りごとがある方はどうぞ皮膚科を受診されてください。

<医療機関の方々へ>

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介ください(なお当院で対処できない場合は他の医療機関へ紹介させていただくこともありますので予めご了承ください)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
守屋	守屋	押川	守屋	守屋
押川	押川	丸田	押川	丸田

診療実績

患者数 (2018年度 年間患者数)

- 新入院患者数 106人
- 入院患者数 延べ患者数 967人(2.6人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 3,174人(12.9人/日)

手術実績 (2018年度 年間実績)

区 分	件 数
入院 手術件数	39件
外来 手術件数	92件

検査実績 (2018年度 年間実績)

区 分	件 数
皮膚生検	238件

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 熊本皮膚科医会理事：守屋千賀子

認定施設等

- 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設

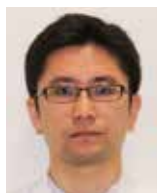
泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長
宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医



第二泌尿器科部長
富永 成一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医

泌尿器科医師
村上 道洋

【専門・認定・資格・所属学会】
日本泌尿器科学会

泌尿器科の特色

私たち泌尿器科では悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。

年平均手術件数は悪性腫瘍の手術を中心に、ここ数年300例/年ほどで推移しています。

悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断・早期治療および、手術、放射線治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。近年増加の著しい前立腺癌もPSA測定の普及以降、早期診断・早期治療が可能となった疾患の最たるものであります。当院でも増加の一途をたどり、近隣医療機関からのご紹介により早期診断例が増加しております。

排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して、積極的に手術を行っています。

また、小児の停留精巣固定術や膀胱尿管逆流防止術などのほか、尿路結石に対する手術も行っています。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完結させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談下さい。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日 につき 要相談	宮本 (第1・3・5)	富永	村上
		村上 (第2・4)		

診療実績

患者数 (2018年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 3,665人(10.0人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 6,669人(27.3人/日)

手術件数 (2018年度 年間実績)

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	58件
経尿道的前立腺切除術	12件
膀胱全摘術	7件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	13件
前立腺全摘術	18件
小児精巣固定術	6件
尿道狭窄内視鏡手術	1件
前立腺生検	90件
経尿的尿管ステント留置術	26件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等) 上部尿路	7件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等) 下部尿路	11件
精巣の手術(除睾術陰のう水腫等)	44件

泌尿器科

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】日本泌尿器科学会 第195回 熊本地方会
【日程・会場】平成30年3月10日 熊本
【発表者】村上道洋、富永成一郎、宮本豊
【題名】当院で経験した手術を要した急性陰嚢症の5例
- 【学会名】日本泌尿器科学会 第196回 熊本地方会
【日程・会場】平成30年9月22日 熊本
【発表者】村上道洋、富永成一郎、宮本豊
【題名】腎癌肺転移を疑いVATSを行った1例

論文発表

- 富永成一郎、宮本豊：陰茎重複症を疑われた会陰部副陰嚢の1例
西日本泌尿器科. 80(5):234-236, 2018.

認定施設等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介



産婦人科部長
(副院長)

東矢 俊光

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構認定医、母体保護法指定医師



第二産婦人科部長

本田 智子

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本生殖医学会・生殖医療専門医

産婦人科医師(3ヶ月毎交替)

産婦人科専攻医 西村、片渕、吉村

産婦人科の特色

外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っています。手術は子宮筋腫、子宮癌、子宮脱、卵巣腫瘍などに対して開腹手術はもちろん腹腔鏡下手術や腔式手術も行っております。分娩も自然分娩はもちろん、いろんな合併症妊娠例にも対応しています。

当科で行っている診療内容のいくつかについてご紹介します。

産科領域

- **子宮動脈塞栓術:** 当院放射線科の協力で、産後多量出血例や帝王切開後の多量出血例に応用し、良好な成績を得ています。
- **無痛分娩:** 当院麻酔科の協力で、希望される患者さまに施行しています。患者さまの強いご希望があれば、施行しています。

婦人科領域

- **腹腔鏡下手術:** 当科では良性卵巣腫瘍や異所性妊娠などにも腹腔鏡下手術を積極的に行っております。また子宮筋腫症例に対して、患者負担の軽い、腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)を行っております。もちろん大きな筋腫などは腹式手術を行っています。
- **腔式手術:** 子宮脱などに対して腔式手術を標準的に行っています。

- **子宮鏡下手術:** 子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対して経腔的に子宮鏡下手術を行っています。
- 子宮筋腫などの過多月経の治療として、子宮内膜焼却装置を導入しました。3-4日間の入院で済みます。また月経困難症の治療として子宮内リング(LNG-IUS)も導入しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
東矢	本田	東矢	専攻医	本田
専攻医	専攻医	本田	本田	専攻医

診療実績

患者数 (2018年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 6,231人(17.1人/日)
- 外来患者数 延べ患者数 8,060人(33.0人/日)

手術実績

- 婦人科手術

項目	件数
開腹子宮全摘術	35件
子宮筋腫	24件
子宮腺筋症・内膜症	8件
CIN 3	3件
悪性腫瘍・準広汎、広汎	16件
悪性腫瘍・AT+BSO、再発	12件
開腹・筋腫核出	7件
腹腔鏡下附属器腫瘍手術	30件
開腹・附属器腫瘍手術	11件
腹腔鏡下異所性妊娠手術	7件
開腹・異所性妊娠手術	2件
子宮脱・VT etc	18件
膣壁形成	3件
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	11件

産婦人科

項目	件数
TLH	
円錐切除	25件
D&C(子宮内膜掻爬)	6件
D&C(流産)	14件
子宮鏡下内膜ポリープ手術	8件
子宮鏡下筋腫手術	5件
その他	12件
帝王切開	48件
選択的帝王切開	28件
緊急帝王切開	20件
計	270件

■ 産科

項目	件数
分娩数	115件
帝王切開	48件

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】第228回 熊本産科婦人科学会
学術講演会
【日程・会場】2018年6月
【発表者】岸本かおり、本田智子、東矢俊光
【題名】周産期に見られた卵巣静脈血栓症の3症例に関する検討
- 【学会名】第60回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会
第17回 Biennial meeting of the
International Gynecologic Cancer
Society(IGCS)
【日程・会場】2018年9月 京都
【発表者】Toshimitsu Tohya, M.D.,
【題名】TWO CASES OF ACUTE MYELOID
LEUKEMIA AFTER THE OPERATIONS
OF THE ENDOMETRIAL CANCER
AND THE UTERINE ADENOMYOSIS.
- 【学会名】第229回 熊本産科婦人科学会
学術講演会
【日程・会場】2018年10月 熊本

【発表者】東矢俊光、本田智子、相良昭仁
【題名】子宮体癌術後と子宮腺筋症術後に発症した白血病の2症例

- 【学会名】第230回 熊本産科婦人科学会
学術講演会
【日程・会場】2019年3月 熊本
【発表者】本田智子、下川理沙、東矢俊光
【題名】子宮頸部合併妊娠として紹介された妊娠
子宮嵌頓症の1例

論文・著書等

- 【発表者】東矢俊光、松尾勇児、岡島翠、澤村駿吾、立石真知子、福岡博文、中村信一、荒木祐至
【雑誌名】産科と婦人科、2018;85:1393-1398
【題名】妊娠中のMRI検査に関する臨床的検討
—特に前置胎盤や常位胎盤早期剥離症例
について—
【発表年月】2018年
- 【発表者】宮内文久、大角尚子、香川秀之、星野寛美、
松江陽一、中山昌樹、藤原多子、志岐保彦、
伊藤公彦、辰田仁美、東矢俊光
【雑誌名】日本職業・災害医学会会誌、JJOMT、66:
129-137
【題名】子宮筋腫より見えてきた就労の影響
【発表年月】2018年
- 【発表者】宮内文久、大角尚子、香川秀之、星野寛美、
松江陽一、中山昌樹、藤原多子、志岐保彦、
伊藤公彦、辰田仁美、東矢俊光
【雑誌名】日本職業・災害医学会会誌、JJOMT、66:
221-226
【題名】夜間勤務が月経痛へ及ぼす影響
【発表年月】2018年
- 【発表者】宮内文久、大角尚子、香川秀之、星野寛美、
松江陽一、中山昌樹、藤原多子、志岐保彦、
伊藤公彦、辰田仁美、東矢俊光
【雑誌名】日本職業・災害医学会会誌、JJOMT、66:
486-491
【題名】労災病院に勤務する女性の健康状態の2
年間の変化
【発表年月】2018年

研究活動

- 厚生労働省 労災疾病臨床研究補助金事業
「女性特有の疾病等が就労に及ぼす影響及びその治
療と就労の両立に関する調査研究」(150201-01)
【研究代表者】宮内文久 愛媛労災病院長
【研究者】東矢俊光 熊本労災病院副院長

認定施設等

- 日本産科婦人科学会専門研修連携施設

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長
増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会・役職等】日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、補聴器適合判定医師、日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会理事、日本耳鼻咽喉科学会熊本県補聴器キーパーソン、熊本県障害児審査委員会委員

耳鼻咽喉科医師
高野 若菜

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科医師
植田 寛之

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科の特色

令和元年10月に常勤医2名から3名に増員となりました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っています。

特色

- 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っています。
- 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っています。
- 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加しています。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行しています。また頭頸部癌手術も積極的に施行しています。終末期医療もできる限り当院で行っています。
- 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいます。予約制の特殊外来として、補聴器耳鳴外来、嚥下外来、嗅覚外来、めまい外来を開設しています。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増することが予測されるため、これに対応する外来診療の充実を図っています。
- 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加しています。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
午前	1診	増田	増田	高野	増田	高野
	2診	高野	植田	植田	植田	
午後					補聴器・ 耳鳴外来	手術
		補聴器・ 耳鳴外来 (1,3,5週) めまい 外来	手術		嚥下外来	手術

診療実績

患者数の推移 (※平成30年1月～12月実績)

	外来新患患者数	入院患者数
平成27年	921人	136人
平成28年	1483人	339人
平成29年	1790人	498人
平成30年	1897人	490人

手術実績 (※平成30年1月～12月実績)

症 例	件 数
耳科手術	44件
鼓膜チューブ挿入術	39件
先天性耳瘻管摘出術	2件
その他耳科手術	3件
鼻科手術	91件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	55件
鼻中隔矯正術	20件
鼻甲介切除術	11件
その他鼻科手術	5件

耳鼻咽喉科

症 例	件 数
口腔咽喉頭手術	243件
扁桃摘出術	147件
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	11件
□蓋垂・軟□蓋形成術	1件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	2件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	2件
咽頭良性腫瘍摘出術	2件
咽頭悪性腫瘍摘出術	4件
アデノイド切除術	38件
喉頭微細手術	23件
嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、 音声機能改善手術	1件
頭頸部手術	61件
頸部郭清術	12件
頭頸部腫瘍摘出術	43件
顎下腺良性腫瘍摘出術	4件
耳下腺良性腫瘍摘出術	8件
甲状腺良性腫瘍摘出術	4件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	9件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	3件
喉頭悪性腫瘍摘出術	3件
リンパ節生検	6件
頸部嚢胞摘出術	3件
顎下腺摘出術	3件
その他頸部手術	6件
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	5件
気管切開術	11件

地域活動の実績

増田聖子

- 熊本県障害児審査委員会委員(平成27年度～)
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学校保健担当委員(平成29年度～)
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会医療福祉担当委員(平成29年度～)

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
【日程・会場】2018年6月9日 熊本市
【発表者】岡崎太郎
【共同演者】植田寛之、草場雄基、増田聖子
【題 名】硬膜炎をきたした浸潤型副鼻腔真菌症の1例
【分 類】一般演題(口演)
- 【学会名】日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
【日程・会場】2018年6月9日 熊本市
【発表者】植田寛之
【共同演者】岡崎太郎、草場雄基、増田聖子
【題 名】硬□蓋に発生した多型腺腫の1例
【分 類】一般演題(口演)
- 【学会名】第80回 耳鼻咽喉科臨床学会
【日程・会場】2018年6月29日～30日 横浜市
【発表者】草場雄基
【共同演者】増田聖子
【題 名】内頸動脈解離が原因で喉頭麻痺を来した1症例
【分 類】一般演題(ポスター)
- 【学会名】平成30年度 第1回 熊本労災病院救急症例検討会
【日程・会場】2018年9月21日 八代市(院内)
【発表者】増田聖子
【題 名】気管□狭窄のCPA症例
【分 類】口演
- 【学会名】第57回 日本鼻科学会
【日程・会場】2018年9月27日～29日 旭川市
【発表者】増田聖子
【共同演者】草場雄基、植田寛之、岡崎太郎
【題 名】眼症状がなく、硬膜炎で発症した浸潤型副鼻腔真菌症の1例
【分 類】一般演題(口演)

耳鼻咽喉科

- 【学会名】第70回 気管食道科学会
【日程・会場】2018年11月8日～9日 東京都
【発表者】増田聖子
【共同演者】草場雄基
【題名】甲状腺手術後に著明な嚥下障害をきたした2症例
【分類】一般演題(口演)
- 【学会名】第2回 九州ESSセミナー
【日程・会場】2018年12月15日 福岡市
【発表者】増田聖子
【題名】ビデオクリニック
【分類】口演

認定施設等

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)

眼科

スタッフ紹介



眼科部長

堤 孝之

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会専門医

眼科副部長

米村 瞳

【専門・認定・資格・所属学会】
日本眼科学会

視能訓練士 1名

眼科の特色

平成28年1月より当院眼科の常勤医勤務が再開となり、平成29年10月より前任の先生から引継ぎ、常勤医1名であったのが、平成31年4月より2名体制となっています。

月曜～金曜の午前に一般外来診療を行っています。

月曜・木曜の午後は手術、火曜・水曜・金曜の午後はレーザー治療、硝子体内注射、外来で可能な小手術、眼底造影検査、術前検査など特殊検査・処置を主に行っています。

当科では白内障手術を積極的に行っており、眼科常勤医勤務が再開後は白内障手術を増やしているところです。

白内障手術は当院では入院(主に2泊の入院)で行っています。

可能な限り多様な疾患に対応したいと思いますので、まずはご相談ください。今後ともよろしく願い申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
堤	堤	堤	堤	堤
米村	米村	米村	米村	米村

診療実績

患者数 (2018年度 年間患者数)

- 入院患者数 延べ患者数 119人
- 外来患者数 延べ患者数 3,819人
- 平均在院日数 1.5日

手術実績 (2018年度 年間患者数)

2018年度	件数
白内障手術	113件
外眼手術、外来手術など	107件

認定施設等

- 日本眼科学会専門医制度研修施設

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔科部長
(集中治療部長)

橋本 正博

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医、日本周術期経食道心エコー認定医、日本心臓血管麻酔学会専門医



第二麻酔科部長
(中央手術部長)

山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医、日本臨床麻酔学会



第三麻酔科部長

小野田 昌弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医・専門医、麻酔科標榜医

麻酔科副部長
桑原 麻菜美

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会認定医、日本臨床麻酔学会、日本小児麻酔科学会、麻酔科標榜医

麻酔科医師
奥 貴亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会、麻酔科標榜医

麻酔科医師
石原 旭

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会、麻酔科標榜医

麻酔科の特色

常勤医6名に加えて週1回、熊本大学麻酔科より非常勤医の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来にて直接診察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、それぞれの患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適な麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安

を和らげられるよう心がけており、質問などもお受けしています。術中の麻酔についてですが、麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔、下半身麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

また、地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。八代地域の救急隊員、救急救命士の養成、技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療体制

外来(術前外来)

月	火	水	木	金
橋本	橋本	橋本	橋本	橋本

診療実績

手術実績

症例	件数
手術室における手術件数(局所麻酔症例含む)	3,279件
麻酔科管理症例数	2,721件
全身麻酔	2,252件
6歳未満の小児症例	71件

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】第136回 熊本麻酔学会
- 【日程・会場】2019年1月 熊本
- 【発表者】長濱志帆
- 【題名】術中に運動誘発電位(motor evoked potential:MEP)が消失し、計3回の摘出術を施行した胸髄腫瘍の1例

放射線科

スタッフ紹介



放射線科部長

荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了



第二放射線科部長

福岡 博文

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会



第三放射線科部長

中村 信一

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者、日本IVR学会

放射線科医師

内村 竜太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

また、平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼動しています。国内でも最高峰レベルのCT装置ですので、熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
荒木	中村	福岡	荒木	荒木
	放射線治療外来 村上龍次 医師		IVR外来 田村吉高 医師	

診療実績

検査実績 (平成30年度 年間実績)

C T 検査	15,426件
MRI 検査	5,515件
R I 検査	398件

その他

大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年4月24日 熊本市
【発表者】荒井稚未、福岡博文
【題名】気管気管支骨軟骨形成症 (Tracheobronchopathia osteochondroplastica) の1例
- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年4月24日 熊本市
【発表者】福岡博文
【題名】当院における dual source CT の臨床応用について
- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年5月22日 熊本市
【発表者】野上鈴夏、福岡博文
【題名】正常卵巣捻転の1例

放射線科

- 【学会名】熊本画像診断研究会
【日程・会場】平成30年6月5日 熊本市
【発表者】中村信一
【題名】50歳未満の椎体新鮮圧迫骨折の診断における virtual noncalcium (VNCa) imageの有用性の初期検討
- 【学会名】第187回 日本医学放射線学会九州地方会
【日程・会場】平成30年6月23日～24日 熊本市
【発表者】宮崎蒼、中村信一、近藤匠、福岡博文、荒木裕至、草場雄基、増田聖子、二山勝也
【題名】石灰沈着性頸長筋腱炎の1例
- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年6月26日 熊本市
【発表者】吉積貴子、中村信一
【題名】悪性黒色腫の肝転移の1例
- 【学会名】熊本大学医学部放射線医学教室
開講71周年記念講演会
【日程・会場】平成30年7月14日 熊本市
【発表者】近藤匠、中村信一、福岡博文、荒木裕至
【題名】OHVIRA症候群の1例
- 【学会名】熊本MRIカンファレンス
【日程・会場】平成30年7月17日 熊本市
【発表者】山口紘輝、福岡博文
【題名】硬口蓋に発生した多形腺腫
- 【学会名】熊本MRIカンファレンス
【日程・会場】平成30年9月18日 熊本市
【発表者】近藤匠
【題名】高強度のADMIREを用いた単純CTによる肺塞栓検出能の検討
- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年11月27日 熊本市
【発表者】近藤匠
【題名】再発性多発軟骨炎(relapsing polychondritis)の1例
- 【学会名】熊本メディカルイメージング研究会
【日程・会場】平成30年1月22日 熊本市
【発表者】近藤匠
【題名】結腸に発生した化膿性肉芽腫(Pyogenic granuloma)の1例

研究会の開催

主催

- 熊本 Somatom Symposium
荒木裕至 (平成30年8月 熊本)

論文・著書、編集・監修

- 【雑誌名】MEDICAL NOW vol.84 P12～14
【発表日】平成30年 8月号
【発表者】荒木裕至
【題名】Triniasのアプリケーションを用いた腹部IVRIについて

認定施設等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長
(検査科部長)

栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格

主任検査技師
川野 陽子

主任検査技師
井上 博幸

検査技師
園田 鮎美

検査技師
森谷 智輝

検査技師
関本 香純

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。

全身の組織(頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、膵、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など)の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本(胸水、腹水、肺、膵、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節など多彩な穿刺吸引細胞診断を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診もを行っています。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想していない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断等件数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
組織診断	3,174件	3,330件	2,793件	3,282件
術中迅速診断	77件	87件	93件	106件
細胞診断	2,795件	3,152件	3,182件	3,574件
病理解剖	11件	9件	6件	6件

認定施設等

- 日本病理学会研修認定施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設

初期臨床研修医

当院は、病床数410床、医師数約80名の中規模病院で、基幹型研修医と協力型研修医の両者が研修しています。また、各科の協力(横のつながり)が得やすい環境となっており、これは研修医にとって大きなメリットであり、指導医も研修医を大事に育てる(鍛える)ことを常に考えています。

選択科も研修医の希望を尊重しています。年間を通して週1回は早朝講義を行い、また各科の定時のカンファレンスは研修医が自由に参加できる体制をとっています。

内科系においては、臓器疾患別の臨床研修、外科系、救急においては、麻酔科分野の研修も併せて行うことができます。また、当院の特色でもある勤労者医療、産業医活動、職業別疾患医療についても学ぶことができます。

副院長 池田 天史

臨床研修の目標

- 病院診療に関する基礎知識を習得し、医療の知識及び技術能力向上を養い、総合的診断能力の習得を目指すこと
- 医師としての社会的使命に理解を深め、人間の生命に関わる倫理、医療者としての人格の検証及び成長

基幹型 2年次



一期崎 優季



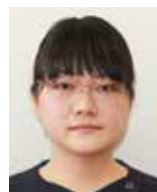
柏田 彩圭



佐々木 涼介



高木 寛



藤本 優果



吉積 華子

基幹型 1年次



大橋 聡



坂本 恭平



田中 祥平



蓑田 美喜子

協力型



大江 浩平
2019/04/01-
2020/03/31



柿木 理衣
2019/04/01-
2020/03/31



中村 衣里
2019/04/01-
2020/03/31



眞名子 聖史
2019/04/01-
2020/03/31



坂井 亜夕子
2019/10/01-
2020/09/30



佐多 俊紀
2019/10/01-
2020/09/30



樽美 備一
2019/10/01-
2020/09/30

医療安全管理室

スタッフ紹介



医療安全管理室長
医療安全総括責任者
(副院長、消化器内科部長)

佐々木 雅人



医療安全管理者
(看護師長)

西村 みどり

構成員

医療安全対策委員会副委員長(循環器内科部長)

松村 敏幸

糖尿病・代謝内科部長

金子 健吾

脊椎外科部長

川添 泰弘

医薬品安全管理者
(薬剤部長)

谷口 一成

医療機器安全管理者
(中央臨床工学部長)

植田 公昭

事務局次長

草野 克至

医事課長

片山 康雄

医療安全管理室の特色

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者に医療を提供しています。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題です。そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要となります。

医療事故を防止するためには「人間はエラーを犯すものである。」ということを前提として、スタッフ及びシステムによるエラーのチェック機能を強化し

ていくことが重要です。そのためには、医療事故やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策策の検討を行い組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動しています。

業務内容の特徴と実績

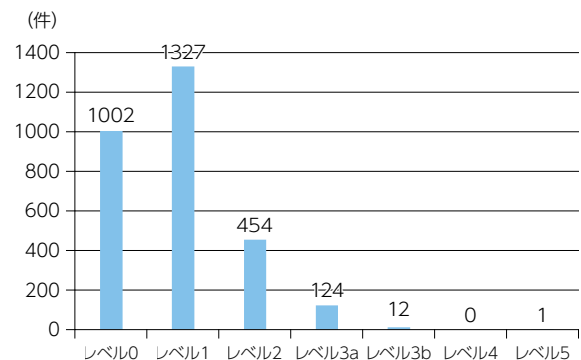
医療安全に対する目標、活動計画を企画し、インシデントレポート、医療事故報告の整理と対処についての検討を行っています。

また、重要事例に関しては病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者は相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては医療安全緊急対策会議にて、対応について検討しています。

職員の意識向上を図り、本院における医療安全の確保を目的として、医療安全推進週間を活用し院内ラウンドを実施しました。また、院内医療安全対策研修会へ参加できない職員のために、e-learningによる追加研修を実施し、学習できる機会を提供しました。

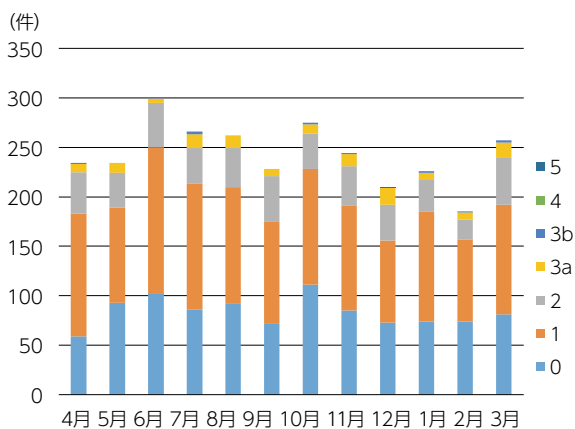
院内での新規採用者、中途採用者へのオリエンテーション、院外での医療安全に関わる研修や講演、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講および地域連携、労災病院間医療安全相互チェックなどを行っています。院内での研修活動としては院外講師を招いての講演会や関連部署の講師による講演会を主催しています。

2018年度 レベル別報告件数

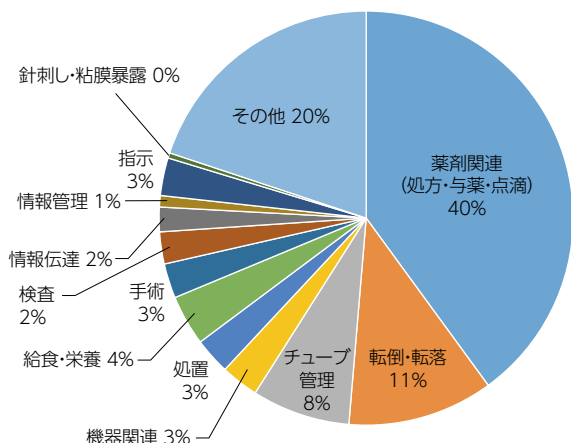


医療安全管理室

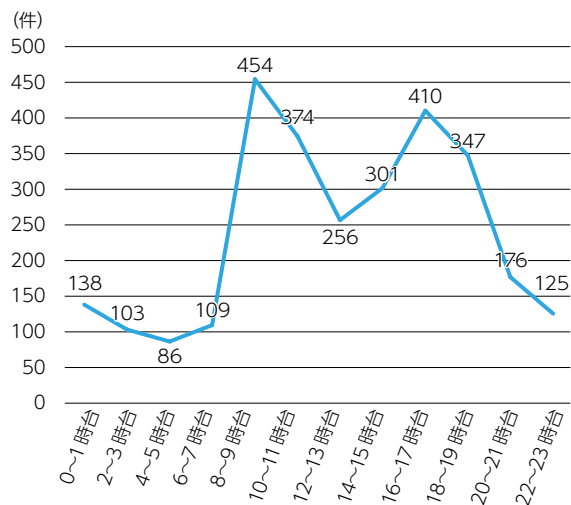
2018年度 月別レベル別報告件数



2018年度 医療事故報告表題別内訳



2018年度 発生時間別件数



医療安全講演会及び研修会

- 2018年6月28日
院内医療安全対策研修会
「医療安全の対策と対応～今だから知っておきたいこと～」
【講師】 鮎澤純子先生
(九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授・九州大学病院病院長補佐)
- 2019年1月25日
院内医療安全対策研修会
「医療安全と診療記録」
【講師】 嶋崎明美先生
(国立病院機構 姫路医療センター内科医長 教育研修室長)
- 2018年5月24日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
【講師】 橋本麻酔科部長
- 2018年7月2日
「末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル穿刺法」
【講師】 増田耳鼻咽喉科部長
- 「防ごう 皮膚の損傷～高齢者に起こりやすい皮膚損傷の予防とケア～」
【講師】 坂田舞皮膚・排泄ケア認定看護師
各11部署での開催
- 2018年11月26日
「医療ガス研修」
橋本麻酔科部長、吉住酸素、日本エアリキード
- * その他、新規職員対象BLS研修、新人看護師研修、研修医対象研修など

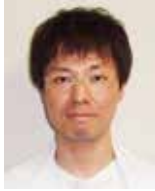
医療安全推進週間

- 平成30年11月26日～30日
【テーマ】 患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進

 - ポスター掲示
 - 手洗いチェック
 - ビデオ放映
 - 嚥下食、転倒予防グッズ等展示
 - 院内安全ラウンド
 - システム改善発表会

感染制御部

スタッフ紹介



感染制御部長
(第二呼吸器内科部長)

安道 誠

【認定・資格】 インфекションコントロールドクター



感染管理認定看護師

和久田 容子

【認定・資格】 感染管理認定看護師

感染対策チームスタッフ

小児外科部長

大矢 雄希

【認定・資格】 インフェクショ
ンコントロールドクター

主任薬剤師

丸山 久美子

【認定・資格】 感染制御専門
薬剤師、抗菌化学療法認定
薬剤師

主任臨床検査技師

森口 美琴

【認定・資格】 感染制御認定
臨床微生物検査技師

臨床検査技師

浜島 智央

【認定・資格】 感染制御認定
臨床微生物検査技師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チームと協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。
- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。
- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。
- アウトブレイク発生に係ること。

- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること。
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

● 院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。

2018年度は院内感染対策マニュアルを改訂しました。

● ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者およびCDIの患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

■ 2018年度 ICTラウンド対象患者

- MRSA：121件
- ESBL産生菌：64件
- その他の耐性菌：51件
- CDI：43件

■ 遺伝子検査(POT法)事例

- MRSA：1件(6株)

● サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、SSI部門、全入院患者部門)
- 耐性菌サーベイランス
- 手術部位感染(SSI)サーベイランス(外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス(ICU)
- 手指消毒剤使用量調査

感染制御部

● 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) の活動

広域抗菌薬 (MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC) や抗MRSA薬 (VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP) の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。

■ 2018年度 AST介入実績

- 血液培養陽性者：189件
- 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：143件
- 介入が必要と考えられた患者：5件

● 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、HBVなど) 検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。

院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

■ 2018年度 血液・体液曝露発生数

- 針刺し・切創：12件
- 粘膜曝露：3件

■ 2018年度 結核曝露発生数

- 外来：2件、病棟：4件

● 教育・啓発

【教育】

- 入職者オリエンテーション
- 院内感染対策研修会の企画・開催
 - 2018年6月6日
「手指衛生と手袋の着脱のタイミング」
「抗菌薬適正使用支援チームの活動について」
 - 2018年12月21日
「インフルエンザの感染対策について」
「抗菌薬適正使用支援チームの活動報告」

【啓発・広報】

- 院内感染対策菌 週報の発行
- 院内誌 (ばんぺいゆ) における「Infection Control Teamだより」の掲載
- 医療安全推進週間におけるイベント (外来ホール) における手洗いチェック

● コンサルテーション

感染症診療および感染対策に関するコンサルテーションを行っています。

● アウトブレイク等の対応

2018年度におけるアウトブレイク事例

- インフルエンザ：2病棟

● 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

■ カンファレンス

連携病院：八代北部地域医療センター

- 2018年5月21日
平成29年度集計報告
- 2018年9月10日
職業感染対策を含めたウイルス疾患の対応について
- 2018年12月3日
インフルエンザ対策について
- 2019年3月18日
八代北部地域医療センターのラウンド

■ 相互チェック

連携病院：熊本医療センター、熊本機能病院

- 訪問：熊本機能病院 (2018年9月5日)
- 受審：熊本医療センター (2018年10月3日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本感染対策研究会
- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク (KCMN)

院外における講演会等

- 看護協会八代支部研修 感染管理基礎編
- 地域の医療・福祉施設の研修会：2施設

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】第33回 日本環境感染学会 (口演)
- 【日程・会場】平成31年2月 神戸
- 【発表者】和久田容子
- 【題名】2017/18シーズンにおける季節性インフルエンザ院内感染症例の検討

地域医療連携部

スタッフ紹介



地域医療連携部長
(循環器内科部長)

松村 敏幸



地域医療連携部副部長
(第二消化器内科部長)

瀬戸山 博子

スタッフ

地域医療連携室係長	1名
MSW	4名
退院調整看護師	3名
事務職	2名

地域医療連携部の特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者さまの転院受入調整及び紹介患者さまの問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保険機関(在宅事業所および施設等との調整)と幅広く各分野との連携業務を行っており、常に患者さまのサポートとして関わることを心がけています。

また、外来・入院患者さまに対する相談業務も併せて行っており、各諸法制度に対する手続き及び相談、各種障害に関する相談、生活支援・行政サービスに関する相談などにも携わっています。

がん相談支援センターも隣接し、主に患者さまやその家族、一般の方を対象に、専任看護師による電話相談や対面相談を行い、また、他の医療機関との更なる連携強化を図り、患者さまに良質の医療が提供できるよう努力してまいります。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携して、がんで治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師3名、MSW4名、事務職3名(1名兼任)の12名体制です。

ここでは、患者さまの紹介・逆紹介の手続きを行っています。また、入院患者さまの入院から退院するまでのサポートを実施しています。

隣接するがん相談支援センターは、看護師6名による体制となっています。

センターでは、主に患者さまやその家族、一般の方を対象に、専任看護師による電話相談や対面相談を行い、また、地域の医療機関とがんに関する情報を共有して、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上をめざしていきます。

「両立支援相談窓口」では、がんなどの病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。

当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

業務実績

相談・支援(2018年度)

- 退院相談 1,239件
- 在宅療養支援(外来) 461件

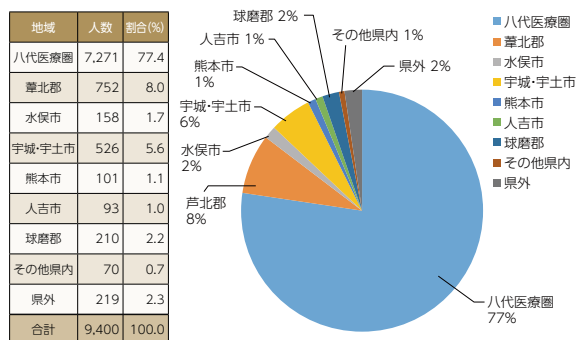
紹介率・逆紹介率

	2017年度	2018年度
紹介率	80.1%	78.8%
逆紹介率	84.9%	81.3%

地域医療連携部

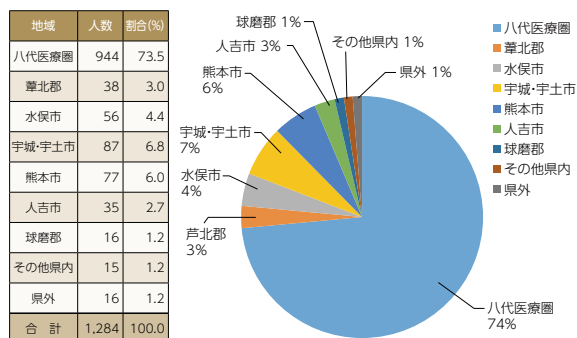
入院患者の居住別調 (2018年度)

- 八代医療圏の患者が最も多く、芦北郡、宇城・宇土市と続くこの3地域で91.0%を占めます。
- 入院患者の居住地別調 (2018年4月～2019年3月)



入院患者の転院先地域別調 (2018年度)

- 八代医療圏の患者が最も多く、宇城・宇土市、熊本市と続くこの3地域で86.3%を占めます。
- 入院患者の転院先地域別調 (2018年4月～2019年3月)



両立支援相談窓口相談件数等実績 (2018年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	1	0	2	1	2	1	3	1	1	1	3	2	18
面談数	1	1	3	2	4	5	4	4	4	7	3	3	41

熊本労災病院地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、1部では当院医師の専門分野の講演を行い、2部では懇親会を開催して地域の開業医等の先生との意見交換を行っています。

2017年度

- 【日 時】平成29年6月29日(木)
- 【場 所】セレクトロイヤルホテル八代
- 【出席者数】168名

2018年度

- 【日 時】平成30年6月22日(金)
- 【場 所】セレクトロイヤルホテル八代
- 【出席者数】221名

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院運営に関する意見交換をおこなっています。

地域医療支援病院運営委員会

- 第1回 地域医療支援病院運営委員会
 - 【日 時】平成30年5月18日(金)
 - 【場 所】東西棟2階会議室
 - 【出席者数】外部委員 6名
当院委員 6名
事務局 6名
- 第2回 地域医療支援病院運営委員会
 - 【日 時】平成30年8月21日(火)
 - 【場 所】東西棟2階会議室
 - 【出席者数】外部委員 5名
当院委員 5名
事務局 6名
- 第3回 地域医療支援病院運営委員会
 - 【日 時】平成30年11月27日(火)
 - 【場 所】東西棟2階会議室
 - 【出席者数】外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 5名
- 第4回 地域医療支援病院運営委員会
 - 【日 時】平成31年2月26日(火)
 - 【場 所】東西棟2階会議室
 - 【出席者数】外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 6名

看護部

スタッフ紹介



看護部長

山本 八重

看護副部長
塩水 絹子

看護副部長
守田 尚美

スタッフ

看護師長	11名	看護助手	23名
看護師長補佐	13名	ワーカー	3名
看護師	337名	クラーク	37名

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さんに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

2018年度目標

1. 看護の質の向上
2. 病院組織運営に貢献
3. 看護専門職として自己成長
4. 病院機能評価受審への取り組み

管理・運営

看護部職員配置

看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長(教育、業務)	2名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師長補佐)	1名
	リソースセンター(看護師)	5名
	地域医療連携室(看護師)	3名
	看護部(看護補助者)	1名
病棟部門	看護師長	8名
	看護師長補佐	8名
	看護師	266名
	准看護師	1名
	看護助手	21名
	ワーカー	3名
	病棟クラーク	8名

外来部門	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	46名
	准看護師	5名
	看護助手	1名
	外来クラーク	29名
手術部門	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	20名
	手術室看護助手	1名

看護体制

- 7：1看護(2009年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
- 2交替制(救急棟)
- 熊労版デイパートナーシップナースングシステム

各種会議・委員会・ワーキンググループ

各種会議・委員会・WG	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
看護研究委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
看護基準・手順委員会	月1回
安全対策委員会	月1回
感染対策委員会	月1回
患者サービス委員会	月1回
NST・褥瘡対策委員会	月1回
電子カルテ委員会	月1回
クリニカルパス委員会	月1回
認定看護師会	月1回
リスクマネージャー会議	月1回
薬剤部懇談会	2ヶ月に1回
検査科懇談会	2ヶ月に1回
放射線科懇談会	2ヶ月に1回
リハビリ科懇談会	2ヶ月に1回
栄養管理室懇談会	2ヶ月に1回
事務懇談会	2ヶ月に1回

看護部

■ 各種会議（主な会議）

● 師長会議

看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。2018年度は、電子カルテ更新、入院支援センター（入院支援）の導入、病院機能評価に向けて取り組みました。

● 師長補佐会議

看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。2018年度は「患者指導に関するパンフレットの整理を行い、各部署での指導のばらつきを無くし、患者へ提供する看護の質向上に努める」「正しい重症度、医療・看護必要度評価ができるように監査・スタッフ教育を行い、7:1看護体制を維持する」と目標を掲げ取り組みました。

■ 各種委員会（主な委員会活動について記載）

● 教育委員会

今年度から教育委員会の組織体制を改変し継続教育を充実させることを目的に「新人研修」「役割別研修」「キャリアアップ研修」の3つの研修を柱として前年度までのラダー別教育委員会活動を廃止し教育委員会として集約しました。

● 電子カルテ委員会

11月の電子カルテ更新に伴う導入がスムーズに行われるように運用上の取り決めとスタッフへ周知徹底を行いました。また、看護記録について電子カルテの利点を生かした活用、電子カルテ更新後の不具合について問題提出と解決案の検討を行いスムーズに導入することができました。

● 認定看護師会

各領域の認定看護師による専門コース研究を開催し地域の医療施設も参加してもらえるように公開研修としました。感染看護専門コースは、8回/年、延べ191名（院内16名、院外175名）脳卒中リハ専門コース6回/年、延べ113名（院内61名、院外52名）、がん化学療法専門コース8回/年延べ70名（院内49名、院外21名）でした。慢性呼吸器疾患看護認定看護師と集中ケア認定看護師による「フィジカルアセスメント」の専門コース5回/年、延べ113名が参加しました。

■ 臓器移植コーディネーターの活動

脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血の患者の家族から臓器移植提供の意思表示がありました。家族をサポートしながら心停止後臓器提供（腎臓移植、角膜移植、骨移植）のための摘出がスムーズにいくように2名の臓器移植コーディネーターが中心となって院内外の医療者と一緒に取り組みました。その結果、無事に臓器摘出し移植がスムーズに行われました。

看護研究発表

2年間、看護研究に取り組みその成果を院外の学会で発表しました。

■ 【学会名】日本看護協会主催

第49回 日本看護学会急性期

【日程・会場】2018年9月 大分

【発表者】西5病棟／山下祐来、古川由紀、村岡綾、稲田聡美、塩森奈々、福屋純子

【題名】身体抑制を行う際の看護師の倫理的配慮—急性混乱を来した事例を通して—

■ 【学会名】日本看護協会主催

第49回 日本看護学会 看護管理

【日程・会場】2018年8月 宮城

【発表者】中央4病棟／入田愛美、長藤博子、杉本睦美、柿本里美、西村美樹子

【題名】看護師における情報収集の実態調査—看護師は何を考えて、どんな情報に着目して情報収集をしているか—

■ 【学会名】日本看護協会 第49回 日本看護学会ヘル

スプロモーション

【日程・会場】2018年9月 岡山

【発表者】東3病棟／古閑貴子、龍宮真理、宮崎美香、松山晃子、黒崎信子

【題名】プレパレーション・ディストラクションの現状把握と実施率向上をめざした取り組み—小児における採血・血管確保時の介助に着目して—

■ 【学会名】熊本県看護協会八代支部看護研究発表会

【日程・会場】2018年12月 熊本

【発表者】西3病棟／中倉智樹、堀美穂、宮本浪子、山本優貴、後藤知佳、細野智美、山田恵子、岩本真奈美、荒川直美

【題名】熊本地震に対するA病院の病棟看護師の行動調査—そのとき病棟看護師は何を考えたか—

■ 【学会名】熊本県看護協会八代支部看護研究発表会

【日程・会場】2018年12月 熊本

【発表者】中央3病棟／日高美紀、谷口めぐみ、塚本順子、吉開美紀、野口道子、谷口誉子、守田尚美

【題名】内服自己管理患者に対する看護師の内服確認行動の現状と対策

■ 【学会名】医療マネジメント学会熊本支部学術集会

【日程・会場】2019年3月 熊本

【発表者】中央4病棟／西村美樹子、柿本里美、松本春美、田頭久代、塩水絹子

【題名】心停止後臓器移植への取り組み—臓器移植提供者病棟看護師の教育を通して—

■ 【学会名】第22回 日本看護管理学会学術集会

【日程・会場】2018年8月 兵庫

【発表者】塩水絹子、相田由紀、坪井幸代、大重育美

【題名】目標管理とクリニカルラダー活用定着に向けた看護管理者の育成—看護師長の人材育成能力評価尺度作成—

薬剤部

スタッフ紹介



薬剤部長

谷口 一成

薬剤副部長

奥 美和

主任薬剤師 5名
薬剤師 10名
薬剤事務補助 1名

【認定・資格】

日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本医療薬学会	がん専門薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師		1名
日本糖尿病療養指導士		3名
日本病院薬剤師会	感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会	認定薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	4名
日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会	日病薬病院薬学認定薬剤師	8名
日本医療情報学会	医療情報技師	2名

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネート・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方の調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

製剤業務

薬剤が、治療上必要であるが投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・暴露防止に努めています。

医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っています。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っています。

薬剤管理指導業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果・有害作用の防止などにも努めています。

治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

薬剤部

業務実績 (平成30年度)

入院処方箋枚数	88,573枚
外来処方箋枚数	14,585枚
入院注射箋枚数	154,056枚
外来注射箋枚数	17,272枚
製剤件数	77件
抗がん剤調製件数	2,539件 入院1,164件 外来1,375件
薬剤管理指導件数	7,018件 (請求件数6,644件)
麻薬管理指導件数	430件
薬物血中濃度解析	150件

- 【学会名】沖縄県地域がん診療連携拠点病院薬剤師教育セミナー(口頭発表)
【日程・会場】平成31年3月 沖縄
【発表者】山口圭太郎
【題名】外科領域がん化学療法における薬剤師のかかわり
- 【学会名】熊本県肝炎サロン(熊本県健康福祉部健康危機管理課)(講演)
【日程・会場】平成31年2月 八代
【発表者】中島璃沙
【題名】肝炎治療に関する薬剤について

学会・講演会発表等

- 【学会名】医療薬学フォーラム2018
第26回 クリニカルファーマシーシンポジウム(ポスター発表)
【日程・会場】平成30年6月 東京
【発表者】北森靖隆
【題名】ペムプロリズマブ投与後に続発性副腎不全症を発症した1例の報告
- 【学会名】日本医療薬学会
第28回 日本医療薬学会年会(ポスター発表)
【日程・会場】平成30年11月 兵庫
【発表者】中川恭宏
【題名】バンコマイシンの初期投与設計におけるTDMガイドラインの活用に関する検討
- 【学会名】日本病院薬剤師会近畿ブロック
第40回 日本病院薬剤師会近畿学術大会(ポスター発表)
【日程・会場】平成31年1月 奈良
【発表者】坂田健太郎
【題名】当院における患者の転倒転落と睡眠薬の服用状況に関する調査
- 【学会名】第21回 九州・山口ブロック労災病院薬剤師部会(口頭発表)
【日程・会場】平成30年6月 熊本
【発表者】坂田健太郎
【題名】当院入院患者における認知症治療薬使用に関する調査

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介



中央リハビリテーション部長

田中 政敏

主任理学療法士
山本 慎一

主任理学療法士
大洲 人士

主任理学療法士
長田 政和

主任理学療法士
吉田 絵美

主任作業療法士
西田 充征

主任言語聴覚士
畠山 克隆

理学療法士 他10名
作業療法士 他 5名

言語聴覚士 他 2名
リハ助手 3名

【専門・認定・資格・所属学会】

心臓リハビリテーション指導士(4名)、呼吸療法認定士(11名)
がんのリハビリテーション研修修了(25名)、介護支援専門員
(5名)、認定理学療法士・認定作業療法士・DMAT ほか

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では整形外科疾患や脳血管疾患を初め、心臓や呼吸器、がんなど様々な疾患に入院や手術直後から、「早期のリハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフは、理学療法士14名、作業療法士7名、言語聴覚士3名、リハ助手3名の総勢27名です。それぞれのスタッフが、認定研修や資格などを取得し、専門的な治療が行なえるように病棟担当制をとり、ICUや病棟を中心に活躍しています。ICU病棟でのカンファレンスにも参加し、早期離床や廃用予防に積極的に関わっています。チーム医療の一環として、医師や認定看護師と共にNSTや排尿支援、褥瘡対策、認知症ケアとも活発な連携を取っています。その他にも、自宅での生活支援と共に勤労者医療の一環として、患者さまの就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。熊本県の委託により「八代地域リハビリテーション広域支援センター」として、八代地域のリハビ

リテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談など地域に根ざした医療にも継続的に取り組んでいます。また、熊本地震をきっかけに、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参加しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管等や運動器のリハビリテーションを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、一般病棟やICU病棟に於いて1対1の集中的な治療を行っています。心臓リハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院患者を対象とした集団治療も実施しています。心臓リハビリテーションを始めるに当たりCPX(心肺運動負荷試験)による検査を用い、安全な環境の下で実施しています。

2018年度 活動実績

- 2018年度 疾患別の患者数実績(表1)
疾患別では、整形外科疾患を中心にがん・心疾患・脳血管疾患なども増加傾向にあります。

表1 疾患別患者数

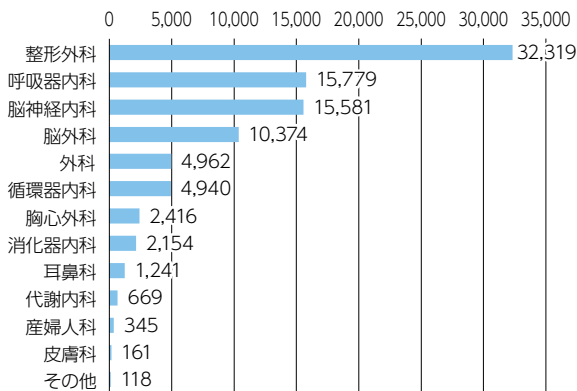
病名	件数	病名	件数
がん患者(リハ)	104件	変形性股関節症	13件
脊椎圧迫骨折	81件	半月板損傷	13件
心疾患	73件	開心・開胸術後	9件
下腿骨折(膝~足)	58件	脊髄損傷	8件
脳神経内科疾患	56件	神経難病	8件
肺疾患	52件	膝靭帯損傷	7件
脳血管外科疾患	41件	鎖骨骨折	6件
大腿骨骨折	41件	消化器外科疾患	6件
手の外科疾患	33件	椎間板ヘルニア	5件
脊柱管狭窄症 等	18件	アキレス腱断裂	4件
上腕骨折	16件	末梢神経麻痺	1件
骨盤骨折	15件	四肢切断	0件
変形性膝関節症	15件	その他	167件

中央リハビリテーション部

■ 診療科別の単位実績(図1)

整形外科(35.3%)からの依頼は、減少傾向にありますが、呼吸器を中心とした内科系からの依頼が増えています。特に、がんに関する呼吸器系と消化器系や心血管系の疾病に伴う循環器系の診療科からの依頼が増加しています。

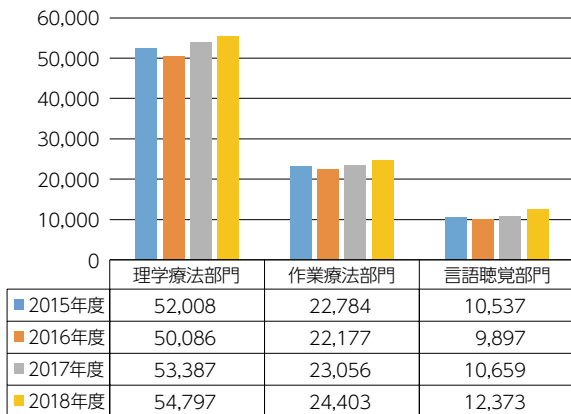
図1 平成30年 診療科別 単位数



■ 職種別単位数(図2)

2016年度の「熊本地震」以降、各部門とも増加傾向を示しており、中央リハ部の年間合計単位数は、初めて90,000単位を超えており、多くの患者の治療に対応できました。

図2 部門別 年間単位数の推移

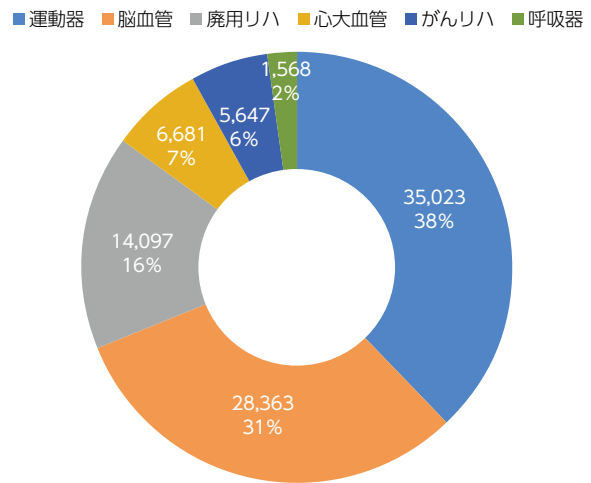


■ 疾患別リハビリテーション単位数(図3)

昨年度の疾患別リハビリテーションの割合は、運動器リハを主に、脳血管等リハ・廃用症候群リハにより大半(85%)を占めています。がん患者のリハは、平成28年7月から再開され、呼吸器内科や消化器外科からの依頼が増えました。

「がん拠点病院」の役割として一翼を担っています。また、心大血管リハでは、今年度からCPXの本格導入と同時に、作業療法による生活指導を中心とした治療も開始しました。

図3 2018年「疾患別リハ」別 単位数比較



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、臨床業務の他に平成12年度より熊本県からの委託事業として、「地域リハビリテーション広域支援センター」を運営しています。地域の医療や介護、福祉関わる皆様や地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く行っています。

医師会や自治体等の公的委員

- 田中部長：熊本県リハ推進協議会(委員)
- 西田主任：八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任：八代市介護保険認定審査会(委員)
- 小屋野作業療法士：八代市介護保険認定審査会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 2018年度 第1回地域リハ従事者研修会
2018年6月20日 熊本労災病院 大会議室
- 2018年度 第2回地域リハ従事者研修会
2018年9月19日 熊本労災病院 大会議室
- 2018年度 第3回地域リハ従事者研修会
2018年11月13日 介護老人保健施設 向春苑
- 2018年度 第4回地域リハ従事者研修会
2019年2月21日 八代北部地域医療センター

中央リハビリテーション部

学会・講演会発表等

発表等

- 【学会名】 日本リスクマネジメント学会
第21回 熊本支部学術集会
【日程・会場】 2019年3月 熊本市
【発表者】 田中政敏
【題 名】 部署におけるインシデントの分析と目標
- 【学会名】 第16回 日本神経理学療法学会
(ポスター発表)
【日程・会場】 2018年11月 大阪市
【発表者】 木村友亮
【題 名】 脳卒中患者に対する急性期からの早期歩行訓練が予後に与える影響

研究会の開催

主催

- 第1回 がんリハセミナー
(平成31年2月 熊本労災病院)
【講 師】 田沼明・他2名
(静岡がんセンター リハ科部長)
- 第2回 八代地区特別セミナー
(平成31年2月 熊本労災病院)
【講 師】 吉尾雅春
(千里リハビリテーション病院 副院長)

認定施設等

- 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設

中央放射線部

スタッフ紹介



中央放射線部長

福田 智哉

主任技師
平嶋 豊

主任技師
田尻 歩

主任技師
前床 正国

主任技師
小林 功治

主任技師
本田 光希

診療放射線技師 19人
助手 1人

【専門・認定・資格・所属学会】 第1種放射線取扱主任者、第2種放射線取扱主任者、第1種作業環境測定士、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、救急撮影認定技師、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。3Dプリンターを導入し、診療支援もを行っています。

業務内容と活動実績

画像診断部門

- 一般撮影
X線撮影装置4台を備え、1台はFPD(フラットパネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の撮影を一日平均140件撮影しています。

- X線透視
透視装置は2台あり、ともにFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

- CT
CT装置は2台あり、1日に平均65件の検査を実施しています。ともに64列マルチスライスCTであり、そのうちの1台は2管球CTで、高速撮影、被ばく線量低減、デュアルエネルギー撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

- MRI
MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を1日平均28件の検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

- 血管造影検査
血管造影では1台はバイプレーン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。またオペ室でステントグラフトによる治療も行っています。

- 核医学検査
SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っています。最近ではアルツハイマー型認知症の検査やパーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

- マンモグラフィ
撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取りながら市検診にも取り組んでいます。

- 骨密度検査
骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

- ポータブル撮影
院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

中央放射線部

■ 画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立てています。

放射線治療部門

■ 放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能になりニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

■ 2018年4月～2019年3月 検査件数

種 別		件 数	
X線撮影	単純撮影	33,840件	
	透視造影	脳・脊髄領域	8件
		消化器領域	750件
		骨盤腔領域	70件
		循環器領域	1,530件
		その他造影	500件
		透視単独	340件
	合 計	3,198件	
	マンモグラフィ	596件	
ポータブル撮影	6,718件		
核医学検査		398件	
CT	第一 (64列)	2,670件	
	第二 (2管球)	13,032件	
	合 計	15,702件	
MRI	第一 (3.0T)	3,007件	
	第二 (1.5T)	2,575件	
	合 計	5,582件	
放射線治療		2,133件	

種 別	件 数
骨塩定量	358件
画像再構成	18,230件

学会・講演会発表等

学会

- 【学会名】 第22回 CTサミット(ポスター)
【日程・会場】 2018年7月 福岡
【発表者】 井上要
【題 名】 当施設の肺動静脈分離1相撮影におけるCT値差についての検討
- 【学会名】 九州ブロック放射線技師研修会(ポスター)
【日程・会場】 2018年10月 福岡
【発表者】 福田智哉
【題 名】 3Dプリンター導入と診療への関わり

研究会の開催

共催

- 熊本県核医学技術研究会
【世話人】 本田光希
- 城南地区放射線技師研修会
【理 事】 田尻歩、前床正国

認定施設等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設

中央検査部

スタッフ紹介



臨床検査センター長
(院長相談役)

金子 泰史



中央検査部長

中村 忠善

主任技師
前田 卓

主任技師
川野 陽子

主任技師
中川 淑恵

主任技師
井上 博幸

主任技師
森口 美琴

主任技師
吉田 健一

臨床検査技師 計25名

【認定・資格】

- 《病理部門》 病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名
- 《検体部門》 感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、緊急臨床検査士1名、二級臨床検査士(血液)3名、健康食品管理士1名
- 《生理部門》 超音波検査士(循環器)7名、超音波検査士(消化器)4名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)2名、超音波検査士(健診)1名、糖尿病療養指導士3名

中央検査部の特徴

当部は、本院における高度医療を支援するための臨床検査部門です。臨床検査センター長の金子泰史先生と中央診療支援統括室中央検査部門担当である栗脇一三先生の下、総勢25名の臨床検査技師が在籍しています。院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、また院外では、スタッフ全員が各種学会や研修会等に積極的に参加し、日

頃から知識や技術の研鑽に努めており、認定資格取得者も多数います。

当部の病理部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに複数の細胞検査士が良質な診断に寄与していることが評価され、日本臨床細胞学会から認定施設および教育研修施設として認定されています。検体部門は日本臨床衛生検査技師会から精度保証認定施設として認定を受けています。これは、一定の基準をクリアし、臨床サイドへ提供している検査結果が標準化され高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されたものです。細菌部門においては、県内では一早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たしており、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設だけである研修施設認定を受けています。生理部門においても有資格者を多数揃え、一般生理だけでなく、当院において医療ニーズの高い心エコー、腹部エコー、乳腺エコーなどの画像診断に注力しており、他院からの研修依頼も快く引き受けています。また、最新の超音波装置を平成30年に導入し、さらなる診療貢献を図れるものと考えています。さらに、労災病院の特徴の一つである、振動工具を取り扱う業務に従事している労働者の振動暴露状況を調べる検査を当部で行っており、また秋には県内外から出張振動病検診の依頼を受け、数百名の方を対象に検診事業に従事するなど、労災疾病の予防、治療等にも大きく寄与しています。

業務実績

年別臨床検査件数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
生化学	941,026件	881,156件	940,605件
免疫	100,133件	100,972件	97,955件
血液	171,236件	206,155件	204,092件
一般	29,830件	31,492件	37,225件
微生物	29,981件	34,425件	34,478件

中央検査部

年別生理検査件数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
心電図	12,780件	12,786件	13,481件
ABI	1,476件	1,678件	1,375件
心エコー	6,056件	6,013件	7,092件
腹部エコー	3,194件	3,517件	3,915件
血管エコー	2,713件	2,919件	2,932件
乳腺・甲状腺エコー	1,038件	1,405件	2,635件

年別病理検査件数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
組織診断	3,330件	2,793件	3,282件
術中迅速診断	87件	93件	106件
細胞診断	3,152件	3,182件	3,574件

地域活動の実績

- 看護の日イベント
【日程・場所】平成30年5月12日(土) イオン八代
【参加者】前田卓
- 振動障害巡回健診
【日程・場所】平成30年10月～11月
天草市、山都町、山鹿市、人吉市、あさぎり町、薩摩町さつま町、鹿児島市、鹿屋市
【参加者】柿本裕一、前田卓、川野陽子、井上博幸、吉崎正志、福田健太

学会・講演会発表、座長等

- 【学会名】熊本県臨床検査技師会 第50回 熊本県医学検査学会 生理部門
【日程・会場】2018年6月 熊本市
【座長】吉田健一
- 【学会名】熊本超音波画像研究会
【日程・会場】2018年8月 熊本市
【発表者】吉田健一
【演題名】小児におけるネコ引つ揺き病の一症例
- 【学会名】富士フィルムメディカルセミナー「生理部門における情報システムソリューション」
【日程・会場】2018年9月 熊本市
【座長】吉田健一
- 【学会名】第30回 日本臨床微生物学会・総会
【日程・会場】2019年2月 東京都
【発表者】浜島智央

【演題名】Clostridioides difficile (C.difficile) 選択分離培地の比較検討

- 【学会名】第30回 日本臨床微生物学会・総会シンポジウム
【日程・会場】2019年2月 東京都
【座長】森口美琴
- 【学会名】第35回 熊本県臨床細胞学会学術集会 一般演題乳腺領域
【日程・会場】2019年2月 熊本市
【座長】森谷智輝
- 【学会名】熊本県臨床検査技師会県南地区研修会
【日程・会場】2019年2月 八代市
【発表者】① 大原麻彩、② 吉崎正志
【演題名】① 超音波検査から肝線維化に迫る
② 血液検査から肝線維化に迫る
- 【学会名】熊本県臨床検査技師会生理部門精度管理調査報告
【日程・会場】2019年2月 熊本市
【発表者】吉田健一
- 【学会名】平成30年度 第1回 臨床微生物部門講演会
【座長】森口美琴
- 【学会名】熊本県臨床微生物学部門研修会
【日程・会場】2019年9月 熊本市
【発表者】森口美琴
【演題名】従来法を用いた同定検査について

研修・講習会の開催(主催)

- 平成30年度 熊本県細胞診初心者講習会
【日程・会場】平成30年5月27日(日) 熊本市
【担当】井上博幸
- 平成30年度 細胞検査士2次試験対策研修会
【日程・会場】平成30年11月25日(日) 熊本市
【担当】井上博幸
- 心エコー、腹部エコーハンズオン研修会 in 熊本保健科学大学
【日程・会場】平成31年2月24日(日) 熊本保健科学大学
【担当】吉田健一
- 県南地区臨床検査技師研修会
【日程・会場】平成31年2月16日(土) 熊本労災病院
【担当】柿本裕一

認定施設等

- 日本病理学会研修認定施設
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設
- 日本臨床衛生検査技師学会精度保証認証施設
- 認定微生物検査技師制度協議会研修施設

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介



栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)

金子 健吾



栄養管理室長

藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名	調理主任	2名
管理栄養士	4名	調理師	15名
栄養士	1名	作業員	2名
食器洗浄委託職員	12名		

【認定・資格】 栄養サポートチーム専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター、がん病態専門栄養士

【所属学会】 日本静脈経腸栄養学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っている。給食管理では、安全で満足度の高い食事の提供、行事食や個人対応食などのフードサービスを実施し、病院食が患者一人一人の命や治療を支える基であるということを念頭に置き取り組んでいる。

栄養管理では、栄養サポートチーム専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態専門栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどの一員として、医師を中心としたそれぞれのチームで看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに、栄養管理の立場から活動を行っている。また、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの患者に対し、栄養指導を実施し、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改善およ

び免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるよう医療チームの一員として取り組んでいる。

業務内容

給食管理

「労災病院衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めている。栄養量の設定は成分栄養別であり、一般治療食から特別治療食まで約160種類の食種の対応が可能である。

個人の嗜好に配慮したハート食(個人対応メニュー)の提供も行っており、管理栄養士が直接患者の嗜好を確認し、メニューに反映させ、少しでも摂取可能な食事の提供を行うオーダーメイドのこの対応食は、患者から好評を得ている。

また、毎日の和食・洋食の選択メニューのサービスに加え、年43回の行事食を行い、季節感あふれるメニューの提供を心がけ、メッセージカードも手作りで添えるなど入院中の楽しみとなるよう患者サービスの向上に努めている。

栄養管理

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、栄養不良のリスク判定を実施し、低栄養リスクの患者は多職種で構成されるNSTで継続的な栄養管理を行っている。

また、褥瘡チーム、緩和ケアチームなどと連携し、栄養状態の管理を実施している。

入院・外来患者に対し、栄養指導を実施しており、個別指導や集団指導では各教室を開催している。

また、医師・糖尿病認定看護師とともに、透析予防指導を実施し、栄養管理計画に基づく病棟訪問も実施している。

■ 栄養指導・栄養相談

内容		曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室

栄養管理部・栄養管理室

	内容	曜日	時間	場所
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
	減塩教室	月～金	15:00～16:00	栄養指導室
	胃腸病教室	月～金	16:00～16:40	栄養指導室
	健康教室	木曜日	11:30～13:00	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室

活動の実績

栄養指導の実績

内容	件数(入院・外来)
糖尿病	1,393件
腎臓病	13件
心疾患	423件
高血圧	896件
肥満	58件
脂質異常症	168件
胆・肝・膵疾患	53件
消化管術後	430件
低栄養・がん・嚥下	585件
その他	789件
合計	4,808件

チーム医療

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っている。

年間総数は1,429件であり積極的に実施している。回診とカンファレンスを毎週2回、NST勉強会を毎月1回開催し、多職種で連携し、実施している。その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに6名の管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っている。

NSTの実施件数は別表のとおりである。

■ NSTの実施件数(2018年度)

	2018年度
4月	116件
5月	121件
6月	120件
7月	139件
8月	120件
9月	120件
10月	134件
11月	134件
12月	105件
1月	120件
2月	100件
3月	100件
合計	1,429件

地域活動の実績

自治体等の公的委員

- 藤井しのぶ 八代地域NST研究会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 熊本健康づくり推進、栄養アドバイザー活動
藤井しのぶ 大濱亮子
「ブルーサークルメニュー」
「熊本健康づくり応援店支援」

栄養管理部・栄養管理室

- 八代地域食形態統一化プロジェクト活動
藤井しのぶ 大濱亮子 永野智子
「食形態統一化検討会・研修会」
(平成30年11月14日：熊本労災病院会議室)
「食形態統一化検討会・試食会」
(平成31年2月27日：熊本労災病院会議室)
- 日本医療マネジメント学会
第21回 熊本支部学術集会
「当院における嚥下食の取り組み」
(平成31年3月16日 熊本パレア)

認定施設

- 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

行事食、産褥食等

- 八代地域食形態統一化プロジェクト活動(試食会)



- 糖尿病講演会



- 行事食(お正月)



- 産褥食(一例)



- 嚥下調整食:ミキサ一固形食(一例)



中央臨床工学部

スタッフ紹介



中央臨床工学部長

植田 公昭

【専門・認定・資格・所属学会】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会 体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師

スタッフ

臨床工学技士 4名



業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い4名が増員となり、現在部長を含め5名にて業務を行っています。当院では患者さまの治療・検査にかかわる「臨床技術提供業務」と医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の大きく2つに分け業務を行っています。

「臨床技術提供業務」は心臓血管外科手術にて使用する人工心肺装置や心筋保護装置などを操作する人工心肺業務、出血が予想される手術にて使用する自己血回収業務、腎不全や術後敗血症に対

して施行するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、PCPS・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務を行っています。

「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心とし、それら以外にも麻酔器や輸液シリンジポンプ、低圧持続吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高いものを中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検チェックシートを作成し、点検計画を策定、実施し、取扱説明書や添付文書、安全情報も一括して管理を行っています。人工呼吸器、輸液シリンジポンプにおいては中央管理を実施し、貸出返却を集約して効率的な運用を目指しています。なお医療機器の貸出返却や保守管理データは平成28年より医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を確認できるようにし、安全使用に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務に取り組んでいます。現在は部長含め5名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時にはオンコール体制にて対応し、臨床技術提供業務では各診療科医師、医療機器保守管理業務においては医療機器安全管理責任者(麻酔科部長)の指示のもと業務を行っています。

中央臨床工学部

2018年度活動実績

臨床技術提供業務において人工心肺業務38例、自己血回収業務61例、血液浄化業務26例、補助循環業務3例、術中モニタリング18例、心臓カテーテル業務467例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器6機種を含む27機種515台を保守管理しており、定期点検728件、使用中点検1327件、始業前点検1202件、終業時点検360件、合計3617件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器440件、輸液シリンジポンプ2409件の貸出が行われています。また上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会29件、院内外勉強会・学会43件に参加しスキルアップに努めています。

私達、中央臨床工学部は体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して患者さまへ、よりよい医療を提供できるよう日々の業務に取り組んでいます。

活動状況

■ 人工心肺業務



■ 血液浄化業務



■ 心臓カテーテル業務



■ 中央管理機器(貸出返却窓口)



■ 心臓手術勉強会



■ 人工呼吸器勉強会



■ 補助循環装置勉強会



臨床業績



患者数等 (年度実績4-3月)

患者数等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入院患者延数	129,764	126,493	127,585	128,870
1日平均入院患者数	354.5	346.6	349.5	353.1
新入院患者数	8,665	9,087	9,184	9,405
退院患者数	8,683	9,112	9,151	9,402
平均在院日数	15.0	13.9	13.9	13.7
病床利用率	86.5	84.5	85.2	86.1
外来患者延数	142,822	126,596	128,278	132,235
1日平均外来患者数	587.7	521.0	525.7	541.9
救急患者数	11,553	12,814	12,334	12,589
救急車受入件数(ヘリ含む)	3,622	3,913	3,917	4,078
ヘリ	22	16	18	28

入院科別患者数

1日平均在院患者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
脳神経内科	25.2	0.0	21.5	0.0	21.7	0.0	21.9	0.0
呼吸器内科	48.9	0.6	53.5	0.7	58.6	0.2	63.4	0.2
消化器内科	37.5	0.0	39.4	0.0	37.6	0.1	34.9	0.0
糖尿病・代謝内科	3.9	0.0	6.0	0.0	6.2	0.0	6.8	0.0
循環器内科	30.6	0.0	31.9	0.0	30.4	0.0	28.2	0.0
小児科	10.7	0.0	10.9	0.0	8.1	0.0	8.4	0.0
外科	32.0	0.1	31.3	0.2	32.9	0.0	35.1	0.1
整形外科	94.5	7.0	90.8	5.0	90.1	5.2	83.6	4.8
形成外科	2.7	0.1	2.2	0.1	2.8	0.0	2.3	0.0
脳神経外科	22.0	0.2	6.2	0.0	4.5	0.1	15.9	0.5
心臓血管外科	11.2	0.0	10.3	0.0	8.5	0.0	8.4	0.0
皮膚科	2.7	0.0	2.5	0.0	3.2	0.0	3.0	0.1
泌尿器科	10.1	0.0	10.8	0.0	11.7	0.1	10.0	0.0
産婦人科	17.6	0.0	19.2	0.0	20.0	0.0	17.1	0.0
眼科	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0
耳鼻咽喉科	4.7	0.0	9.8	0.0	12.8	0.0	13.5	0.0
リハビリテーション科	0.2	0.0	-	-	-	-	-	-
合計	354.5	8.1	346.6	5.9	349.5	5.7	353.1	5.9

在院患者延数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
脳神経内科	9,222	0	7,832	1	7,908	15	7,980	0
呼吸器内科	17,895	237	19,542	245	21,390	65	23,149	82
消化器内科	13,722	0	14,375	3	13,716	33	12,750	5
糖尿病・代謝内科	1,416	0	2,198	0	2,272	0	2,494	1
循環器内科	11,210	0	11,658	0	11,100	0	10,290	0
小児科	3,922	0	3,961	0	2,940	0	3,052	0
外科	11,713	31	11,409	62	12,011	0	12,794	54
整形外科	34,599	2,570	33,133	1,809	32,890	1,900	30,504	1,770
形成外科	1,004	36	802	25	1,029	4	856	13
脳神経外科	8,048	85	2,267	0	1,657	20	5,819	196

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
心臓血管外科	4,101	1	3,770	8	3,090	0	3,057	0
皮膚科	1,002	4	901	0	1,183	17	1,108	24
泌尿器科	3,684	6	3,938	15	4,264	32	3,665	0
産婦人科	6,451	0	7,003	0	7,315	0	6,231	6
眼科	3	0	125	0	132	0	184	0
耳鼻咽喉科	1,704	0	3,579	0	4,688	0	4,937	0
リハビリテーション科	68	0	-	-	-	-	-	-
合計	129,764	2,970	126,493	2,168	127,585	2,086	128,870	2,151

新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
脳神経内科	494	0	502	1	459	1	442	0
呼吸器内科	1,013	5	1,136	7	1,203	4	1,265	5
消化器内科	1,097	0	1,087	1	1,154	3	1,148	1
糖尿病・代謝内科	93	0	143	0	150	0	146	1
循環器内科	971	0	940	0	902	0	915	0
小児科	867	0	912	0	756	0	786	0
外科	819	1	839	2	905	0	1,014	7
整形外科	1,460	93	1,515	93	1,513	74	1,451	75
形成外科	95	3	80	2	99	1	94	2
脳神経外科	267	7	133	0	110	2	275	10
心臓血管外科	222	0	207	1	138	0	148	0
皮膚科	85	0	76	0	102	2	78	1
泌尿器科	374	2	382	3	462	2	434	0
産婦人科	607	0	633	0	619	0	615	1
眼科	3	0	86	0	117	0	119	0
耳鼻咽喉科	193	0	416	0	495	0	475	0
リハビリテーション科	5	0	-	-	-	-	-	-
合計	8,665	111	9,087	110	9,184	89	9,405	103

平均在院日数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
脳神経内科	18.8	15.5	17.5	18.0
呼吸器内科	17.9	17.4	17.9	18.5
消化器内科	12.9	13.4	12.1	11.2
糖尿病・代謝内科	16.1	15.7	15.6	17.4
循環器内科	11.5	12.5	12.3	11.2
小児科	4.5	4.3	3.9	3.9
外科	13.8	13.3	12.9	12.3
整形外科	23.6	21.8	21.7	20.9
形成外科	10.6	9.7	10.6	9.1
脳神経外科	29.2	16.9	14.7	22.3
心臓血管外科	17.7	17.7	22.2	20.1
皮膚科	11.9	11.6	11.7	13.9
泌尿器科	9.8	10.1	9.3	8.4
産婦人科	10.7	11.2	11.8	10.2

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
眼科	0.0	1.5	1.1	1.5
耳鼻咽喉科	8.9	8.7	9.5	10.4
リハビリテーション科	9.1	-	-	-
合計	15.0	13.9	13.9	13.7

外来科別患者数

1日平均延患者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	12.8	0.0	14.8	0.0	15.1	0.0	15.5	0.0
精神科	6.6	0.1	6.2	0.0	5.2	0.0	5.5	0.0
脳神経内科	19.1	0.2	16.4	0.2	16.1	0.0	18.0	0.1
呼吸器内科	37.3	0.8	42.1	0.8	47.1	0.5	45.5	0.3
消化器内科	52.9	0.2	48.5	0.3	44.4	0.3	44.8	0.2
糖尿病・代謝内科	23.1	0.0	23.6	0.0	25.1	0.0	26.2	0.0
循環器内科	29.3	0.0	30.3	0.0	29.1	0.0	28.6	0.0
小児科	37.5	0.0	40.3	0.0	36.6	0.0	37.0	0.0
外科	26.8	0.0	26.5	0.0	26.9	0.0	31.4	0.1
整形外科	97.9	6.9	96.2	6.1	97.9	5.9	98.5	4.7
形成外科	14.2	0.2	13.4	0.4	12.7	0.2	12.9	0.2
脳神経外科	20.2	0.7	13.6	0.5	7.7	0.1	10.1	0.1
心臓血管外科	11.4	0.0	9.5	0.0	8.8	0.0	7.7	0.0
皮膚科	26.6	0.0	23.2	0.0	24.6	0.1	22.9	0.2
泌尿器科	30.6	1.0	27.9	0.9	27.4	0.7	27.3	0.8
産婦人科	29.8	0.0	31.5	0.0	30.8	0.0	33.0	0.0
眼科	3.4	0.0	9.6	0.0	14.4	0.0	15.7	0.1
耳鼻咽喉科	16.3	0.5	25.1	0.2	30.0	0.0	32.7	0.0
放射線科	11.6	0.0	11.4	0.0	14.1	0.0	16.4	0.0
麻酔科	10.6	0.2	10.2	0.2	10.6	0.2	10.8	0.2
リハビリテーション科		0.3	-	-	-	-	-	-
医療相談科	0.9	0.0	0.7	0.0	1.3	0.0	1.4	0.0
合計	587.7	11.4	521.0	9.8	525.7	8.2	541.9	7.1

延患者数

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	3,114	3	3,607	2	3,675	1	3,794	6
精神科	1,610	23	1,500	12	1,273	0	1,345	11
脳神経内科	4,649	51	3,994	41	3,934	10	4,380	24
呼吸器内科	9,067	196	10,228	205	11,484	130	11,105	79
消化器内科	12,851	47	11,780	64	10,839	66	10,939	43
糖尿病・代謝内科	5,611	12	5,723	4	6,131	5	6,399	12
循環器内科	7,121	0	7,357	5	7,109	2	6,970	3
小児科	9,121	0	9,793	0	8,931	0	9,018	0
外科	6,505	11	6,449	9	6,555	12	7,655	22
整形外科	23,795	1,688	23,379	1,494	23,878	1,432	24,035	1,141
形成外科	3,445	53	3,248	102	3,092	42	3,155	38
脳神経外科	4,913	167	3,293	115	1,875	31	2,473	32
心臓血管外科	2,773	6	2,319	8	2,152	3	1,873	0

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
皮膚科	6,459	12	5,635	5	5,994	34	5,597	51
泌尿器科	7,441	251	6,780	208	6,697	182	6,669	192
産婦人科	7,252	0	7,656	1	7,511	0	8,060	1
眼科	835	1	2,327	3	3,502	7	3,819	18
耳鼻咽喉科	3,951	118	6,106	50	7,321	5	7,974	8
放射線科	2,817	2	2,768	0	3,433	2	4,001	2
麻酔科	2,567	55	2,484	47	2,578	46	2,629	46
リハビリテーション科	16,705	71	-	-	-	-	-	-
医療相談科	220	0	170	0	314	0	345	0
合計	142,822	2,767	126,596	2,375	128,278	2,010	132,235	1,729

外来科別初再診別患者数

	初診患者延数				再診患者延数			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内科	1,931	2,167	2,079	2,117	1,183	1,440	1,596	1,677
精神科	113	153	284	406	1,497	1,347	989	939
脳神経内科	1,154	1,055	1,152	1,223	3,495	2,939	2,782	3,157
呼吸器内科	1,871	2,021	2,142	1,977	7,196	8,207	9,342	9,128
消化器内科	2,003	2,019	2,109	2,000	10,848	9,761	8,730	8,939
糖尿病・代謝内科	505	610	692	637	5,106	5,113	5,439	5,762
循環器内科	1,452	1,464	1,530	1,473	5,669	5,893	5,579	5,497
小児科	2,257	2,363	2,170	2,115	6,864	7,430	6,761	6,903
外科	917	860	850	986	5,588	5,589	5,705	6,669
整形外科	4,372	4,400	4,598	4,611	19,423	18,979	19,280	19,424
形成外科	934	942	892	948	2,511	2,306	2,200	2,207
脳神経外科	1,221	948	845	995	3,692	2,345	1,030	1,478
心臓血管外科	442	342	310	277	2,331	1,977	1,842	1,596
皮膚科	1,654	1,483	1,797	1,642	4,805	4,152	4,197	3,955
泌尿器科	909	904	956	936	6,532	5,876	5,741	5,733
産婦人科	812	870	802	795	6,440	6,786	6,709	7,265
眼科	356	649	741	762	479	1,678	2,761	3,057
耳鼻咽喉科	1,238	1,685	1,743	1,919	2,713	4,421	5,578	6,055
放射線科	629	695	1,028	940	2,188	2,073	2,405	3,061
麻酔科	2,059	2,149	2,227	2,264	508	335	351	365
リハビリテーション科	1,031	-	-	-	15,674	-	-	-
医療相談科	196	167	312	341	24	3	2	4
合計	28,056	27,946	29,259	29,364	114,766	98,650	99,019	102,871

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (H30年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	9,610	-	5,057	4,553	63.4	13.4	436	4.5%
A00-B99 1. 感染および寄生虫	281	2.9%	138	143	38.3	7.3	15	3.4%
C00-D48 2. 新生物	2,157	22.4%	1,159	998	68.8	12.9	142	32.6%
D50-D89 3. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	24	0.2%	14	10	59.4	12.8	1	0.2%
E00-E90 4. 内分泌、栄養および代謝疾患	172	1.8%	92	80	66.1	15.7	3	0.7%
F00-F99 5. 精神および行動の障害	21	0.2%	8	13	40.7	6.1		0.0%
G00-G99 6. 神経系の疾患	255	2.7%	145	110	63.2	12.4	1	0.2%
H00-H59 7. 眼および付属器の疾患	126	1.3%	59	67	75.3	1.7		0.0%
H60-H95 8. 耳および乳様突起の疾患	110	1.1%	46	64	58.8	5.6		0.0%
I00-I99 9. 循環器系の疾患	1,292	13.4%	760	532	76.6	15.8	126	28.9%
J00-J99 10. 呼吸器系の疾患	1,385	14.4%	803	582	49.1	12.1	78	17.9%
K00-K93 11. 消化器系の疾患	880	9.2%	479	401	67.5	11.8	23	5.3%
L00-L99 12. 皮膚および皮下組織の疾患	99	1.0%	46	53	58.4	10.8		0.0%
M00-M99 13. 筋骨格系および結合組織の疾患	671	7.0%	351	320	69.2	21.3	5	1.1%
N00-N99 14. 腎尿路生殖器系の疾患	335	3.5%	137	198	65.6	10.9	6	1.4%
O00-O99 15. 妊娠、分娩および産じょく(褥)	193	2.0%		193	33.5	10.1		0.0%
P00-P96 16. 周産期に発生した病態	82	0.9%	39	43	0.4	7.8		0.0%
Q00-Q99 17. 先天奇形、変形および染色体異常	41	0.4%	21	20	15.2	8.1		0.0%
R00-R99 18. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	178	1.9%	89	89	54.9	10.9	14	3.2%
S00-T98 19. 損傷・中毒およびその他の外因の影響	1,074	11.2%	506	568	67.1	17.6	22	5.0%
Z00-Z99 21. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	234	2.4%	165	69	63.4	4.3		0.0%

上位30疾患 退院患者数 (H30年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C34	気管支および肺の悪性新生物	367	3.8%	277	90	73.0	16.6	48
2	I63	脳梗塞	251	2.7%	149	102	79.6	22.7	8
3	J69	固形物および液状物による肺臓炎	236	2.5%	140	96	84.2	23.4	36
4	I50	心不全	216	2.3%	102	114	83.2	18.0	36
5	S72	大腿骨骨折	190	2.0%	30	160	85.1	27.3	
6	K80	胆石症	177	1.9%	95	82	72.6	9.7	1
7	M48	その他の脊椎障害	175	1.9%	100	75	72.7	17.9	
8	C18	結腸の悪性新生物	170	1.8%	101	69	71.0	12.5	9
9	C50	乳房の悪性新生物	161	1.7%		161	61.6	9.7	2
10	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	149	1.6%	103	46	69.8	3.2	
11	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	141	1.5%	86	55	70.9	14.1	13
12	I20	狭心症	122	1.3%	104	18	72.6	5.7	
13	J18	肺炎、病原体不詳	110	1.2%	59	51	54.7	10.5	5
14	C25	膵の悪性新生物	109	1.2%	62	47	72.1	16.4	21
15	H25	老人性白内障	108	1.2%	47	61	76.9	1.2	
16	S32	腰椎および骨盤の骨折	106	1.1%	47	59	75.9	19.7	
17	C16	胃の悪性新生物	104	1.1%	78	26	71.0	11.8	5
18	C61	前立腺の悪性新生物	102	1.1%	102		74.7	7.3	5
19	S06	頭蓋内損傷	99	1.1%	68	31	66.5	15.2	6
20	J21	急性細気管支炎	99	1.1%	50	49	2.0	4.4	
21	Z09	悪性新生物以外の病態の治療後の経過観察(フォローアップ)検査	98	1.0%	76	22	72.3	2.1	

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
22	N39	尿路系その他の障害	96	1.0%	35	61	69.6	13.0	2
23	E11	インスリン非依存性糖尿病(NIDDM)	94	1.0%	52	42	66.9	17.5	
24	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	93	1.0%	64	29	73.3	14.2	9
25	M51	その他の椎間板障害	88	0.9%	66	22	56.2	14.3	
26	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	86	0.9%	35	51	36.4	4.8	
27	M47	脊椎症	81	0.9%	51	30	74.3	18.5	
28	Z47	その他の整形外科的経過観察(フォローアップ)ケア(抜釘)	81	0.9%	43	38	47.5	6.1	
29	I70	アテローム(じゅく<粥>状)硬化(症)	81	0.9%	50	31	79.9	12.1	1
30	C20	直腸の悪性新生物	78	0.8%	51	27	69.2	13.9	3

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数 (H30年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C34	気管支および肺の悪性新生物	367	17.0%	277	90	73.0	16.6	48
2	C18	結腸の悪性新生物	170	7.9%	101	69	71.0	12.5	9
3	C50	乳房の悪性新生物	161	7.5%		161	61.6	9.7	2
4	C25	脾の悪性新生物	109	5.1%	62	47	72.1	16.4	21
5	C16	胃の悪性新生物	104	4.8%	78	26	71.0	11.8	5
6	C61	前立腺の悪性新生物	102	4.7%	102		74.7	7.3	5
7	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	93	4.3%	64	29	73.3	14.2	9
8	C20	直腸の悪性新生物	78	3.6%	51	27	69.2	13.9	3
9	C54	子宮体部の悪性新生物	73	3.4%		73	64.2	11.9	1
10	C67	膀胱の悪性新生物	71	3.3%	46	25	79.8	10.8	5
11	C56	卵巣の悪性新生物	61	2.8%		61	61.9	6.1	1
12	C53	子宮頸(部)の悪性新生物	43	2.0%		43	54.3	12.8	1
13	C23	胆のう(嚢)の悪性新生物	34	1.6%	23	11	75.8	10.9	2
14	C15	食道の悪性新生物	31	1.4%	31		71.7	24.3	7
15	C24	その他および部位不明の胆道の悪性新生物	29	1.3%	20	9	80.4	19.2	4
16	D06	子宮頸(部)の上皮内癌	28	1.3%		28	41.2	5.8	
17	C19	直腸S状結腸移行部の悪性新生物	24	1.1%	15	9	56.6	6.2	1
18	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	21	1.0%	14	7	75.0	13.0	1
19	D09	その他及び部位不明の上皮内癌	19	0.9%	16	3	81.0	10.7	
20	C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	18	0.8%	9	9	73.4	15.4	1

診療科別・疾患別 退院患者分類 (H30年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	インスリン非依存性糖尿病(NIDDM)	90	58.1%	67.1	17.5
2	E87	その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	7	4.5%	81.3	17.6
3	N39	尿路系のその他の障害	7	4.5%	82.3	13.9
4	E10	インスリン依存性糖尿病(IDDM)	7	4.5%	54.9	18.3
5	E16	その他の膵内分泌障害	4	2.6%	75.5	10.0
6	I46	心停止	3	1.9%	80.7	0.3
7	R54	老衰	3	1.9%	89.3	29.0
8	E15	非糖尿病性低血糖性昏睡	2	1.3%	75.5	27.0
9	J69	固形物および液状物による肺臓炎	2	1.3%	82.0	24.0
10	E22	下垂体機能亢進症	2	1.3%	66.0	12.5

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	235	52.1%	79.4	22.1
2	G40	てんかん	50	11.1%	73.6	12.8
3	G45	一過性脳虚血発作および関連症候群	23	5.1%	79.0	6.3
4	H81	前庭機能障害	14	3.1%	72.1	4.9
5	G20	パーキンソン(Parkinson)病	11	2.4%	79.3	25.7
6	N39	尿路系のその他の障害	6	1.3%	77.3	10.3
7	R55	失神および虚脱	6	1.3%	78.3	4.7
8	G41	てんかん重積(状態)	5	1.1%	59.0	8.2
9	R40	傾眠、混迷および昏睡	5	1.1%	82.8	8.8
10	G31	神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	4	0.9%	80.8	40.0
11	M62	その他の筋障害	3	0.7%	76.7	30.0
12	G70	重症筋無力症およびその他の神経筋障害	3	0.7%	65.0	13.3
13	M47	脊椎症	3	0.7%	63.0	7.7
14	G35	多発性硬化症	3	0.7%	40.3	15.3
15	I46	心停止	3	0.7%	83.7	3.7

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支および肺の悪性新生物	316	24.5%	72.6	17.2
2	J69	固形物および液状物による肺臓炎	209	16.2%	85.6	23.1
3	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	119	9.2%	78.2	15.1
4	J18	肺炎、病原体不詳	65	5.0%	76.7	13.5
5	J84	その他の間質性肺疾患	55	4.3%	78.6	31.2
6	N39	尿路系のその他の障害	47	3.6%	83.0	15.9
7	J13	肺炎レンサ球菌による肺炎	36	2.8%	74.6	14.4
8	J93	気胸	32	2.5%	63.6	12.6
9	J10	インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	31	2.4%	83.5	9.1
10	J46	喘息発作重積状態	19	1.5%	67.3	8.8
11	J44	単純性慢性気管支炎および粘液膿性慢性気管支炎	19	1.5%	79.2	17.7
12	I50	心不全	16	1.2%	82.6	19.3
13	G47	睡眠障害	14	1.1%	67.1	2.9
14	T78	有害作用、他に分類されないもの	14	1.1%	33.1	1.1
15	R50	その他の原因による熱及び不明熱	11	0.9%	78.8	16.7

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D12	結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	146	12.6%	69.7	2.9
2	K80	胆石症	102	8.8%	77.5	10.2
3	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	72	6.2%	73.5	13.8
4	C25	膵の悪性新生物	67	5.8%	70.8	13.7
5	C16	胃の悪性新生物	60	5.2%	70.9	8.6
6	K57	腸の憩室性疾患	50	4.3%	71.3	10.6
7	C18	結腸の悪性新生物	42	3.6%	75.4	14.3
8	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	32	2.8%	71.9	7.8
9	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	29	2.5%	74.9	11.1
10	K83	胆道のその他の疾患	28	2.4%	79.9	12.9
11	K85	急性膵炎	24	2.1%	69.1	17.3

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
12	K55	腸の血行障害	22	1.9%	79.7	7.5
13	K25	胃潰瘍	22	1.9%	74.9	10.4
14	C24	その他および部位不明の胆道の悪性新生物	21	1.8%	82.7	16.2
15	K91	消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	20	1.7%	71.0	9.6

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	184	19.4%	83.4	17.8
2	I20	狭心症	118	12.4%	72.7	4.6
3	Z09	悪性新生物以外の病態の治療後の経過観察(フォローアップ)検査	95	10.0%	72.7	2.1
4	I70	アテローム(じゅく(粥)状)硬化(症)	81	8.5%	79.9	12.1
5	I25	慢性虚血性心疾患	58	6.1%	72.1	7.8
6	I48	心房細動および粗動	48	5.1%	68.6	5.8
7	I21	急性心筋梗塞	47	5.0%	73.0	14.7
8	T82	心臓および血管のプロステーシス、挿入物および移植片の合併症(ペースメーカー電池交換)	43	4.5%	81.9	10.1
9	I44	心房ブロックおよび左脚ブロック	32	3.4%	84.6	10.9
10	I49	その他の不整脈	28	3.0%	71.4	11.1
11	I47	発作性頻拍(症)	21	2.2%	63.6	6.7
12	Z03	疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価(前立腺生検)	13	1.4%	73.8	2.2
13	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	13	1.4%	77.2	8.7
14	I74	動脈の塞栓症および血栓症	12	1.3%	83.7	25.6
15	I42	心筋症	12	1.3%	61.6	11.6

小児科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J21	急性細気管支炎	98	12.6%	1.3	4.4
2	J20	急性気管支炎	51	6.5%	2.5	3.3
3	A09	感染症と推定される下痢および胃腸炎	46	5.9%	5.2	2.3
4	J45	喘息	45	5.8%	2.4	4.4
5	R56	けいれん、他に分類されないもの	39	5.0%	3.1	2.4
6	A08	ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	36	4.6%	3.0	3.3
7	J02	急性咽頭炎	35	4.5%	2.9	2.9
8	J18	肺炎、病原体不詳	34	4.4%	3.4	3.9
9	J46	喘息発作重積状態	29	3.7%	6.0	4.1
10	J12	ウイルス肺炎、他に分類されないもの	26	3.3%	1.9	3.9
11	J03	急性扁桃炎	22	2.8%	3.5	3.6
12	J10	インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	21	2.7%	4.6	1.8
13	M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	19	2.4%	3.2	5.6
14	A49	部位不明の細菌感染症	18	2.3%	3.2	4.6
15	J06	他部位および部位不明の急性上気道感染症	17	2.2%	2.1	3.1

外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	158	14.5%	61.8	9.4
2	C18	結腸の悪性新生物	128	11.8%	69.5	12.0
3	K80	胆石症	75	6.9%	66.0	9.0
4	K40	そけい(鼠径)ヘルニア	72	6.6%	64.5	6.5

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
5	C20	直腸の悪性新生物	70	6.4%	69.3	13.4
6	K35	急性虫垂炎	57	5.2%	38.4	6.7
7	C34	気管支および肺の悪性新生物	49	4.5%	74.7	12.6
8	C25	膵の悪性新生物	42	3.9%	74.1	20.8
9	C16	胃の悪性新生物	41	3.8%	70.4	15.7
10	K56	麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	31	2.8%	77.6	16.6
11	C23	胆のう(嚢)の悪性新生物	24	2.2%	74.6	5.6
12	K91	消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	22	2.0%	67.0	10.6
13	C22	肝および肝内胆管の悪性新生物	19	1.7%	73.1	16.8
14	J93	気胸	18	1.7%	47.2	4.4
15	K81	胆のう(嚢)炎	16	1.5%	66.0	10.1

整形外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S72	大腿骨骨折	190	12.8%	85.1	27.3
2	M48	その他の脊椎障害	175	11.8%	72.7	17.9
3	S32	腰椎および骨盤の骨折	105	7.1%	75.8	19.8
4	M51	その他の椎間板障害	88	5.9%	56.2	14.3
5	Z47	その他の整形外科的経過観察(フォローアップ)ケア(抜釘)	81	5.5%	47.5	6.1
6	M47	脊椎症	77	5.2%	74.9	19.0
7	S52	前腕の骨折	69	4.6%	58.2	11.4
8	S82	下腿の骨折、足首を含む	64	4.3%	61.5	33.1
9	M17	膝関節商[膝の関節症]	57	3.8%	78.0	36.5
10	S42	肩および上腕の骨折	44	3.0%	50.5	14.0
11	S22	肋骨、胸骨および胸椎骨折	41	2.8%	77.8	16.3
12	M16	股関節商[股関節部の関節症]	41	2.8%	69.4	46.4
13	S83	膝の関節および靭帯の脱臼、捻挫およびストレイン	40	2.7%	55.7	10.3
14	M84	骨の癒合障害	35	2.4%	79.1	14.0
15	G56	上肢の単ニューロパチ(シ)ー	33	2.2%	69.8	8.4

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	14	14.7%	58.5	5.6
2	C44	皮膚のその他の悪性新生物	11	11.6%	75.3	11.5
3	L72	皮膚および皮下組織の毛包のう(嚢)胞	9	9.5%	45.2	6.3
4	S02	頭蓋骨および顔面骨の骨折	8	8.4%	32.3	9.6
5	S01	頭部の開放創	6	6.3%	53.5	6.5
6	Q18	顔面および頸部のその他の先天奇形	5	5.3%	16.4	6.6
7	Q69	多指(趾)(症)	5	5.3%	2.2	11.0
8	D23	皮膚のその他の良性新生物	4	4.2%	20.3	3.5
9	D21	結合組織及びその他の軟部組織のその他の良性新生物	3	3.2%	41.0	5.7
10	H02	眼瞼のその他の障害	3	3.2%	70.3	7.0

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S06	頭蓋内損傷	97	37.7%	66.4	15.5
2	I61	脳内出血	62	24.1%	74.2	30.8
3	G91	水頭症	15	5.8%	74.9	35.3

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
4	I60	くも膜下出血	14	5.4%	66.7	31.8
5	C71	脳の悪性新生物	7	2.7%	58.1	17.7
6	I67	その他の脳血管疾患	5	1.9%	67.2	17.0
7	S02	頭蓋骨および顔面骨の骨折	5	1.9%	28.4	4.0
8	S01	頭部の開放創	4	1.6%	68.0	4.5
9	I63	脳梗塞	4	1.6%	78.0	28.8
10	C70	髄膜の悪性新生物	4	1.6%	60.0	13.3

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I83	下肢の静脈瘤	45	27.6%	66.1	3.5
2	I71	大動脈瘤および解離	34	20.9%	76.6	16.4
3	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	12	7.4%	78.9	26.8
4	I72	その他の動脈瘤	9	5.5%	81.1	16.8
5	I08	連合弁膜症	8	4.9%	75.9	59.0
6	I50	心不全	8	4.9%	81.6	20.1
7	I74	動脈の塞栓症および血栓症	7	4.3%	84.9	8.4
8	I20	狭心症	4	2.5%	69.8	36.0
9	I80	静脈炎及び血栓(性)静脈炎	4	2.5%	84.8	11.8
10	L03	蜂巣炎(蜂窩織炎)	3	1.8%	82.3	11.3

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	L03	蜂巣炎(蜂窩織炎)	24	29.3%	76.2	11.7
2	T29	他部位の熱傷及び腐食	7	8.5%	72.1	21.7
3	C44	皮膚のその他の悪性新生物	7	8.5%	85.1	9.0
4	B02	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	6	7.3%	70.7	7.2
5	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	4	4.9%	52.3	8.8
6	T63	有毒動物との接触による毒作用	3	3.7%	64.7	5.3
7	A46	丹毒	3	3.7%	55.0	6.0
8	T25	足首及び足の熱傷及び腐食	2	2.4%	83.0	17.5
9	L72	皮膚および皮下組織の毛包のう(嚢)胞	2	2.4%	56.5	6.0
10	D04	皮膚の上皮内癌	2	2.4%	84.5	9.0

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C61	前立腺の悪性新生物	100	22.6%	74.4	7.4
2	C67	膀胱の悪性新生物	71	16.0%	79.8	10.8
3	N20	腎結石および尿管結石	40	9.0%	70.5	7.0
4	Z03	疾病および病態の疑いに対する医学的観察および評価(前立腺生検)	29	6.5%	70.8	2.0
5	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	21	4.7%	75.0	13.0
6	N30	膀胱炎	20	4.5%	81.0	8.1
7	D09	その他および部位不明の上皮内癌(膀胱)	19	4.3%	81.0	10.7
8	N40	前立腺肥大(症)	15	3.4%	75.9	10.2
9	C65	腎盂の悪性新生物	11	2.5%	79.7	5.5
10	N39	尿路系のその他の障害	11	2.5%	77.5	10.1
11	N21	下部尿路結石	11	2.5%	78.2	8.9

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
12	N43	精巣(睪丸)水腫および精液瘤	8	1.8%	57.8	4.3
13	N41	前立腺の炎症性疾患	8	1.8%	74.1	7.4
14	R33	尿閉	8	1.8%	83.8	9.6
15	N13	閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	8	1.8%	60.1	6.4

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C54	子宮体部の悪性新生物	73	11.9%	64.2	11.9
2	C56	卵巣の悪性新生物	61	9.9%	61.9	6.1
3	C53	子宮頸(部)の悪性新生物	41	6.7%	54.3	13.1
4	D27	卵巣の良性新生物	41	6.7%	47.1	9.2
5	P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児および新生児	38	6.2%	0.3	9.7
6	D25	子宮平滑筋腫	38	6.2%	49.4	10.3
7	D06	子宮頸(部)の上皮内癌	28	4.6%	41.2	5.8
8	O47	偽陣痛	27	4.4%	34.2	17.4
9	O34	既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	24	3.9%	35.2	12.8
10	N81	女性性器脱	19	3.1%	74.5	15.1
11	O42	前期破水	17	2.8%	32.1	7.1
12	N80	子宮内膜症	15	2.4%	41.3	10.3
13	O20	妊娠早期の出血	13	2.1%	33.6	14.9
14	O00	子宮外妊娠	12	2.0%	29.8	5.8
15	N84	女性性器のポリープ	11	1.8%	48.8	4.0

眼科

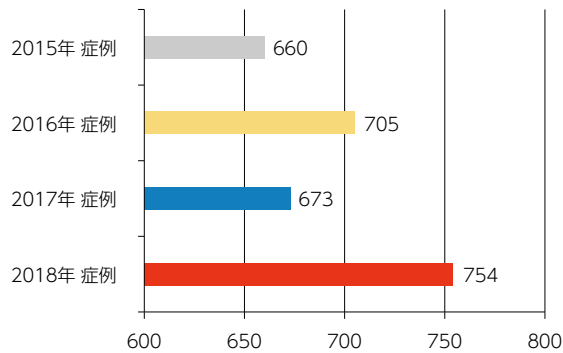
順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	108	90.0%	76.9	1.2
2	H26	その他の白内障	5	4.2%	61.8	1.0
3	H02	眼瞼のその他の障害	2	1.7%	80.0	1.0

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J35	扁桃およびアデノイドの慢性疾患	64	13.3%	17.3	6.2
2	H81	前庭機能障害	52	10.8%	71.2	4.6
3	J32	慢性副鼻腔炎	29	6.0%	57.0	8.1
4	G47	睡眠障害	25	5.2%	33.4	1.8
5	J38	声帯および喉頭の疾患、他に分類されないもの	21	4.4%	57.7	3.2
6	J03	急性扁桃炎	18	3.8%	28.5	4.1
7	H91	その他の難聴	18	3.8%	67.0	11.9
8	J36	扁桃周囲膿瘍	17	3.5%	38.2	5.3
9	J34	鼻および副鼻腔のその他の障害	17	3.5%	46.7	7.1
10	C73	甲状腺の悪性新生物	17	3.5%	64.8	34.2
11	H65	非化膿性中耳炎	17	3.5%	6.1	2.4
12	G51	顔面神経障害	13	2.7%	70.3	9.5
13	K11	唾液腺疾患	12	2.5%	40.7	5.3
14	C32	喉頭の悪性新生物	12	2.5%	72.8	42.7
15	R04	気道からの出血	11	2.3%	78.5	10.5

院内がん登録データに係る統計 (2018年 診断症例)

登録件数



収集の対象は、平成30(2018)年1月1日から12月31日までの1年間に、当院で診断または他施設で既に診断されて当院に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の患者である。

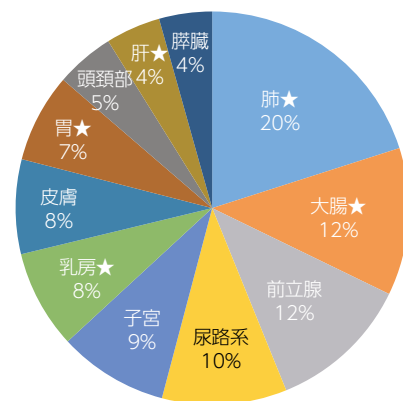
2018年の全登録数は754症例で、昨年と比べて81症例増加した。内訳として乳房20症例、子宮20症例、前立腺20症例の増加が目立った。治療に関しては、特に高齢者において症状が出現した状態で初めて医療機関を受診し、それらの多くが進行がんであることなどから、外科的治療が出来ない症例が少なくない。このような症例は肺癌で多く見られた。

診断年別 主要部位別登録件数

部位	2016年	2017年	2018年
頭頸部	24	34	31
食道	7	10	14
胃★	47	49	47
大腸★	101	74	78
肝★	33	29	29
胆嚢	6	7	7
膵臓	20	26	29
肺★	112	138	129
皮膚	46	53	50
乳房★	52	32	52
子宮	57	38	58
前立腺	52	55	75
尿路系	65	53	66
脳神経	7	6	13
甲状腺	13	10	15
悪性血液	20	19	13
その他	43	40	48

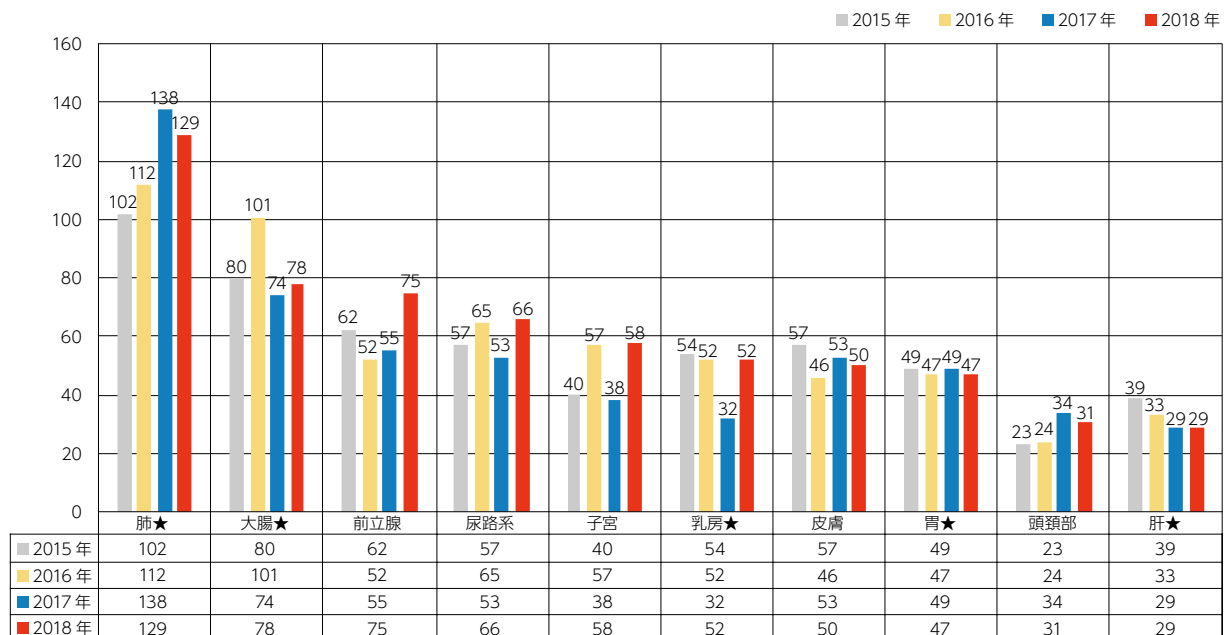
★は5大部位

2018年診断症例 上位10部位別登録割合

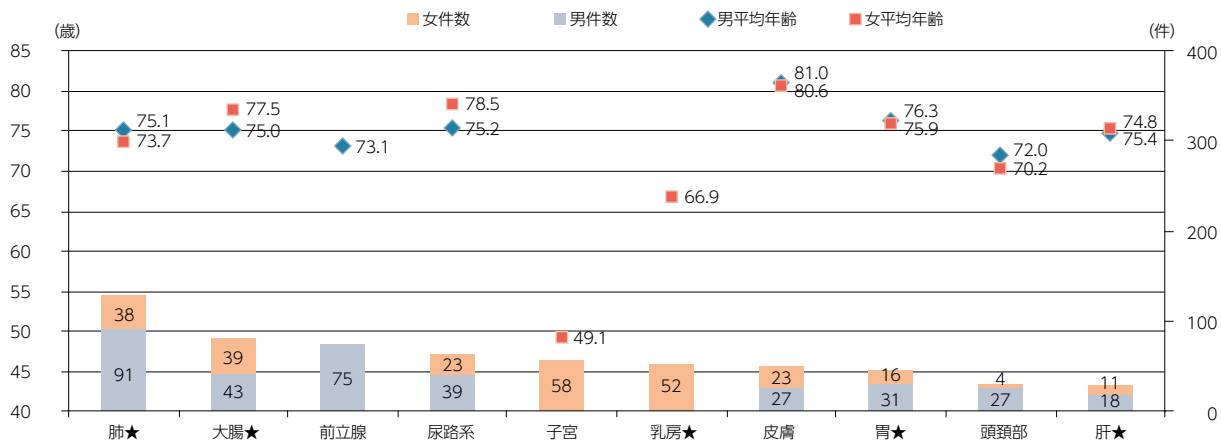


※大腸は結腸と直腸
 ※子宮は子宮頸部と体部
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫、骨髄腫、他の造血器腫瘍

2018年登録 上位10部位



性別登録 上位10部位別件数



★は5大部位

性別年代別登録 内訳と年齢分布

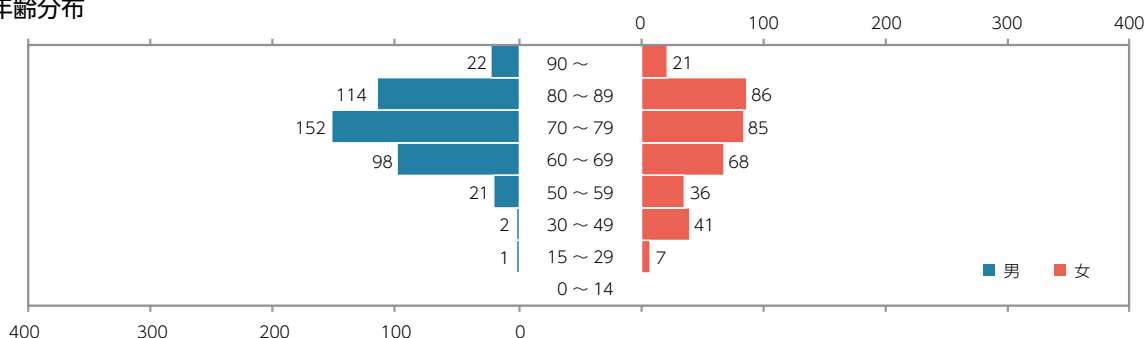


男性全体	0~14歳		15~29歳		30~49歳		50~59歳		
肺★	91		その他	1	尿路系(腎)	2	大腸★	6	
前立腺	75		(脊髄腫瘍)				肺★	4	
大腸★	43						前立腺	2	
尿路系	39						尿路系(腎)	2	
胃★	31						頭頸部	2	
頭頸部	27						など		
皮膚	27								
肝★	18								
その他	16								
食道	14								
脾臓	12								
脳神経	6								
胆嚢	5								
悪性血液	4								
甲状腺	2								
計	410								
		60~69歳		70~79歳		80~89歳		90歳~	
		前立腺	22	前立腺	39	肺★	32	大腸★	4
		肺★	21	肺★	32	皮膚	15	悪性血液	3
		尿路系	8	尿路系	15	尿路系	14	肺★	2
		胃★	7	大腸★	14	前立腺	10	前立腺	2
		頭頸部	7	頭頸部	14	大腸★	10	尿路系	2
		脾臓	6	肝★	7	肝★	4	皮膚	2
		など		など		など		など	
		計	98	計	152	計	114	計	22

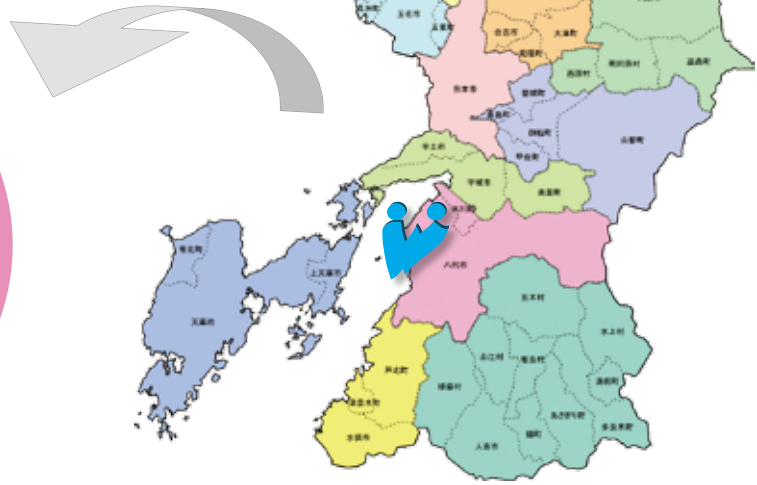
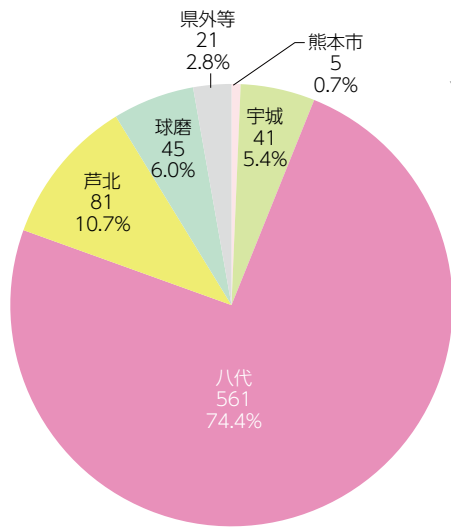


女性全体	0~14歳		15~29歳		30~49歳		50~59歳		
子宮	58		子宮	3	子宮	29	子宮	12	
乳房★	52		脳神経	2	乳房	6	乳房★	11	
大腸★	39		甲状腺	1	甲状腺	4	その他	6	
肺★	38		その他(卵巣)	1	肺★	1	大腸★	2	
その他	32				皮膚	1	皮膚	1	
皮膚	23						脾臓	1	
尿路系	23						など		
脾臓	17								
胃★	16								
甲状腺	13								
肝★	11								
悪性血液	9								
脳神経	7								
頭頸部	4								
胆嚢	2								
計	344								
		60~69歳		70~79歳		80~89歳		90歳~	
		肺★	15	乳房★	15	肺★	14	大腸★	5
		乳房★	10	大腸★	15	大腸★	13	皮膚	5
		その他	10	尿路系	10	皮膚	10	その他	4
		子宮	6	肺★	8	尿路系	9	乳房★	2
		大腸★	6	子宮	6	乳房	8	胃★	2
		胃★	6	脾臓	6	脾臓	7	など	
		肝★	2	肝★	5	胃★	4		
		など		など		など			
		計	68	計	85	計	86	計	21

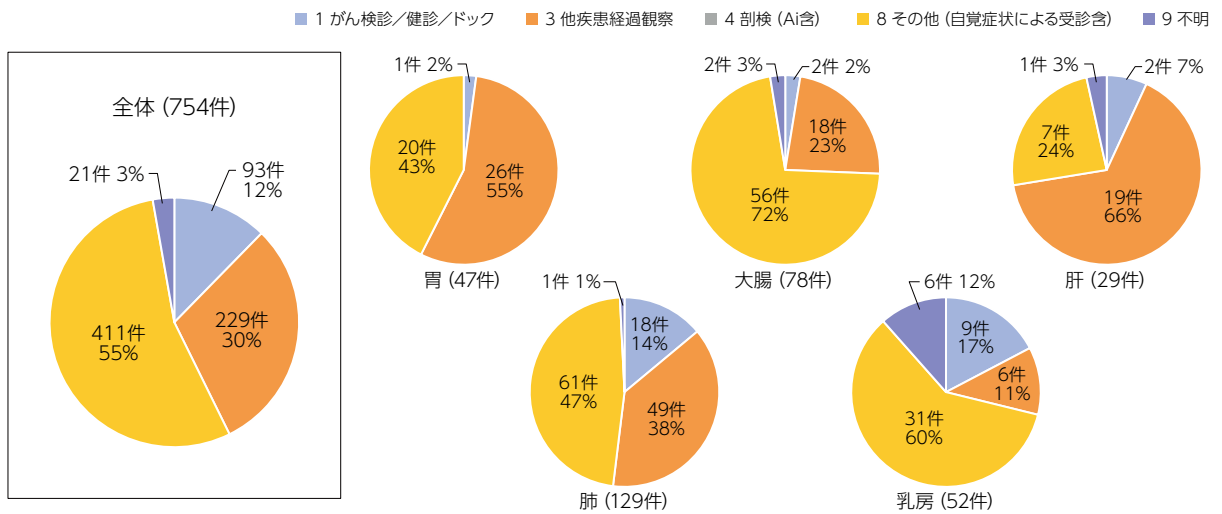
■ 年齢分布



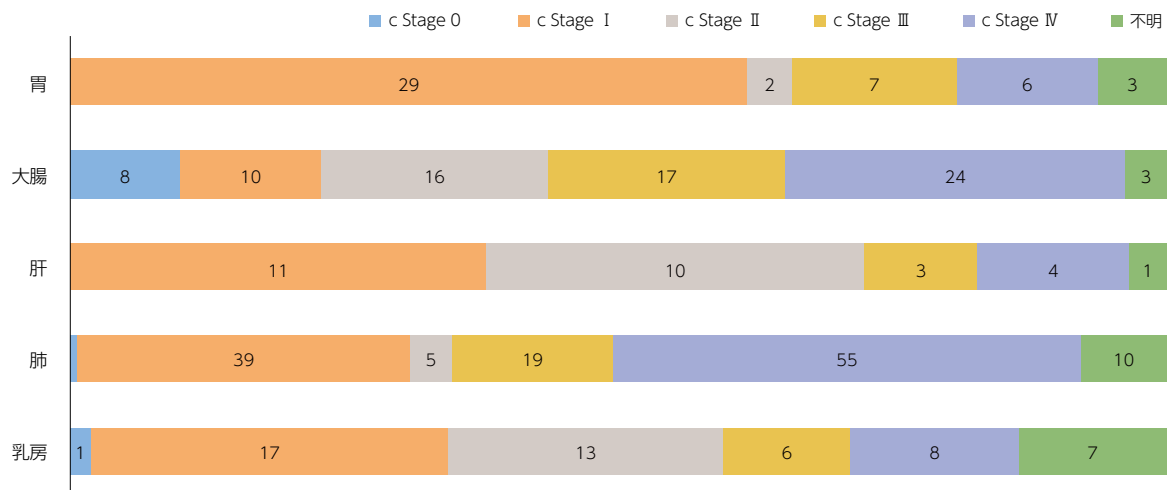
患者住所 医療圏別登録の状況 (2018年 診断症例)



発見経緯 5大部位の内訳



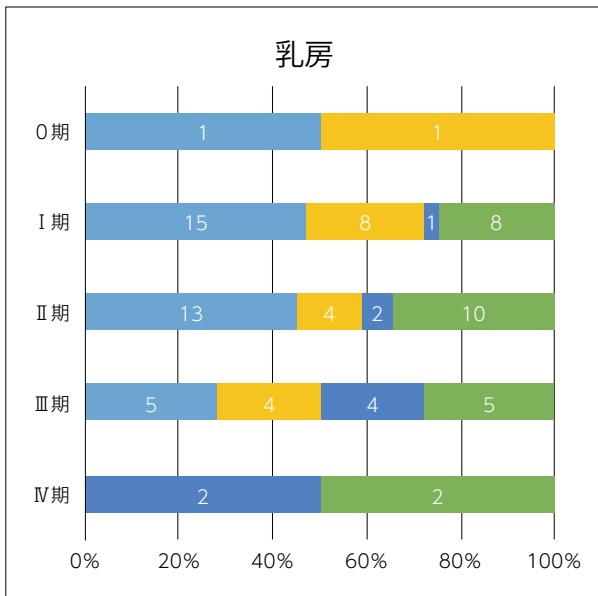
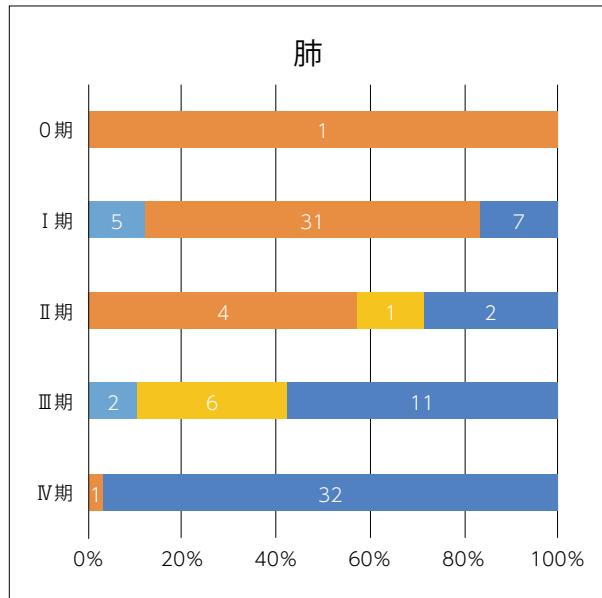
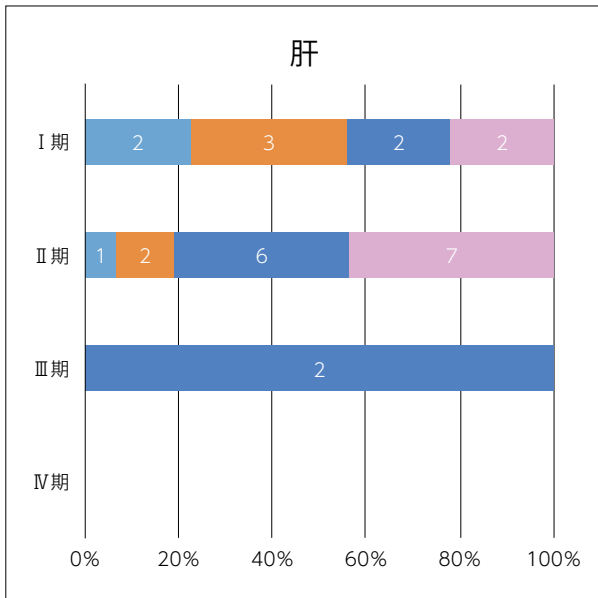
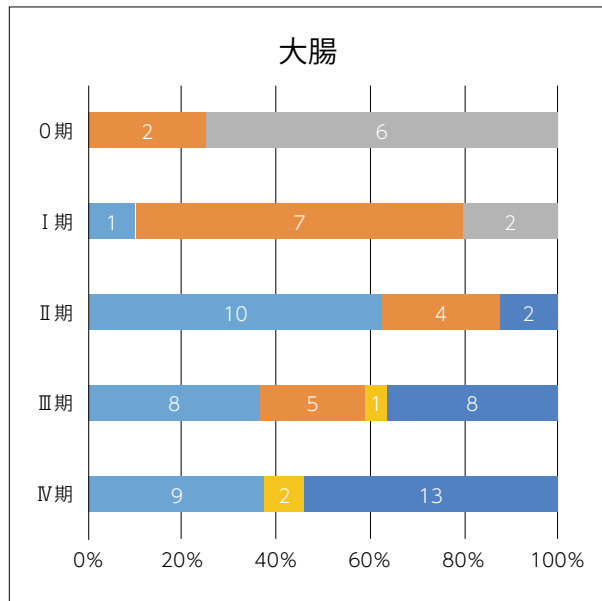
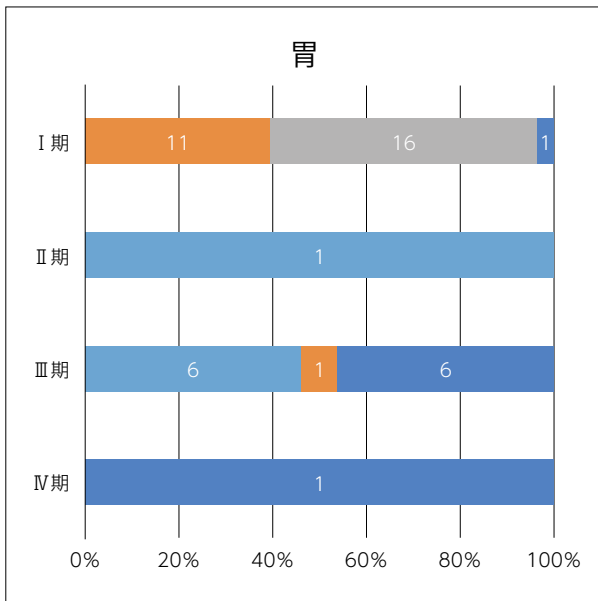
5大部位 stage別割合



※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】
 (術前治療なし・観血的治療例はp Stage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はc Stage)

5大部位別 治療割合

■ 外科的 ■ 体腔鏡的 ■ 内視鏡的 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他 (RFA等)



早期発見・早期治療!



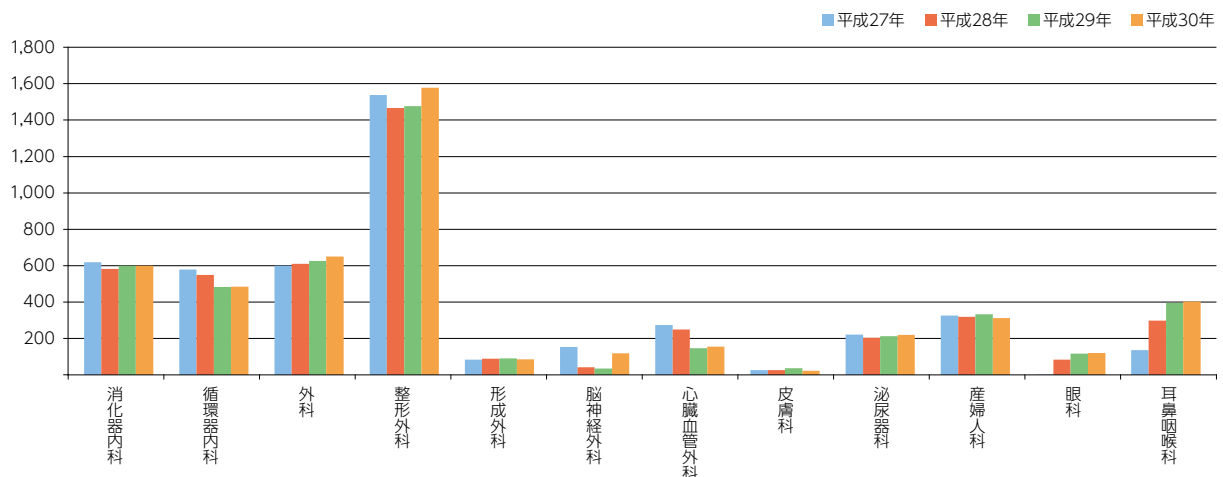
令和元年6月20日作成
診療情報管理室 院内がん登録担当: 村田

高度医療

単価 (年度実績4-3月)

	1人1日当り単価(入院)				1人1日当り単価(外来)			
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内科	-	-	-	-	16,368	17,581	19,471	18,744
精神科	-	-	-	-	4,280	3,649	2,929	2,774
脳神経内科	39,608	49,001	44,691	45,795	14,804	18,305	14,596	12,574
呼吸器内科	39,422	41,518	41,443	42,764	20,715	21,176	28,451	32,369
消化器内科	50,491	46,344	47,036	49,651	19,997	18,404	19,802	19,602
糖尿病・代謝内科	34,680	35,738	34,179	35,366	11,789	11,063	10,741	10,844
循環器内科	103,759	96,984	90,587	94,986	12,686	12,877	14,019	15,567
小児科	55,351	57,204	59,098	62,789	13,766	15,204	15,691	13,662
外科	67,540	73,120	79,545	78,413	33,900	31,180	29,788	24,662
整形外科	52,360	52,966	53,065	58,376	9,901	9,703	9,701	9,717
形成外科	48,960	52,381	51,084	52,862	7,723	7,296	7,494	7,167
脳神経外科	47,792	50,225	49,467	60,411	10,295	9,233	11,056	13,367
心臓血管外科	115,145	137,193	119,237	123,607	12,452	12,058	12,039	14,145
皮膚科	39,733	40,041	39,947	37,198	7,437	7,269	7,573	8,340
泌尿器科	48,988	48,861	50,563	56,406	15,678	16,674	16,230	16,506
産婦人科	58,710	57,942	55,313	62,342	8,763	8,971	9,918	8,942
眼科	271,107	153,176	195,532	128,415	4,597	6,549	6,471	6,741
耳鼻咽喉科	53,182	52,989	51,557	51,778	9,975	9,584	9,159	11,855
放射線科	-	-	-	-	28,902	25,510	27,591	27,058
麻酔科	-	-	-	-	277	120	112	66
理学診療科	44,976	-	-	-	7,882	-	-	-
医療相談科	-	-	-	-	33,824	37,353	31,469	31,336
合計	56,989	58,520	57,065	59,906	13,402	13,950	14,809	14,956

手術 (年度実績4-3月)

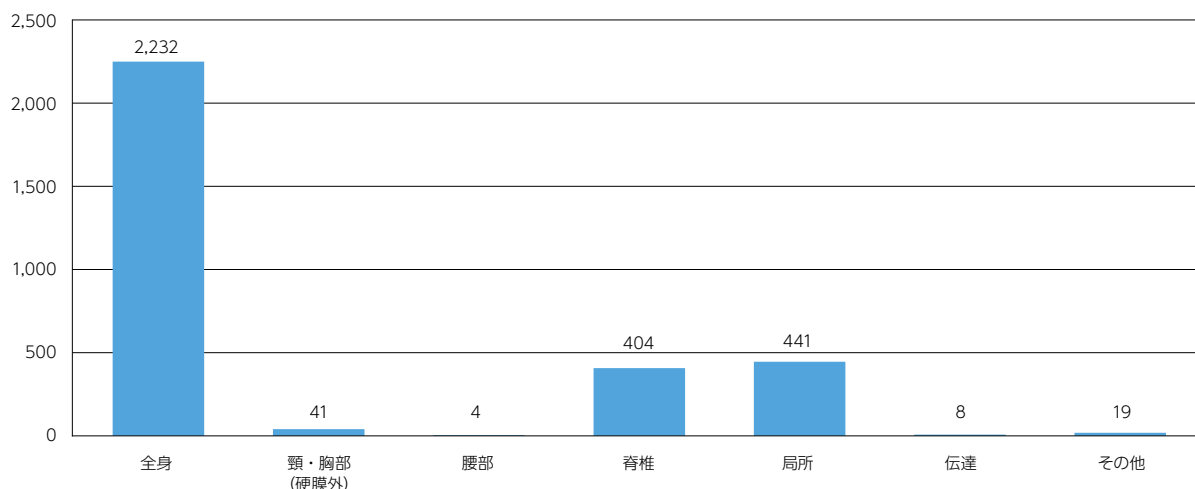


	消化器内科	循環器内科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
平成27年度	622	582	604	1,546	84	155	276	26	223	328	3	137	4,586
平成28年度	585	553	614	1,474	90	42	251	27	205	322	84	300	4,547
平成29年度	604	486	629	1,485	91	35	148	37	215	336	118	398	4,582
平成30年度	604	488	655	1,586	87	120	156	23	221	314	121	405	4,780

※入院と外来の手術室内のみ(ただし、循環器内科と消化器内科は手術室外で行う為、数に含む)

麻酔 (年度実績4-3月)

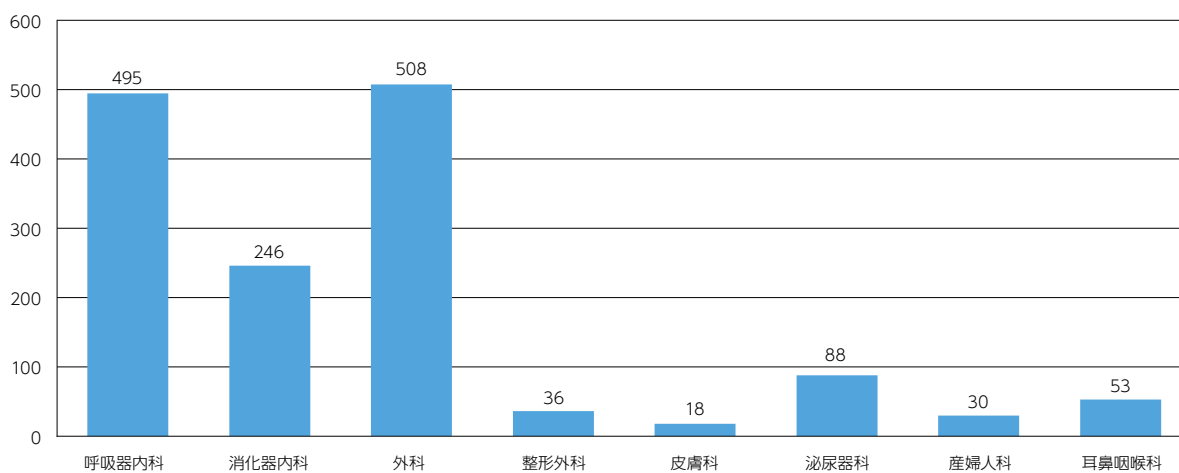
■ 麻酔法別件数 (平成30年度)



	全身	頸・胸 (硬膜外)	腰部	脊椎	局所	伝達	その他
平成30年度	2,232	41	4	404	441	8	19
※参考 平成29年度	2,153	44	0	393	385	11	17

外来化学療法加算 (年度実績4-3月)

■ 化学療法加算件数 (平成30年度)

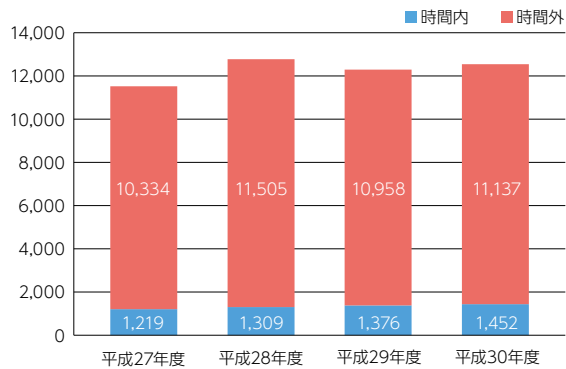


	呼吸器内科	消化器内科	外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科
平成30年度	495	246	508	36	18	88	30	53
※参考 平成29年度	476	232	518	43	12	52	86	23

救急医療

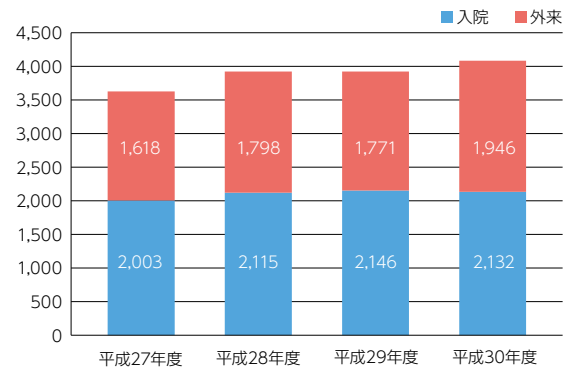
救急医療 (年度実績4-3月)

■ 救急患者数 (時間内・時間外別)



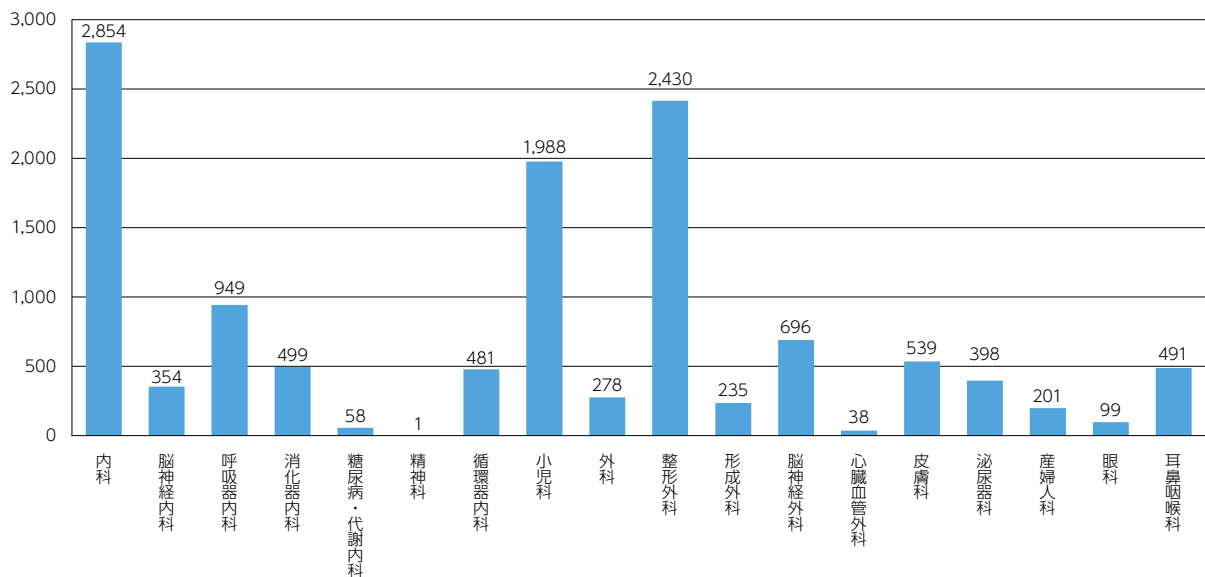
	時間内	時間外	合計
平成27年度	1,219	10,334	11,553
平成28年度	1,309	11,505	12,814
平成29年度	1,376	10,958	12,334
平成30年度	1,452	11,137	12,589

■ 救急車搬送患者数 (ヘリ含む/入院・外来別)



	入院	外来	合計
平成27年度	2,003	1,618	3,621
平成28年度	2,115	1,798	3,913
平成29年度	2,146	1,771	3,917
平成30年度	2,132	1,946	4,078

■ 診療科別救急患者数 (平成30年度)

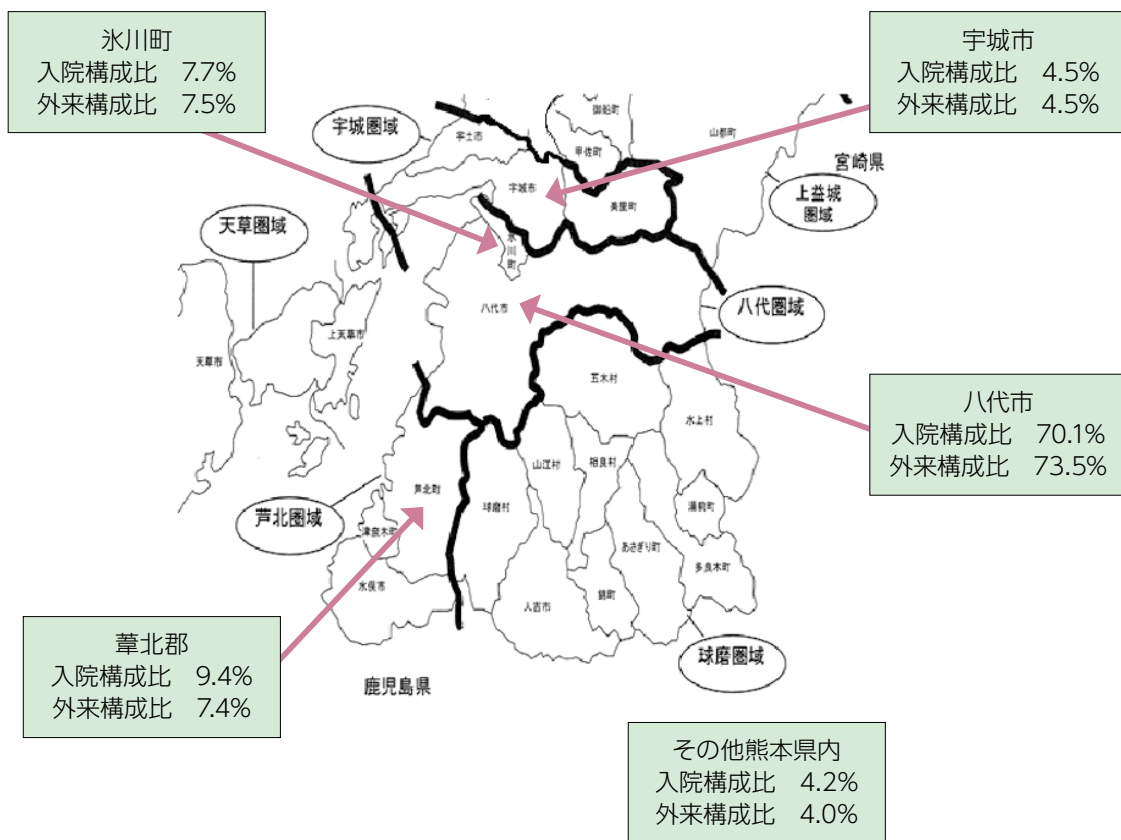


	平成30年度	※参考 平成29年度
内科	2,854	2,763
脳神経内科	354	359
呼吸器内科	949	886
消化器内科	499	496
糖尿病・代謝内科	58	63
精神科	1	0
循環器内科	481	505
小児科	1,988	2,070
外科	278	256

	平成30年度	※参考 平成29年度
整形外科	2,430	2,369
形成外科	235	238
脳神経外科	696	581
心臓血管外科	38	58
皮膚科	539	559
泌尿器科	398	358
産婦人科	201	229
眼科	99	71
耳鼻咽喉科	491	473
合計	12,589	12,334

地域医療

地域医療 (年度実績4-3月)



			入院患者				外来患者			
					労災患者				労災患者	
			延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)
熊本県	八代医療圏	八代市	90,290	70.1	1,416	65.8	97,208	73.5	1,326	76.7
		氷川町	9,977	7.7	85	4.0	9,953	7.5	108	6.2
		小計	100,267	77.8	1,501	69.8	107,161	81.0	1,434	82.9
	葦北郡	12,087	9.4	99	4.6	9,723	7.4	51	2.9	
	宇城市	5,845	4.5	92	4.3	5,936	4.5	65	3.8	
	球磨郡	3,032	2.4	164	7.6	2,252	1.7	37	2.1	
	その他県内	5,369	4.2	216	10.0	5,328	4.0	127	7.3	
	熊本県計	126,600	98.2	2,072	96.3	130,400	98.6	1,714	99.1	
福岡県	168	0.1	40	1.9	224	0.2	2	0.1		
鹿児島県	1,205	0.9	35	1.6	740	0.6	4	0.2		
その他	897	0.7	4	0.2	871	0.7	9	0.5		
合計	128,870	100.0	2,151	100.0	132,235	100.0	1,729	100.0		

診療情報



患者紹介について

当院では初診の紹介患者様について予約サービスを行っています。紹介元医療機関から地域医療連携室へあらかじめ情報提供書をファックスしていただくことにより、診察や検査のご予約が可能です。

受付・お問い合わせ先

地域医療連携室

TEL 0965-33-4151 (代表)
FAX 0965-34-5799 (直通)

入退院支援 相談窓口

TEL 0965-33-7231
(入退院支援担当者直通)

診察予約

全診療科 予約は不要です。

かかりつけ医からの紹介状をお持ちになって、月～金の11時までにご来院ください。
ただし、小児科と整形外科の初診の受付につきましては完全紹介制となっておりますので、かかりつけ医からの紹介状を必ず持参ください。
また、ご紹介の患者様につきましては、ご希望があれば紹介予約をお取りできますので、紹介元よりFAXにてお申し込みください。

検査予約

放射線検査 予約

TEL 0965-33-7227 (直通)

お電話でご予約いただいた場合は、診療情報提供書を事前にFAXしていただく必要はありません。患者様が受診される際に持たせてください。

※ 緊急の場合は当日対応も可能です。

- 電話では、こちらから以下の内容についてお尋ねいたします。
 - 紹介患者様のお名前と生年月日
 - ※ 当院の受診歴がない場合には、事前にカルテ作成の準備をするためお名前の漢字表記をお尋ねいたします。
 - 検査項目 (CT / MRI / RI)
 - 検査部位
 - 検査種別 (単純 / 造影)
 - ※ 造影検査の場合、直近の血液検査実施及び検査データの有無についても、お尋ねいたします。
 - ご希望の検査日時
- お電話で予約後、当院からFAXにて「検査予約票」を送付します。
- 食事制限の有無について記載しておりますので、ご確認の上、患者様へお渡しください。

診療科へ紹介される場合

- ① 「放射線科検査希望」である旨ご記載のうえ患者様をご紹介ください。
- ② 各診療科の医師が診察を行います。
- ③ 検査を行います。※1
- ④ 各診療科の医師より結果説明を行います。※2
- ⑤ お返事をお送りいたします。

Point !

専門医による診察、結果説明を行ったうえで、ご紹介いただいた先生へお返しいたします。

※1 ※2 通常、それぞれ日を改めて行いますが、同日中に済ませたい場合にはその旨お申し付けください。診察/検査枠の状況によりますが、可能な限りご希望に沿えるよう対応いたします。

検査のみを依頼される場合

- ① 検査予約専用直通電話(0965-33-7227)もしくはFAXにて予約申込みを行ってください。
- ② 予約日に検査を行います。
- ③ 読影結果および画像のDVDを郵送いたします。※
- ④ ご紹介いただいた先生より結果説明をお願いいたします。

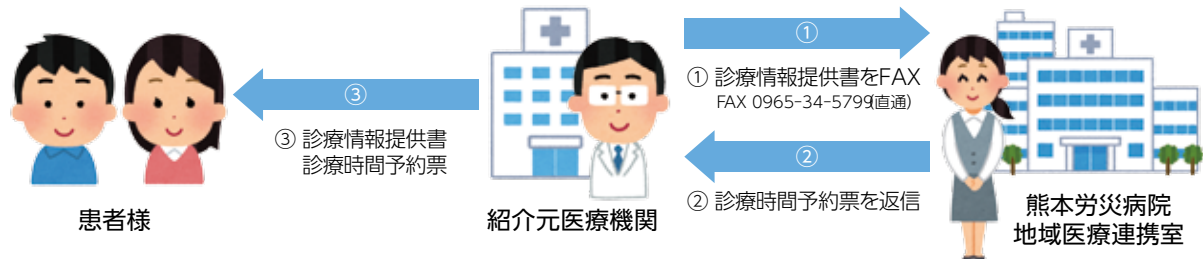
Point !

検査の実施および結果の確認を迅速に行うことができます。当院からの結果説明は行いませんので、結果確認のうえ、患者様へはご紹介いただいた先生よりご説明をお願いいたします。

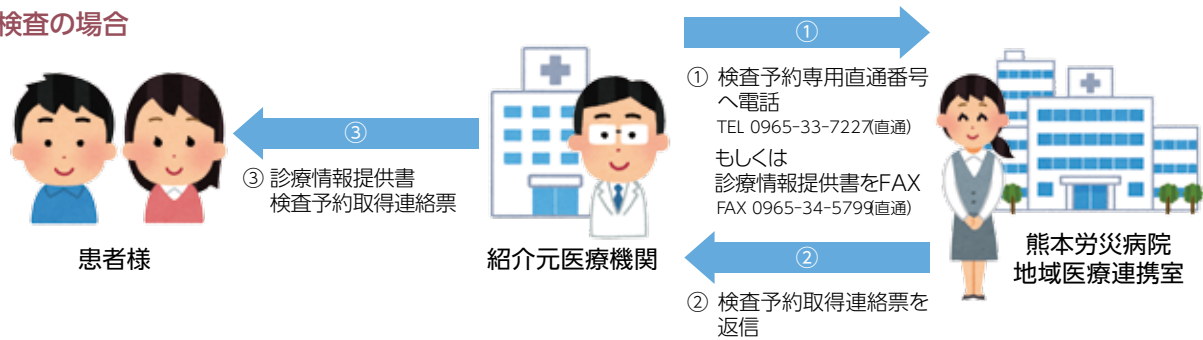
※通常、異常発見が見られない場合には郵送しておりますが、検査当日中の所見のFAXやDVDの患者様手渡しも可能です。希望される場合は予約の際にお申し付けください。

紹介予約の流れ

診察の場合



検査の場合



1. 診療情報提供書（兼診察依頼票）を、ファックスにて地域医療連携室あてご送信ください。
FAX 0965-34-5799（地域医療連携室直通）

※ 検査予約の場合は、予約専用電話でも受け付けております。
TEL 0965-33-7227（地域医療連携室の担当へ直接つながります）

2. 情報提供書の内容確認後、原則10分以内に当院から診察時間予約票をファックスします。

※ ご依頼内容・受診診療科によっては予約調整にお時間をいただく場合がございます。

3. 患者様へ診療情報提供書（兼診察依頼票）、診察時間予約票をお渡しください。

受診当日は、①健康保険証、②診療情報提供書、③診察時間予約票、④お薬手帳 をご持参のうえ、総合受付1番窓口までお越しください。

診療情報提供書（兼 診察依頼票）

熊本労災病院 地域医療連携室行

FAX 0965-34-5799

令和 年 月 日

（月～金 8:15～17:00）

ふりがな（ ） 患者氏名		貴医療機関名（住所、電話番号、FAX番号）	
生年月日 M・T・S・H・R 年 月 日 （ ）才 性別（男・女）			
電話番号（ ） —			
住 所 県 市・郡 町			
依頼診療科		貴医師名	
<input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 脳神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病・代謝内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 血管外来科 <input type="checkbox"/> 外 科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 形成外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 眼 科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科			
希望日 ① 令和 年 月 日（ ）		希望医師名	
② 令和 年 月 日（ ）		医師	
③ 令和 年 月 日（ ）			
疾患名・症状			
紹介目的			
病状経過及び 検査歴・治療経過			
現在の処方			

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地
電 話 0965-33-4151（代 表）
F A X 0965-34-5799（地域医療連携室）

独立行政法人 労働者健康安全機構
熊 本 労 災 病 院

検査依頼書（兼 診療情報提供書）

依 頼 患 者			
フリガナ		住所	
氏 名			
生年月日	MTSH 年 月 日 歳	電話	

検査項目	<input type="checkbox"/> CT (単純・造影)
	<input type="checkbox"/> MRI (単純・造影)
	<input type="checkbox"/> RI

検査部位	
医療機関名	
住 所	
医師名	
	先生 TEL
	FAX

疾患名 / 既往歴
検査目的 / ご紹介の主旨
症状の経過および検査結果 / 治療経過 / 薬物アレルギー (有・無)
検体採取日 年 月 日 BUN (mg/dl) クレアチニン (mg/dl)

熊本労災病院 地域医療連携室

TEL 0965-33-4151

FAX 0965-34-5799

検査を受けられる方へ

1. 検査当日は総合受付へ検査依頼票（兼 診療情報提供書）をご提出ください。
2. 予約時間に遅れますと検査が遅れたり、当日できなくなることもあります。都合で検査が遅れたり、来院できない場合には、必ずご連絡をお願い致します。なお、受付時刻のおよそ30分後が検査予定の時間です。
3. 妊娠中、妊娠の可能性のある方は、必ず、お申し出ください。

あなたの検査は

 CT

原則として、食事・水分制限はありません。

胃、胆嚢の検査の場合、検査3時間前から食事は摂らないでください。

下記に該当される方は、検査前に必ずかかりつけの先生へご相談ください。

- ・アレルギー、喘息、腎疾患のある方
- ・過去に造影剤を用いた検査で気分不良などの問題のあった方

膀胱の検査の場合には、検査1時間前からトイレ（尿）は控えてください。

 MRI

原則として、食事・水分制限はありません。

胃、胆嚢の検査の場合、検査3時間前から食事は摂らないでください。

下記に該当される方は、検査前に必ずかかりつけの先生へご相談ください。

- ・心臓ペースメーカー装着者
- ・脳動脈瘤手術後の方
- ・体内に金属のある方
- ・心臓手術後の方
- ・ステントを挿入されている方
- ・喘息の既往のある方
- ・アレルギー、喘息、腎疾患のある方
- ・過去に造影剤を用いた検査で気分不良などの問題のあった方

膀胱の検査の場合には、検査1時間前からトイレ（尿）は控えてください。

 RI

検査開始時間、所要時間は、検査の種類によって異なります。

検査に用いる薬品は、当日しか使用できない高価な特殊薬品です。

検査日時はお間違えにならないようお願い致します。

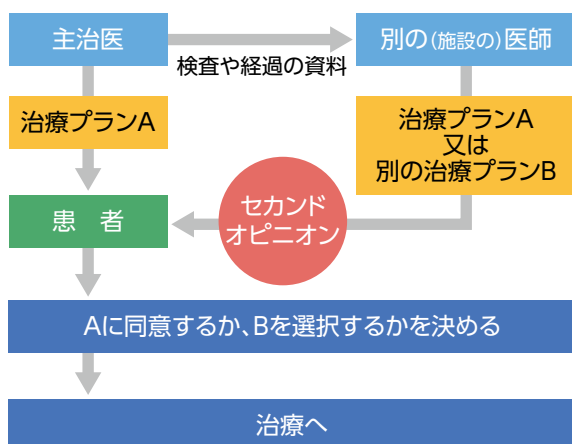
お問い合わせ先

地域医療連携室 TEL 0965-33-4151 (代表) FAX 0965-34-5799 (直通)
お問い合わせ時間 平日 午前8時15分 から 午後5時00分まで

セカンド・オピニオン外来

セカンド・オピニオン外来とは

セカンド・オピニオン外来の説明図



セカンド・オピニオン外来は、当院以外の医療機関に入院または通院されている患者さまに対し、当院の専門医が診断・治療に関する意見や判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としており、診療行為はいたしません。当院での治療を希望される場合は、一般外来を受診してください。

なお、セカンド・オピニオン外来は完全予約制です。相談希望の方は、事前にお申込みが必要となります。

相談を実施する診療科

呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、脳神経内科、循環器内科、小児科、心臓血管外科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科

セカンド・オピニオン外来の対象となる場合

相談は患者さま本人を原則とします。ただし、ご本人の同意書があれば、ご家族（配偶者、親、子、兄弟に限る。）の方だけでも相談できますが、この場合、患者さまとの続柄を確認できる書類（住民票、健康保険証など）をお持ちください。また、現在受診中の医療機関からセカンド・オピニオンに関する紹介状（診療情報提供書）や検査結果等の資料をご用意いただく必要があります。

以下の場合の対象となりませんのでご注意ください

- 最初から当院での治療などを希望される場合
- 現在受診中の医療機関に対する不満や苦情、医療訴訟を目的とした相談
- 診療費に関する相談
- 死亡した患者さまを対象とした相談
- 主治医が了承していない場合
- 予約がない場合
- ご本人、ご家族以外からの相談（ただし、ご家族でも本人の同意書をお持ちでない場合）
- 相談内容が当院の専門でない場合

相談について

各診療科担当医と相談の上、相談の可否、追加に必要な資料、相談日時を決定し、電話及び予約決定通知書でご連絡いたします。

相談時間

相談時間は、30分を原則とさせていただきます。

費用

- 7,500円（消費税込）、以後30分を超えるときは、30分ごとに7,500円（消費税込）が必要となります。
- 全額自費となります。（健康保険は適用されません。）
- 相談料金は、ご相談が終了した後に会計窓口でお支払いいただけます。

持参していただくもの

- 予約決定通知書
- 紹介状（診療情報提供書）
- 相談者のご家族の場合、患者さまご本人の署名のある同意書
- 検査データ（血液検査、心電図、レントゲンフィルム、超音波検査の結果と画像、MRI、CT等の画像、病理組織検査の報告書等）
- その他当院が特に必要と認めて依頼した資料

※当日、主治医からの情報や検査資料をお持ちでない場合は、一般的なお話しができません。有効なセカンド・オピニオンが提供できないため、ご予約いただいても、ご相談に応じられない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

申込方法・お問い合わせ先

- すべて予約制です。
- 地域医療連携室にお電話ください。ご相談の概要をお伺いします。
- 予約申込書を熊本労災病院HPよりダウンロードして印刷してください。
- 予約申込書に必要事項を記入の上、地域医療連携室あてにFAX又は郵送してください。
- ダウンロードや印刷ができない場合は、電話で予約申込書をご請求ください。

地域医療連携室

TEL 0965-33-4151（内線379）

FAX 0965-34-5799（直通）

受付時間 午前8時15分～午後5時

（土・日・祝日・年末年始を除く）

熊本労災病院HPよりダウンロードできる資料

- セカンド・オピニオン外来のご案内
- セカンドオピニオン申込書【様式2】
- 主治医の先生へのお願【様式3】

お申し込み手順

1. 現在の主治医へセカンドオピニオンの相談を行い、了解を得てください。
2. 患者さまの現在の主治医に紹介状（診療情報提供書）・検査データ・フィルム等の資料をご依頼ください。その際、すべての資料が揃う日をご確認ください。
(注) 紹介状をお持ちでない場合、セカンドオピニオンをお受けできません。
3. 熊本労災病院HPよりダウンロードされた申込書を印刷してください。
印刷できない場合は当院地域医療連携室へご請求ください。
(注) ご家族のみの場合、患者さま本人の同意書も必要です。
4. 相談者の方ご自身で申込書にご記入のうえ、地域医療連携室あてにFAXまたは郵送ください。
(注) 申込みの内容により担当医師を決定しますので、なるべく具体的にご記入ください。
5. お送りいただいた申込内容により専門性を考慮し、相談の可否、相談医師、相談日を決定し、電話及びセカンドオピニオン外来予約決定通知書によりご連絡いたします。
6. 相談日当日は、セカンドオピニオン外来予約決定通知書、診療情報提供書（患者様本人でない場合は同意書も持参）、検査データ、レントゲンフィルム等の資料をご持参いただき、正面玄関総合受付窓口へお越しください。
7. 相談終了後、お会計をしていただき、資料をご返却いたします。
8. 担当医から紹介元医療機関へ返書を作成し、郵送いたします。

両立支援相談窓口

“病気になっても働きたい”

熊本労災病院は、悩みをお持ちの方と共に考え、サポートしていきます。

治療と仕事の両立支援って？

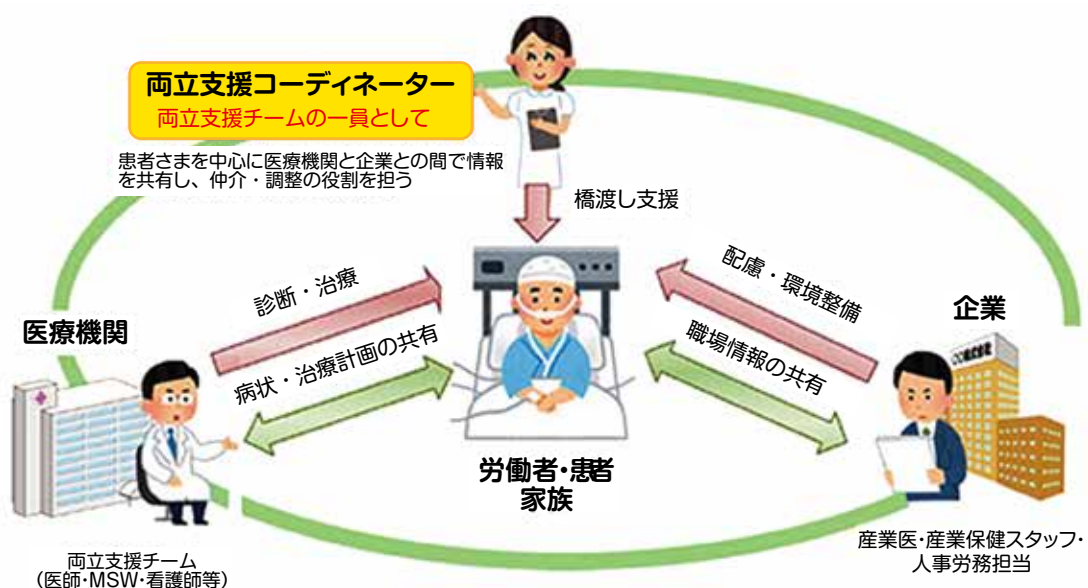
がんなどの病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。

当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成26年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

両立支援コーディネーターの役割は？

患者さまやご家族が治療と仕事の両立を希望する場合、通常は、患者さまご自身が「医療機関」と「職場」と調整する必要がありますが、「自分の病状や今後の治療について、的確に職場に伝えられるだろうか?」「どのような業務内容であれば治療をしながら行ってもよいのだろうか?」…など、様々な問題や不安があり、十分に職場等と連携、情報共有ができず、結果として仕事を継続できないといったことにつながる可能性があります。

当院では、両立支援コーディネーターが、患者さまやご家族のお悩みを聞き同意を得た上で、「患者さま」を中心として、「医療機関」(診断・治療の見通しなどの情報)と、「企業」(職場環境の情報、業務内容の配慮等)との3者間とをつなぎ、円滑な情報の共有と両立に向けた調整が行えるよう支援しています。



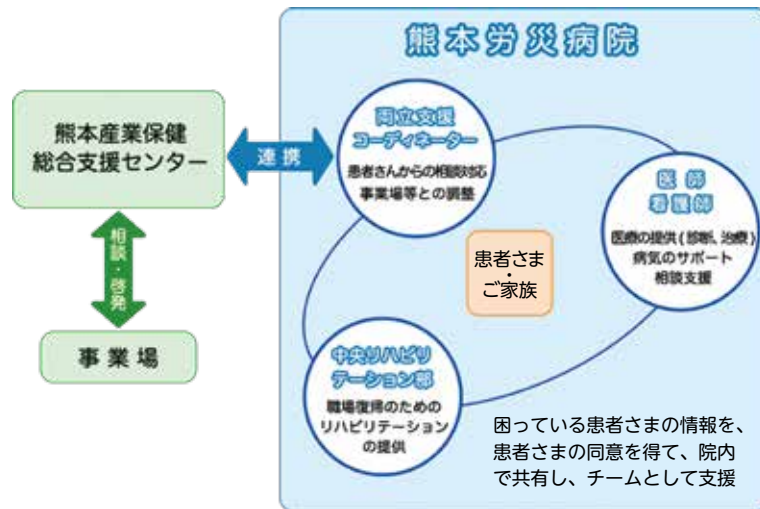
※ 当院の「両立支援コーディネーター」はMSW(社会福祉士)の資格を有しています。

熊本労災病院の両立支援体制は？

両立支援コーディネーターは、医師(主治医等)、看護師(がん相談員等)、リハビリテーション部(職場復帰のためのリハビリ等)と連携し、「熊本労災病院両立支援チーム」として対応します。

また、患者さまの同意を得た上で、熊本産業保健総合支援センターとも連携し、必要に応じて事業場との調整等も行います。

仕事との両立でお困りの方は、両立支援コーディネーターだけでなく、院内の医師や看護師、リハビリテーション技師等へもご相談できます。



両立支援相談窓口について

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携して、がんや長期療養で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を下記の時間帯で開設しています。お気軽にご相談ください。

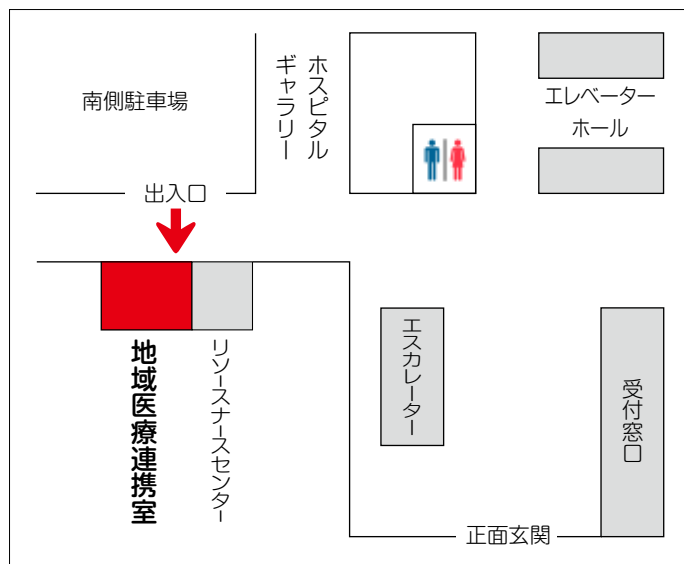
日時：平日 8:15 ~ 12:15

場所：地域医療連携室
(両立支援コーディネーター)

※窓口開設時間外でも相談は可能です。
※お電話での相談も可能です。

【お問合せ先】
熊本労災病院 治療就労両立支援部
(地域医療連携室)

TEL (0965) 33-4151



※ 両立支援に関する情報は以下のサイトでも紹介されています。

独立行政法人労働者健康安全機構ホームページ
<https://www.johas.go.jp/ryoritsumodel/tabid/1013/Default.aspx>

熊本産業保健総合支援センターホームページ
http://www.kumamotos.johas.go.jp/ryouritsu/ryouritsu_a.htm



独立行政法人 労働者健康安全機構

熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式

<http://www.kumamotoh.johas.go.jp>